

育振

2015年1月 33号



福岡歯科大学同窓会会誌

表紙（表）：ヨーロッパ補綴学会（トルコ）から
ブルーモスクの天井（イスタンブール、世界遺産：スルタンアフメット・ジャミイ）

表紙（裏）

A：カドキョイ地区のケバブ屋

B：学会会場

(Wyndham Istanbul Kalamis Marina Hotel) からの夜景

C：学会会場近くのクルーザー停泊所

D：学会会場からの夜景

E：カドキョイの公共フェリー

咬合修復学講座
冠橋義歯学分野

高江洲 雄(33期)



（カメラ）

カメラ：sony ボディ NEX-7

レンズ：SEL2470Z

A	B	
C	D	E

■ 目 次 ■

巻頭	言 稿	ご挨拶	福岡歯科大学同窓会会長	宮口 厳	1
挨拶		「同窓生が誇れる母校を目指す」	福岡学園理事長	田中 健藏	2
〃		「背振」発刊に寄せて	福岡歯科大学学長	北村 憲司	3
〃		福岡歯科大学・福岡医療短期大学地域連携センターの234日	地域連携センター教授	永井 淳	4
〃		定年退職にあたって	口腔腫瘍学分野教授	大関 悟	5
〃		「こころと身のよりどころ」	口腔健康科学分野教授	筒井 昭仁	6
学園紹介		福岡医療短期大学の紹介	福岡医療短期大学教授	廣瀬 武尚	8
誌上講座		乳歯の外傷	成育小児歯科学分野講師	馬場 篤子	10
私の臨床		総合病院・医学部附属病院におけるオーラルメディシンの役割	総合東京病院歯科口腔外科口腔がんセンター	上野 蘭美	18
福岡歯科大学同窓会		役員名簿（本部役員、地区会会長、府県・学内同窓会各会長・評議員）			27
学会報告		EPA ヨーロッパ補綴学会（トルコ）を終えて	冠橋義歯学分野	高江洲 雄	32
〃		第56回歯科基礎医学会学術大会・総会を終えて	細胞生理学分野	福島 秀文	34
〃		第24回特定非営利活動法人日本顎変形症学会総会・学術大会を終えて	矯正歯科学分野	中富 佑香	35
学内同窓会だより		学内同窓会会長就任挨拶「絆」	学内同窓会会長	香川 豊宏	36
地区会だより		会長就任のご挨拶	福岡県地区会会長	中 四良	37
〃		九州地区会会長就任のご挨拶	九州地区会会長	山田 俊介	38
〃		中国地区同窓会の取り組みと活躍中の同窓生に期待	中国地区会会長	深井 修一	39
〃		近畿地区会会長の就任ご挨拶	近畿地区会会長	八木 隆史	40
〃		会長就任の御挨拶	中部地区会会長	伊藤 恒一	41
〃		関東地区同窓会	関東地区会会長	中野 裕次	42
府県同窓会だより		長崎県同窓会「歯ってん会」会長就任挨拶	長崎県同窓会会長	小川 豊久	43
〃		会長就任のご挨拶	大分県同窓会会長	長尾 威	44
〃		第67回九州歯科医学大会 in 宮崎	宮崎県同窓会副会長	崎山 長司	45
同窓生トーク		1期生卒後35周年記念祝賀会	山口県開業	佐々木 猛	47
〃		福岡歯科大学6期生卒後30周年記念同窓会 パート2	東京都開業	中野 裕次	49
〃		福岡歯科大学第16期同窓会20周年記念特別講演会・祝賀会	福岡市開業	古田 修一	51
親子で頑張る同窓生		親子でお世話になりました	宮坂圭太／彩花		52
〃		My way and our ways	今井富実生／実喜生		53
〃		娘、そしてこれから卒業される皆さんへ～贈る言葉として～	山鹿茂彦／多紀		54
〃		あっという間の三十数年	塩次稔浩／将平		55
〃		「感謝」	近藤英紀／光		56
OB会だより		福岡歯科大学弓道部OB会近況報告	弓道部OB会会長	村田 淳一	57
学園通信		「福岡学園はいま」	福岡歯科大学事務局 企画課		58
〃		健康まるごと福岡学園第40回「田の歯科祭」	実行委員長	黒木 翔太	65
昇格者・新任者紹介					67
学位取得者紹介					68
本部報告		平成25年度福岡歯科大学同窓会第36回定時総会並びに大久保満男先生特別講演会・懇親会	持山 達郎		72
〃		平成25年度九州5大学歯学部同窓会連絡協議会	小柳 進祐		73
〃		12校会議並びに日歯会長時局講演会	持山 達郎		73
〃		第61回全国歯科大学同窓・校友会懇話会報告	馬場 篤子		74
〃		平成26年同窓生対象オープンキャンパス開催	小柳 進祐		75
〃		第30回全国歯科大学同窓会・校友会学術担当者連絡会	重松 久幹		76
〃		2014年度福岡歯科大学同窓会主催臨床スキルアップセミナー報告	葛西 秀夫		77
〃		ご逝去のお知らせ			78
〃		会長・監事選挙報告			78
会務報告					79
会計報告					83
福岡歯科大学同窓会会則・諸規則					86
編集後記			三箇 正賢、廣瀬 武尚		101

「表紙題字：故 松本洋一名誉学長 書」

ご 挨拶



福岡歯科大学同窓会

会 長 宮 口 巖

福岡歯科大学同窓会会誌「背振」33号の発刊にあたりご挨拶を申し上げます。全国の同窓生の皆様におかれましては、常日頃より本会の会務運営に温かいご支援をいただいておりますことをまずは感謝申し上げます。

皆様、すでにご存知のことと思いますが本学園の役員、評議員の改選が行われ田中健藏理事長が再任されました。期間は平成29年8月2日までの3年間です。本同窓会より評議員として高橋裕顧問、武井俊哉副会長、持山達郎専務と私が理事、評議員として選出されました。学園の発展のため今後とも協力していく所存ですので、皆様のご支援を合わせてよろしく願いいたします。特に平成28年10月21～23日に3日間の日程で第23回日本歯科医学会総会が、本学を主管校として博多の地で開催されます。九州での開催は初めてのことです。母校の名誉のため学会が盛大となるため同窓生の皆様が参加協力していくことが求められます。ご理解のほどよろしく願います。

さて、現在大学が抱える問題は入学定員の充足と歯科医師国家試験の合格率低迷の問題であると思います。定員問題は一時の定員割れはなくなり改善の兆しが見えますが、国家試験につきましては、平成26年で3,200名中合格者2,025名という厳しい現実に対し、日本歯科医師会から1,500名程度の合格者がいれば良いと言う発言がありました。文科省として

も歯科医師過剰問題については国として何らかの関与をしていくとの考えが示されたように、ますます解決が困難な状況となっております。この問題に対し本学においては「教育支援・教学 IR 室」を新設し同窓生の内田竜司先生が准教授として学生の学力向上に貢献されることとなりますが、すぐに良い結果が出ないことが予想されます。北村学長始め学生教育に携わる教職員の先生方におかれましては、是非、新たな時代を担う歯科医師の育成のため引き続きご指導とご鞭撻を賜りたいと思います。

現在、同窓会においては先の同窓会会則・諸規則改正において認めていただいた各地区会会長の指導力のもと、組織力の向上を目指し、緊密な懇親と懇談が行われています。各地域において、歯科医師会の中で重要な職につき、その活動に貢献され、指導力を発揮される同窓の先生方が多くなり、その議論も高いレベルとなり後輩のよき道標となられています。頼もしく頼りがいのある先輩がいることは組織の財産であります。今後ともさらなるご活躍を期待するところです。

本部同窓会としても母校に対して物心両面にわたる協力を惜しまず、その発展に寄与し、さらに会員の皆様のご期待にこたえられるように精進していく所存です。

会員の皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。重ねてのご支援をお願いして、ご挨拶といたします。

『同窓生が誇れる母校を目指す』



福岡学園
理事長 田中 健藏

同窓生の皆様には、平素より母校の発展のためご理解と一方ならぬご支援を賜り、心から御礼申し上げます。

本学は「教養と良識を備えた有能な歯科医師を育成することを目的とし、社会福祉に貢献すると共に歯科医学の進展に寄与する」という大学の使命に基づき、4,000名を超える多くの同窓生を輩出できたことを大変嬉しく思います。

現在の大学を取り巻く環境は、年々厳しさを増し、歯科医師需給問題の他、口腔保健管理の重要性が社会に認識されるなか、いかに社会貢献をしていくか、また、本学の提唱する「口腔医学」の学問体系の確立・育成など、たくさんの課題に直面しております。このような状況のなか、本学でもいろいろな改革に取り組んでおります。

学内的には、今年5月から教育支援体制を拡充し、国家試験合格率の向上と低学年の教育支援等に対応するための活動をはじめ、9月には「教育支援・教学IR室」を新設し、教育に関するデータ収集、解析及びエビデンスに基づく改善提案等に取り組んでいます。

学外的には、大学のグローバル化に伴い、地域や行政および医療・保健・福祉関係機関等との連携を深め、健康長寿社会の形成並びに地域社会の活性化を目的として昨年9月に設置した「福岡歯科大学・福岡医療短期大学地域連携センター」が、地域社会に溶け込み連携の輪を広げています。

この「教育支援・教学IR室」及び「福岡歯科大学・福岡医療短期大学地域連携センター」には、専

任の教員と職員を配置し、それぞれの業務に専念できる環境を作り、学生のため、地域のための活動を強化しています。

開院3年目を迎える博多駅前の「福岡歯科大学口腔医療センター」では、歯科医師や歯科衛生士の生涯研修、先端医療や最新の医療情報などの交換の場として、地域医療の向上にも努めております。

また、本学所有の干隈用地に社会福祉法人学会会が2016年1月に新たに「介護老人福祉施設サンシャインセンター」を開設することとなり、準備を進めております。

このほか2年後の2016年秋には第23回日本歯科医学会学術大会（総会）（4年毎）を本学が主幹校として、初めて福岡の地で開催することになりました。この大会を成功させるためには、歯科医師会及び同窓会の皆様のご理解とご尽力が必要不可欠です。福岡で開催して良かったと言っただけの総会にしたいと思っていますので、どうぞご協力の程、よろしく申し上げます。

また、本学が提唱する「口腔医学」は、患者中心の医療を目的とし、医学教育と歯学教育の一元化を目指すものです。そのために、まず口腔医学（口腔科）の学問体系を確立し、次いで口腔医学を医療の一専門分野と位置付けることが必要と思います。今後も本学は「口腔医学」を提唱するフロントランナーとして活動を進めていきたいと思っています。超高齢化社会を迎えている我が国にとって、患者中心の医療を目指すことは、医療人として当然のことではないでしょうか。

このように確固としたポリシーの下、さまざまな改革にも取り組んでおり、同窓生が誇れる母校を目指して、今後とも法人役員、教職員が一丸となって福岡学園及び福岡歯科大学の更なる発展のために努力していきたいと思っています。

最後になりましたが、同窓生の皆様ご健康で活躍されることを心から念じるとともに、母校へのご支援とご協力をいただくことに期待しております。

「背振」 発刊に寄せて



福岡歯科大学
学長 北村 憲司

福岡歯科大学同窓会の皆様におかれましては、日常診療を始め学校保健、地域見守り、学生・従業員教育等、地域医療において多方面の活動でお忙しい毎日をお過ごしのことと思います。今年も、大型台風、御嶽山の噴火等、想像を超える現象が起き、多くの地域で重篤な被害が生じました。幸い、今年は大学に影響するようなものはございませんでしたが、同窓の皆様の中には被害を受けられた方もおられるのではないかと心配をしております。災害に遭われた地域の皆様には心よりお見舞い申し上げます。

さて、入学者の確保については、今年度、一般入試について選抜が可能となる志願者増が見られ、一時の危機的状況から脱することができそうにも思われます。しかし、こうした受験者の歯学部回帰が、高校の課程変更による一時的なものなのか、医学部志向が一段落した結果なのかの判断が難しく、その見極めにはもう少し時間が必要かと思えます。在校生の教育は、この5年間の志願者全入の結果、留級率が大きく上がっています。学則変更、学年生の導入などの制度的な改善とともに、学力向上を図るため、高校の先生や基礎系の先生の応援を受け、5月から留級学生を対象とした補習を開始しました。併せて、AO入試・推薦入試による入学者に対する入学前教育の充実を図り、次年度は、一部の入学生も対象として、補習を行う計画を建てています。

国家試験の結果についても、同窓会の皆様には多大なご心配をおかけしております。今年度の合格率は50%強となり、開学以来最低の合格率に教員・学生共ショックを受けております。同窓会の皆様からも多くのご叱責、ご助言を受け、最重要課題として改善に取り組んでおります。今後、少なくとも5年、長い場合は10年以上に渡って、同様な状況が続

くことが予想されることを受け、本年、教育支援室を設置し、教育成果の可視化と可視化による目標到達に関する科学的予測精度の向上を図ることといたしました。その後、この取組は文部科学省の「大学教育再生加速支援事業」に選定され、ディプロマポリシー到達度の可視化、評価の平準化、学生の主体的な学修の促進という、より大きな観点から取り組むこととなり、教育支援室を廃し、新たに「教育支援・教学IR室」を設置いたしました。「教育支援・教学IR室」では、これまでの試験等の成績を分析し、その結果を学生・教員にフィードバックする等の教育の改善に向けた取り組みを開始いたしました。

昨年発足いたしました「福岡歯科大学・福岡医療短期大学地域連携センター」は3月に歯周病学分野の永井教授を専任教員として迎え、本格的に活動を開始いたしました。内藤教授を中心とする早良区高齢者居住地域での健診、糸島歯科医師会、朝倉歯科医師会との定期協議、大学所在自治会への参加、公開講座・出前講義等の戦略的展開等、その活動の枠を広げています。特に、福西会病院との医歯連携は内藤教授、森田准教授を中心に順調に進展しており、今後、地域の歯科医師会会員との協力連携を具体的に模索する段階に入りました。大学、地域中核病院、開業歯科医を結ぶ医療連携を確立することによって、地域、医師、歯科医師から信頼される医療連携モデルを提供したいと考えています。

さて、この1年、大学では長年本学の教育にご尽力くださった病態構造学分野の谷口教授と口腔医療センターの勝山教授が退職されました。また、代わって、長崎大学から歯周病を専門とする金子教授（長崎大学）、周術期口腔ケアの専門家である森田准教授（九州大学）を迎えました。本学卒業生では川口助教が講師に昇進し、2名の大学院生がアメリカで研修を受けています。今後も、本学の将来を託すことのできる若い人材が続くことが期待され、こうした能力の高い人材を、これからは是非ご支援くださいますようお願いいたします。

最後に、私事ではございますが、任期満了に伴い1月末をもって学長を退任することになりました。今後は、置かれた立場で同窓生の皆様に誇りとされる大学の確立に尽くしたいと思います。これまでのご指導、ご鞭撻に深く感謝し、ご挨拶とさせていただきます。

福岡歯科大学・福岡医療短期大学 地域連携センターの234日



地域連携センター
教授 永井 淳

本年3月1日付けで「地域連携センター」教授を拝命いたしました。宮口巖会長、田中健藏理事長、北村憲司学長を始め、関係の諸先生方に深く感謝申し上げます。

「地域連携センター」（以下センターと略）の目標は、本誌32号に北村センター長が紹介された通りで、「連携」の意味するところは「生涯研修」や「地域啓発」まで含むような広いものです。

日本の歯科医院の数はコンビニ店舗数の1.5倍なのだそうです。小地域単位で分布を調べると、コンビニが、大都市中心部のような人口密度の高い「儲かる」地域に集中するのに対して、それ以外の地域では歯科医院の数がコンビニの数に勝ります。もちろん、過疎地域にはいずれも存在しません。

本年6月に成立した「医療介護総合確保法」は、消費税増税の増収分を活用して、国民の医療と介護を確保するための法律です。神田晋爾先生には、同窓会代表としてセンターの運営会議にご参加いただき、法案審議中から情報をご提供いただいております。これまで別々の法律で規定してきた「医療」と「介護」を統合する画期的な法律であると見る向きもあります。コンビニ店舗にケアマネジャーを常駐させる試みも見られ、「総合確保法」成立を機に、地域医療介護システムへの参入を狙っているところもありそうです。しかし、コンビニでの買い物にはお遣いが頼めても、歯の治療を代理で受けてもらうわけにはまいりません。行動範囲が徐々に縮小していく高齢者の方々に向けたケアマネ常駐コンビニ店舗の配置を考えると、結局、「現状の分布ではとてもカバーできないし、既存の歯科医院でさえ足りない」こととなります。

そのことをマスコミの方々に理解してもらってエビデンスを得ることがセンターの最終目的ではありませんが、取り組みの一つとして、医療過疎地域の探索とその住民の方への支援を手がけております。

山間部の過疎地域で、高齢者の方々が「孤立」すると、医療機関に通院することの難しい「医療難民」になります。たとえば福岡市早良区板屋地区は、高齢化が極端に進み、内藤徹教授（総合歯科学講座高齢者歯科学分野）が住民健康診断の先鞭をつけられた地域です。

都市部にも高齢化地区があります。昭和50年代の高度成長期に建てられた団地高層階にお住まいの方が高齢化し、「医療難民」化されていないか心配しております。ただし、エレベーター設備、歯科治療のニーズ、通院可能性などの実態調査は今年度以降の課題です。

日本の高齢化は世界一のレベルと言われますが、板屋地区（や団地の高層階）のそれは、日本の中でも最先端です。したがって、今後超高齢化にともなって出てくる問題を、地球上で初めて体験するのは私たちであることとなります。これらの問題を発見し、解決法を考えることは、きっと未来の人類の課題を解決するための鍵になるに違いありません。

取り組みの二つ目は急性期病院への往診です。本年5月に着任された森田浩光准教授（総合歯科学講座総合歯科学分野）が、内藤教授とともに福西会病院で周術期口腔機能管理を担当されるようになりました。福西会病院院長の川原克信先生からは「福岡歯科大学の先生が来て口腔ケアをしてくださるおかげで、呼吸器外科手術後の口腔関連合併症を見かけなくなった。素晴らしいことである。」と、お褒めの言葉をいただいております。次世代の口腔医療のニーズに応えられるエキスパートを育成し、往診チームあるいは学生教育の指導者としてご活躍いただけるようにお膳立てしていくこともセンターの重要なミッションです。

取り組みの三つ目は、地域医療の最前線で日々闘っておられる先生方を後方から支援する体制作りです。急性期病院から慢性期病棟への転院、あるいは在宅療養への移行にあたり、地域の歯科医の先生方と協力連携してシームレスな口腔医療・介護を提供できるようにするには、「口腔医療介護総合支援ネットワーク」が必要です。連携医療機関データベースを整備し、同窓会の先生方の卒後セミナー受講歴や習熟度などの知識技能のみならず、車いす対応可能な診療所設備かどうかといった観点からも最適の施設を瞬時に検索できるようにすることが急務と考えます。

今後とも皆様のお知恵を拝借しながら活動を進めてまいりたいと思います。どうかご指導ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

定年退職にあたって



口腔・顎顔面外科学講座
口腔腫瘍学分野

教授 大関 悟

福岡歯科大学同窓会の皆様には、ご清栄にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

私は平成11年1月1日付けで福岡歯科大学口腔外科学第1講座教授を拝命し、爾来16年と3か月間、福岡歯科大学で教育、診療、研究に従事して参りましたが、平成27年3月末をもって定年退職となります。この間、同窓会の皆様には私個人とともに口腔外科教室が大変お世話になりました。退職のご挨拶とともに心よりお礼を申し上げます。

私が赴任しました時期は丁度教員組織の改組が行われ、これまで第1、第2の2つに分かれていた口腔外科学講座が、平成13年4月に口腔・顎顔面外科学講座として大講座制に移行し、私は口腔腫瘍学分野の教授となりました。口腔癌を専門にしていたので、「口腔腫瘍学分野」の名称を大変誇りに感じていました。もう1つの分野は旧第2講座の顎顔面機能・形態学の流れを汲む口腔外科学分野で、本田武司先生が教授でした。この時期は日本全国の大学で大講座制への統廃合が進められていましたが、結果的に大講座として成功したのは、福歯大だけだったように思います。特に口腔・顎顔面外科学講座では診療はもとより大学院生や医員を含む教室人事や部屋の配置、教室予算、研究を全く一緒に効率よく行うことができました。これは本田教授とその後任の池邊教授のご理解とご協力によるものと感謝しております。

福歯大に赴任して最も戸惑ったのは学生教育、特に6年生の国家試験対策でした。それまでは学生の講義よりも診療が第一優先であり、国試の問題を全く見たこともありませんでした。そこでまず自分自身が国家試験の過去問を徹底して勉強をしました。また、如何に口腔外科学を学生に理解し興味を持ってもらうかを考えて、プリントやスライドさらには

ビデオを駆使、工夫して講義の準備をしました。そうしているうちに、大学生活での教育・診療・研究のなかでそのレスポンスや成果が最も端的に現れるのが教育であることが分かりました。成績が振るわず、進級・卒業に四苦八苦して精神的にも落ち込んでいた学生も、色々と話し合っているうちに、ちょっとしたきっかけで立ち直って卒試、国試をクリアし、活き活きとした立派な歯科医師、社会人、家庭人になっているのを見るにつけ、教育の楽しさ、喜びを実感するようになりました。大学では今年度から教育方法の工夫・改善に取り組み、教育効果の高い授業を実践した教員を表彰する「福岡歯科大学最優秀教育改善賞」が設けられましたが、思いもかけずその第1回目の受賞者に選ばれました。これまでの自分の講義を振り返ってみると、このような賞をいただくことに戸惑いと面映さを感じていません。また、来年にはリタイアする自分に賞なんて不要なのにも思いましたが、賞の決定には学生からの評価がかなり考慮されていると聞き、大変嬉しく思い、ありがたく光栄なことと感謝しています。いただいた立派な表彰盾は福岡歯科大学に16年間在籍した証として自室に飾っておきたいと思えます。

学生の部活動では山口県人会の関係で、松本光生前矯正歯科学教授の後任として空手道部の部長に就任しました。もちろん空手道は全く経験がありませんでしたが、50の手習いと称して朝練や合宿に参加し、学生と一緒にランニングや筋トレ、組み手や型の練習をしたのも楽しい思い出となりました。ただ部員が年々少なくなっているのが残念で気がかりです。

診療や研究では口腔癌一筋でした。私が赴任した時には口腔癌の患者さんが少なかったのですが、同窓会、同門会、口腔外科研究会の皆様のご支援で口腔癌の治療施設として充実してきましたので心置きなく池邊教授に引き継ぐことが出来ます。同窓会の皆様には、今後とも口腔外科のご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

大学では口腔医学の推進とともに年々厳しくなる歯科医師国家試験の対応が喫緊の問題となっています。大学の教職員と学生、同窓会が一致団結してこの難局を乗り越えて、口腔医学を基盤とした口腔歯学教育・診療のフロントランナーとして日本の歯学界をリードされることを心よりお祈りしつつ、退任のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

『こころと身のよりどころ』



口腔保健学講座
口腔健康科学分野
教授 筒井 昭仁

1988年4月に新潟大学から福岡歯科大学予防歯科学講座に赴任し27年。この度、定年退職を迎えます。

地域保健を主な仕事にしておりました関係上、歯科医師会あるいは行政等からの依頼で外に出かけることが多く、先々で同窓生のみなさまにはお世話になりました。同時に、診療室で行う予防歯科、地域で行う予防活動と、同窓の先生方の御活躍の様子を知ることでも嬉しく思っております。研究や仕事については貴誌「背振」の32号に書かせていただきましたので、今回は私ごとを書かせていただきます。

近年の私の「こころと身のよりどころ」は、食と飲（呑む）、キャンプ・焚き火と山登り、ジャズ、そして図書館、自転車です。

食と飲（呑む）

各地で美味しいものを食べ・呑ませていただきました。ある地の同窓の方が“あれだけ飲ませたのに酔わない。筒井は面白くないやつだ”と言っていたという話を聞いたりもしました。すみませんでした。でも、ちゃんと酔っているんです。呑むときはともかく、次の日が大変なのです。宴会は仕事が終わってからが有り難かったです。

キャンプ・焚き火と山登り

1999年のカナダ・ブリティッシュコロンビア大学ヘルスプロモーション研究所に留学した際、8月に同研究所勤務のビルのRV車にキャンプ道具一式を

積み込んで、バンクーバーからカナディアン・ロッキーに出かけました。メンバーはビルと韓国から留学中の栄養士と私の高校生の娘の計4人で、1週間、テント1つで生活しました。カナダのキャンプ場は、水洗トイレ、温水シャワーが完備されており、整備状況の良さにはびっくりでした。バンクーバーからカナディアン・ロッキーまで往復2,000kmを超える旅程でしたが、途中でサクランボ狩りや、水着入浴の温泉、急流ラフティングを楽しみました。ロッキーでは、バンフのキャンプ場を拠点に、アバカス氷河、ジャスパーなどを巡り、エメラルド色の湖や山歩きを堪能しました。そして毎夜の焚き火を囲んでの日本、カナダ、韓国のヘルスプロモーション話は良い思い出になりました。帰国後、即、テント、タープを買い、毎年、九重や由布岳、韓国岳等への登山、キャンプと焚き火、そして温泉を楽しんでいます。

ジャズ

九州歯科大学時代、16人編成のフルバンド Blue Notes でトランペットを吹いていました（写真）。ヤマハのライトミュージックコンテストで、九州地区大会を勝ち抜き、当時のチーリップと一緒に三重県の合歓の郷まで全国大会に出かけたこともありました。大学卒業と同時に楽器も手放し、離れていましたが、福岡に戻ってきて、大名の某居酒屋で楽器を持ったグループに出会い、30数年ぶりにトランペット吹きが復活しました。今では Swing Kids というフルバンドで、毎週土曜日夕方の練習、その後の酒会を楽しんでいます。年に数回、音楽祭やお祭



りで、楽しく演奏しています。

自転車

この10年くらい通勤に使っています。車道の左端をヘルメットをかぶり、かなりのスピードで走っています。20数分の百道浜までの帰りの自転車乗りは固まってしまった仕事頭を解放してくれます。2回ほど車にひかれ、2回目は自転車は全壊、救急車も初体験しました。半年ほどの整骨院通いで身体は元通りになり、自転車は保険でワンランク上に変身しました。

図書館

読書はもちろん、図書館という知的財産の中に身を置いていることが好きなんです。ブリティッシュコロンビア大学でも、米国の国立衛生研究所（NIH）留学でもほぼ毎日図書館でした。NIHのbuilding 10の図書館には水道水フロリデーションの準備段階からの古い文献が所蔵されており、詳細な情報を得ることができました。持ち帰った大量の文献はPDF化して利用しています。今は、毎週日曜日の午後、福岡市総合図書館で過ごしています。時々、勉強中の本学6年生にも会うことがあります。

4月からは時々田舎の畑の世話をしながら、自転車で図書館、また晴れの日にはキャンプと、晴耕雨読の生活となります。大学のみなさま、同窓のみなさま、お仕事大変かと思います。ストレス解消に、ほどよい趣味をみつけて楽しんで下さい。

おげんきで!!



学園紹介

福岡医療短期大学の紹介



福岡医療短期大学
教授 廣瀬 武尚（4期）

同窓の皆さんこんにちは。福岡歯科大学のグループ校の福岡医療短期大学歯科衛生学科について紹介いたします。現在、短大には升井一朗先生（1期）、松尾忠行先生（13期）、力丸哲也先生（14期）、後藤（藤）加寿子先生（21期）、貴島聡子先生（20期）、私（廣瀬武尚：4期）の6名の同窓が勤務しています。毎日、1年から3年、及び専攻科の講義や実習が行われ、高校訪問やガイダンスなど歯科衛生士の教員と共に活動しています。

本学は、昭和56年（1981年）福岡歯科大学附属歯科衛生専門学校（2年制）として、福岡市早良区の福岡歯科大学と同じキャンパスに開校しました。福岡歯科大学をグループ校として、地域社会の医療に貢献できる人材の育成を目指して歯科衛生士の教育に当たってきました。平成9年（1997年）には、21世紀に向けて、福岡医療短期大学歯科衛生学科として、改組しました。さらに、平成11年（1999年）には、専門性の高い歯科衛生士の養成を目指して、専攻科（1年制）を開設しました。

平成15年（2003年）には、医療の高度化、また高齢社会に向けて対応できる歯科衛生士の育成をめざして、3年制に移行しました。

平成20年（2008年）には、大学評価・学位授与機構による認定専攻科（口腔保健学）を開設しました。これは、歯科衛生士として短期大学の中で日本初の4年制の学位が取得できるコースです。専攻科では、福岡歯科大学医科歯科総合病院において、より勉強したい臨床科において実地研修を行うとともに、研究論文を作成し、大学評価・学位授与機構に

論文の提出し、診査・試験に合格し、4年制の学位を目指しています。

本学の特徴は、福岡歯科大学、医科歯科総合病院、2つの老人施設、博多駅前に開設された口腔医療センターの施設とともに、教養科目、解剖学、生理学、病理学、薬理学、微生物学など歯科基礎科目や臨床科目において、各専門の教員から教育を受けられるところにあります。

歯科衛生士の主な仕事は、歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導ですが、21世紀の超高齢社会においては、高齢者への対応が必要となります。これに対して本学では、口腔介護を歯科衛生士の第4の柱として考え、取り組んでいます。一般的には口腔ケアとして認知されつつありますが、単に口腔内を清潔に保つだけでなく、口腔機能にも注目し、その機能の維持・改善に向けた取り組みが重要と考えています。これにより、誤嚥性肺炎のリスクを低減させるとともに、適切な栄養摂取によって免疫系をアップすることにより健康を維持増進することが出来ます。

本学では、1年・2年次のカリキュラムの中に、全身と口腔の健康との関係、加齢と口腔の関係、看護や介護など歯科衛生士として知っておくべき知識や基礎的な技術の習得を目指しています。2年次には実践的な介護技術の習得のため、介護職員初任者研修（旧：ペルパー2級）を行っています。これは、訪問診療や介護施設等における活動において、また介護職を含めた多職種との連携においても、重要な研修と位置付けています。

3年次の臨床実習では、キャンパス内のサンシャインシティ（介護老人保健施設）とサンシャインプラザ（介護老人福祉施設）において、口腔介護の実習を行います。施設実習では、介護職員の有資格としての知識と技術を生かし、さらに入所者の口腔ケアや口腔機能向上のための実習を行っています。施設内では、入所者のアセスメントと評価を行い、ケアプランを作成し、その実施と再評価を行っています。また集団における指導として、レクリエーションを企画・実施しています。施設では、福岡歯科大学の歯学部学生、本保健福祉学科の学生や他大学

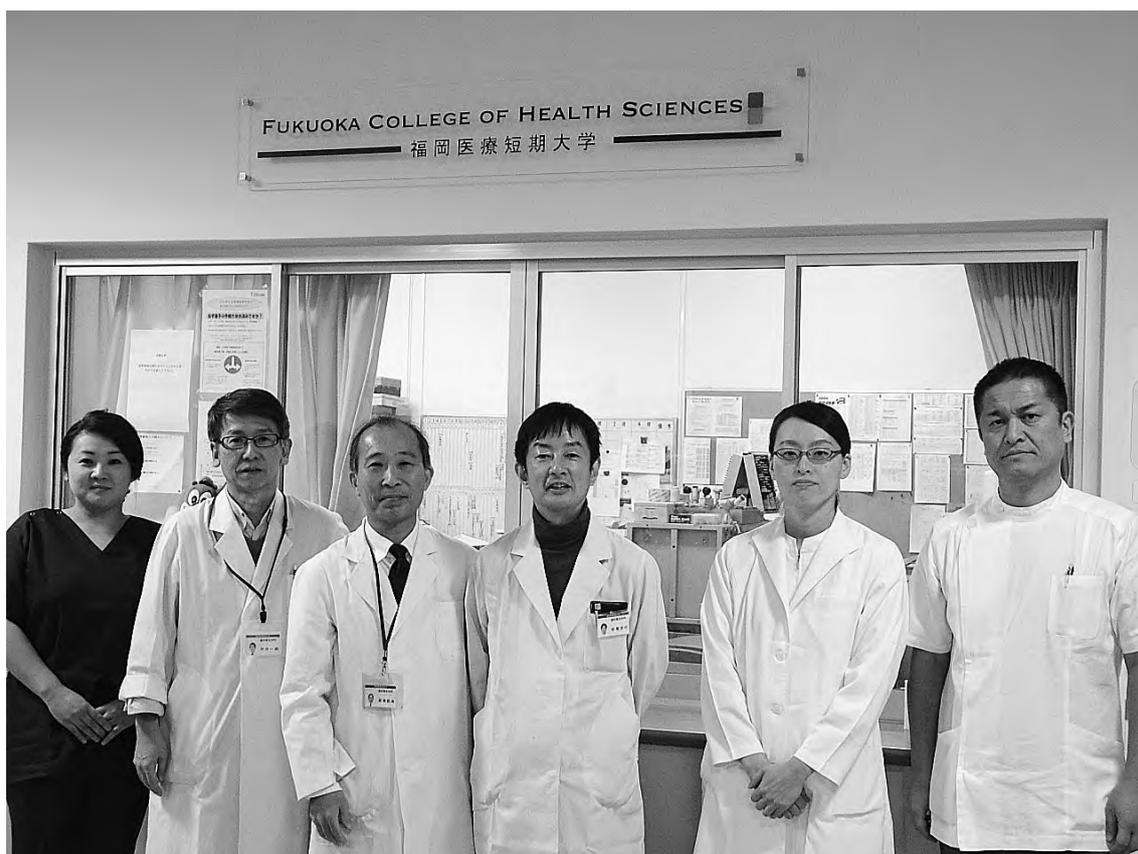
の看護学生など実習をしており、学生の時から将来の多職種連携を想定した研修の場でもあります。

本学を卒業し、さらにステップアップを目指す学生もいます。一つは、福岡歯科大学の2年生に編入学し、歯科医師を目指す方法と、本学専攻科に進学し、自分のより勉強したい診療科について、医科歯科総合病院で研修を行うとともに、4年制の学位を取得するコースがあります。歯科衛生士の免許を取得したうえで臨床実地を行うため、歯科医師の研修医とともにより実践的な研修を受けることができます。また研修の中で、口腔介護をより理解し実践できるよう、本学認定の口腔介護推進歯科衛生士の資格を取得することができます。口腔を適切に管理することにより、糖尿病のリスク軽減、血管の閉塞に

よる脳梗塞や心臓疾患を予防軽減したり、低体重児出産の予防など全身の健康と密接にかかわっていることが分かってきており、少子高齢化の社会において、歯科衛生士の役割は一層重要なものとなってきています。また、現在、医科歯科連携において、周術期の口腔管理にスポットが当たっています。これは癌や移植の手術の前後にSRPなどを含めた口腔管理を行うことにより、術後の発熱等が減少し入院期間が短縮されるなどの効果が得られるためです。

このように歯科衛生士の活躍する場が広がり、その重要性が増してきています。

社会のニーズに応え、地域医療に貢献できる歯科衛生士の養成に努め、卒業後も卒後教育や就職など息の長い支援をしていきたいと考えています。



乳歯の外傷



福岡歯科大学 成長発達歯学講座 成育小児歯科学分野
講師 馬場 篤子 (12期)

〈はじめに〉

乳歯の外傷の発現頻度は1歳半から2歳半の頃が最も多いと言われている。このような低年齢児が受傷して来院した場合、うまく協力が得られないため、保存可能な歯であっても安易に抜去され、そのまま放置されて、将来後継永久歯の萌出スペース不足を招来することもある。また、歯の外傷で来院する小児患者の多くは急患として来院する場合がほとんどである。外傷により患児、保護者とも冷静さを失い、なかには十分に問診がとれないほど子どもの怪我で気が動転している母親もいる。したがって、普段からの外傷に対する十分な知識を持ち、術者やスタッフの冷静な対応や、診療室の態勢を整えておくことが重要であると思われる。さらに、情報の記録は、保険会社からの必要書類等の要求や、法医学的な面からも大切であるので、診査結果、処置内容、患者への説明内容等は、詳細かつ正確に診療録に記載し、処置前、処置後の口腔内写真を保存しておくことも重要事項であることを忘れてはならない。

〈乳歯外傷の分類とその処置〉

1) 歯冠破折

(1) エナメル質破折

破折が小さい場合：辺縁を研磨し、形態を整える。

破折が大きい場合：破折片を持参した場合は接着性レジンを用いて再付着する。

破折片がない場合：接着性レジンを用いて歯冠修

復を行う。

(2) 象牙質破折

局所麻酔後、破折面を清掃する。間接覆髓を行いコンポジットレジンによる歯冠修復を行う。

(3) 露髄を認める破折

受傷後数時間以内で生活歯なら局所麻酔下にて直接覆髓または生活歯髓切断後、コンポジットレジンによる歯冠修復を行う。また露髄面が大きく、受傷後長時間が経過したため失活している場合、感染根管処置を行う。

また、歯頸部での横破折や歯冠中央部での縦破折、歯冠修復が不可能な破折の場合は抜歯を行う(図1)。

2) 歯根破折

(1) 根尖側 1/3：動揺を認める場合は局所麻酔下にて暫間固定を行う。生理的動揺の範囲内の場合には経過観察とする。根尖は自然に吸収される。

(2) 根中央 1/3：動揺を認めるので局所麻酔下にて8～16週間の暫間固定を行う(図2)。しかし予後不良の場合は抜歯の適応となる。

(3) 歯頸側 1/3：抜歯の適応となる。局所麻酔下にて行う(図3)。

3) 振盪：病的動揺や転位は認められない場合をいう。この場合受傷後の経過観察が必要である。受傷後、歯冠の変色を認めることがある。この変色は歯冠口蓋側面に顕著に現れるため、慎重な診査が必要である。変色が改善されなければ、電気歯

髓診などで歯髓の生死を確認し、必要に応じて歯内治療へと移行する。

4) **亜脱臼**：病的動揺は認められるが転位を併わない場合をいう。動揺がある場合は局所麻酔下にて10日～2週間の暫間固定を行う（図4）。

5) 不完全脱臼：

- ① **陥入**：再萌出を期待してまず経過観察を行う（図5）。再萌出を認めない場合、形成中の後継永久歯歯胚を障害している場合や、転位が著しい場合は抜歯を行う。
- ② **挺出・転位**（図6・7）・捻転：局所麻酔下にて整復後約2週間程度の暫間固定を行う。

6) **完全脱臼**：従来、乳歯の再植は禁忌とされているが、後継永久歯への障害を注意深く考慮して局所麻酔下にて再植を行う。再植後の歯には生理的な動揺は与えつつ、約2週間程度副子による暫間固定を行う（図8）。しかし、脱落後長時間経過した歯は再植不可能である。従って小児義歯など保険装置の装着へと移行する（図9）。

7) **軟組織の損傷**：裂傷・挫傷・擦過傷に分類される。屋外での受傷の際、無痛状態で滅菌歯ブラシを用いて創部を十分に洗浄する。創が深い場合、死腔を作らないように縫合する。また、創の感染予防の目的で抗生剤の投与も行う（図10）。

〈受傷乳歯の予後〉

受傷歯のみならず、その両隣接歯や対合歯も同様に予後観察を行う。

- (1) **歯髓の変化**：歯冠の変色がみられる。①ピンクは歯髓充血②黄色は歯髓の石灰化③灰色は歯髓壊死を示すが、乳歯の変色は必ずしも失活というわけではなく、変色を認めても改善される場合もあるので、暫くは経過観察を行う（図11）。
- (2) **歯根吸収**：定期的なエックス線診査を行い、歯根に炎症性の外部吸収および内部吸収を認めた場合、直ちに水酸化カルシウム製剤による根管処置

を行う。しかし後継永久歯に悪影響を及ぼす場合は抜歯の適応となる。また、アンキローシスも同様とする。

- (3) **歯肉退縮**：受傷歯周囲の歯槽骨が吸収・欠損した場合に歯肉退縮を生じることがある。この場合、口腔内清掃を徹底し経過観察を行う。後継永久歯の萌出と共に歯肉の状態は改善される。もし、乳歯の動揺が強い場合は抜歯を行う。
- (4) **後継永久歯への影響**：後継永久歯に①エナメル質の白斑や黄斑②エナメル質、象牙質の減形成③歯冠や歯根の彎曲④歯根の発育不全⑤萌出異常などを認める場合があるため、後継永久歯が完成するまで定期的なエックス線診査を行う。

〈消炎処置と感染予防〉

消炎剤や抗菌薬の投与は、創傷の治癒を早めるのに重要な役割を果たす。しかし、必ず薬物アレルギーなどに関して問診を行っておく必要があることを忘れてはならない。また、年齢に応じて、服用しやすい味や剤形を選択する。

〈患児と保護者への注意事項〉

処置後に患児ならびに保護者に注意すべき事項は以下の通りである。

- 1) 今回行った処置内容の確認
- 2) 食事および日常生活に関する指導
- 3) 処方された薬剤に関する指導
- 4) 口腔内清掃法
- 5) 患歯の予後の予想と定期的観察の必要性
- 6) 緊急時の連絡事項

謝辞：ご指導ご鞭撻を賜りました福岡歯科大学名誉教授本川 渉先生にこの場をお借りして深く感謝の意を表します。

2歳1か月男児、歯冠破折症例

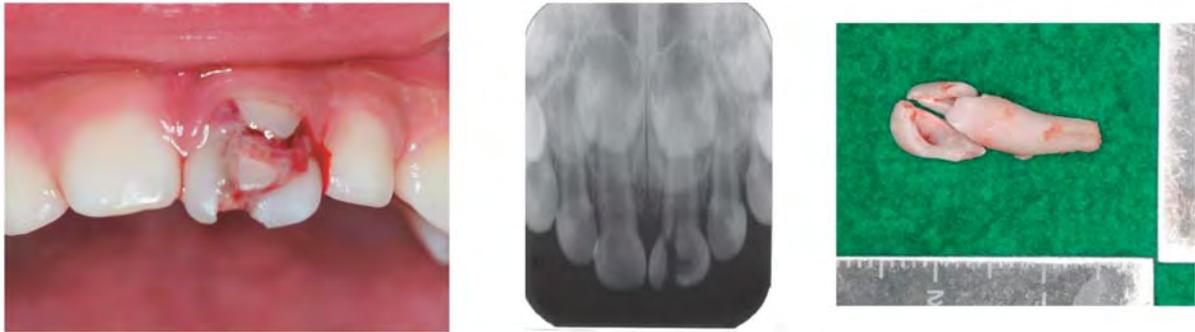


図1 自宅のソファから転落して、前歯打撲。翌日近医受診。紹介により来院となる。Aは歯冠破折を認め、保存不可能なため、抜歯となる。

3歳4か月男児、歯根破折症例



図2 3日前、自宅室内で転落し、前歯を打撲。近医より紹介来院。A|A 歯根中央部で破折を認め、動揺度M2であった。保護者が乳歯保存を希望されたので暫間固定を行った。受傷6か月後、経過良好である。変色は受傷2か月後に改善傾向を認めた。

2歳6か月男児、歯根破折症例



図3 5日前、室内で転倒し下顎前歯を打撲。受診前日にA歯冠がなくなっているのに気がつき来院となる。歯頸部歯根破折のため抜歯を行った。

2歳5か月男児、亜脱臼症例



図4 13日前、自宅で転倒し顔面を強打。左口角の裂傷を認めたため近医（外科）を受診し口角縫合処置を行った。その後、BAの動揺を認めたため近医（歯科）受診。治療困難なため当科紹介来院となる。2週間の暫間固定を行った後、Aの変色が強くなったため感染根管処置を行った。受傷6か月後、経過良好である。

2歳6か月男児、陥入症例



図5 公園の鉄棒に顔面を強打。前歯が脱落したと思い歯を捜すが見つからず来院。
 エックス線写真より A|A の陥入を認めた。受傷4か月には再萌出を認めた。受傷1年7か月後、A|A
 の歯髓腔に石灰化変性を認めるが、経過良好である。

4歳6か月女児、口蓋側転位症例



図6 公園で転倒し近医を受診。BA|の不完全脱臼を認めたため当科を紹介され来院となった。患歯は動揺を
 認めたため整復固定を行った。固定2週間後固定除去し以降経過観察を行った。受傷6年5か月後、2|1
 は異常を認めない。

1歳2か月女児、唇側転位症例



図7 自宅で転倒した際、机の角で下顎を強打。口腔内から出血するために当科を受診。歯肉の縫合と暫間固定を行い、現在経過観察中である。受傷6年3か月後、1にわずかなエナメル質減形成を認めるが、特に自覚症状もなく経過良好である。

3歳1か月男児、完全脱落症例

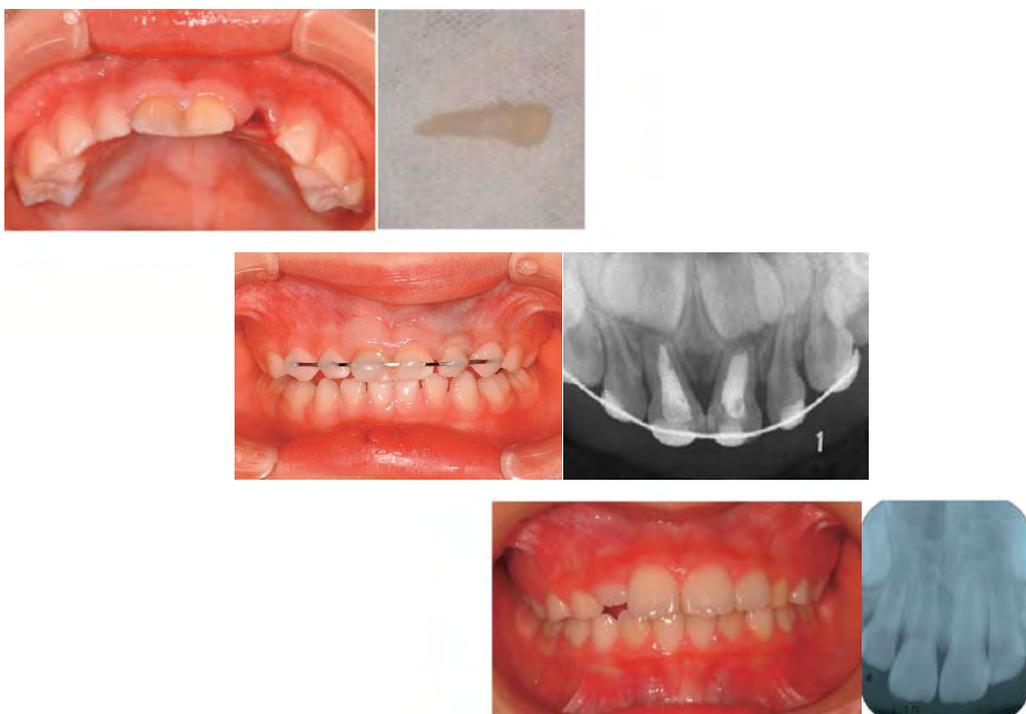


図8 保育園で転倒しブロックにて強打した際、歯が脱落したため当科受診。脱落歯Bを牛乳に保存し、受傷部を氷水で冷やしながらか来院。受傷後30分で再植。受傷3年6か月後、2に異常は認められない。

4歳11か月男児、完全脱落症例



図9 自宅で転倒し上顎前歯を打撲。脱落歯 (A|AB) を持参し口腔外科を受診。保存不可能と判断し再植は行われなかった。翌日、今後の管理を当科に紹介となったため、受傷3か月後に小児義歯を装着。

1歳7か月男児、軟組織損傷症例



図10 自宅の居間で転倒した際、机の角で下顎を強打。口腔内から出血するために近医を受診。治療困難なため当科を紹介来院。止血目的で下口唇を吸収性の糸を用いて縫合した。

6歳11か月男児、歯冠変色症例



図11 1か月前、自宅で転倒し上顎前歯を打撲。変色（ピンク色）を認めたため当科を受診（写真左）。半年後（写真右）変色は改善された。

〈参考文献〉

- 赤坂守人ほか編：小児歯科基礎・臨床実習マニュアル、医歯薬出版、東京、2003、pp. 181～188.
- 前田隆秀ほか編：小児の口腔科学、学建書院、東京、2005、pp. 273～275.
- 日本小児歯科学会：小児の歯の外傷の実態調査、小児歯科学雑誌、34(1)：1～20、1996.

総合病院・医学部附属病院におけるオーラルメディシンの役割



医療法人健貢会 南東北グループ 総合東京病院歯科口腔外科口腔がんセンター
鳥根大学医学部歯科口腔外科学講座（教授：関根浄治）

上野 繭美（28期）

長崎県佐世保市出身、28期・卒後9年目の上野繭美です。福岡歯科大学には8年間通学し、多くの先生方・職員の皆様にお世話をいただきました。

私は6年生の時に長崎県人会にて、当時長崎大学歯学部第二口腔外科講師在任中の関根浄治先生より入局のお話をいただきました。その年は卒業できず、長崎県人会の先輩である関根先生に御迷惑をおかけする形となりました。

その後、マッチング制度初年度の平成18年に国家試験に合格しました。マッチング制度を利用して興味のある病院を複数見学・受験する中で、全身への興味から医学部口腔外科や総合病院口腔外科への興味が深まり、憧れていた久留米大学医学部歯科口腔医療センターへ入局することができました。

久留米大学医学部歯科口腔医療センターは、口腔がん治療や口腔外科診療をはじめ、インプラント治療や全身管理歯科、入院患者さんの口腔ケアやNSTを含め毎日とても多くの患者さんが外来受診なさり、病棟も20床以上あり大変活気のある部門です。楠川仁悟教授を筆頭に、九州大学・九州歯科大学など福岡近郊をはじめ松本歯科大学・北海道医療大学など先生方の出身大学は様々で、皆で切磋琢磨して仕事をしていました。久留米大学医学部歯科口腔医療センターとその関連病院では、福岡歯科大学の先輩である古賀千尋先生をはじめ、中村芳明先生・境野先生・山手先生・古場先生・横溝先生、多数の先輩方が御活躍で智歯抜歯や学会発表をはじめ多くの御指導をいただきました。同期にも白本先生、葉先生、後輩にも田上先生、武井先生、福岡先

生、岩屋先生をはじめ福岡歯科大学出身者が多く、学生時代からの仲間とも仕事ができることは大変幸せなことでした。久留米大学・聖マリア病院にて、2年間の研修医生活を送りました。医科の研修医の先生方と机を並べ、共に学びディスカッションすることも含めて「全身の中の口腔」の意識が自然と身につきました。3年目は助教として久留米大学病院で病棟・外来を約半年ずつ経験し、後輩の指導にも当たりました。

楠川教授の御高配で、九州大学病院口腔画像診断科への出向の機会をいただき、2年間みっちり歯科放射線学・画像診断学を学びました。より歯科の専門性が高い歯学部附属病院での勤務を通じ、放射線科医として口腔外科や補綴科、保存科等各科の先生方と症例画像を通してディスカッションすることや、歯学部学生や、研修歯科医師の放射線実習等の教育に携わることも貴重な経験となりました。母校出身の研修医の先生方には先輩として慕っていただき、質問や撮影の練習等で通っていただくことも多く大変嬉しかったです。また、福岡歯科大学全身管理学講座画像診断学分野との共同研究等密な連携があり、湯浅教授をはじめ母校の先生方・福岡歯科大学の放射線技師の皆様方に研究や学会等を通して学ばせていただくことができとても嬉しいことでした。

この頃、鳥根大学医学部歯科口腔外科学講座教授に就任された関根先生と思いがけない再会をし、また御縁がつながりました。

九州大学病院口腔画像診断科での御指導をいただ



島根大学医学部歯科口腔外科学講座教授室です

き、歯科放射線認定医を取得することができました。

九州大学での勉強の期間を終え、画像診断の経験を久留米大学へフィードバックすることが恩返しだと思い、久留米で頑張ろうと思っていたところ、関根先生より島根大学医学部附属病院歯科口腔外科オーラルメディスン外来の医長としての機会をいただき、卒後6年目の春は島根県出雲市で迎えることとなりました。

地元長崎から遠く離れることとなりましたが、県人会の先輩であり学生時代から親しくさせていただいていた関根先生をはじめ、岩橋先生、江川先生、市山先生、野上先生、岡先生、小池先生、大平先生、福岡歯科大学出身者が多く、長崎弁や博多弁、久留米弁で会話してもほとんど通じる医局です。また、福岡歯科大学出身の先生方に御指導いただける機会もたくさんあります。出雲市内に御開業の藤江徹先生には大学病院・隠岐病院にて矯正歯科診療で御指導をいただき、兵庫医科大学の本田公亮先生にも顎補綴診療で御指導をいただいています。出雲市内で御開業の藤江先生、洪先生をお招きして定期的に福岡歯科大学の会を開いています。同窓会島根県支部の先生方にも日頃よりお世話をいただいています。年に一度のチュートリアルの際には、母校より本田武司先生に御来雲いただき講義を拝聴する機会

がありました。学生時代以来におうかがいする本田先生の講義は、歯科医師になって拝聴するとより深く心に響き、大変勉強になりました。オーラルメディスンチームは福岡歯科大学出身である江川正義先生と私を中心に活動を開始しました。また、これまでひたすら臨床に邁進して参りましたが、必要性を感じ、より深めるため社会人大学院に入学しました。

医学部附属病院という環境を活かして、関連各科と連携し診療体制を整えていったところ、院内・院外いずれも紹介患者さんの増加や紹介理由の多岐化を認めました。オーラルメディスン診療のニーズを受け、島根大学だけではなく浜田医療センター・益田赤十字病院へも定期的に出張しオーラルメディスン診療を行いました。1年半、島根大学に拠点を置き出張診療や講演、また、TV番組出演の機会をいただき診療体制の強化、後輩の育成に努めました。



TV番組「まめなくらぶ」への出演の機会も2度いただきました

そして卒後7年目の秋には、日本海に浮かぶ離島である隠岐の島の隠岐広域連合立隠岐病院歯科口腔外科へ医長として、出向の機会をいただきました。

人口約2万人に対して口腔外科医1人という環境では、口腔がん・インプラント・外傷・炎症・先天性疾患・粘膜疾患・入院患者さんの口腔ケア・全身管理歯科・妊婦健診・学校健診・周産期の歯科治療・夜間の外傷・脱臼・出血等の救急対応を含め、多岐にわたる診療内容で日々大変勉強になりました。また、離島での医療従事者として緊急時の対応

や病院前処置等、救急医療の勉強の機会も沢山得ました。月に一度関根教授に御来島いただき野上先生とともに御指導をいただきました。関根教授の熱意により2013年4月には隠岐の島にて口腔外科学会中国四国支部学術集会を開催しました。離島での大きな学会開催は大変でしたが、大学医局一丸となって取り組みました。隠岐の島町の皆様からのあたたかい協力のおかげで学会は大盛況に終わり、当時隠岐在住であった私と野上先生も力を合わせて無事、開催することができました。



隠岐の島へ関根先生をお迎えし、手術指導をいただきました

隠岐病院出向は2～3年の予定でしたが、1年1ヶ月勤務したところで東京都中野区にある総合東京病院への出向が決まり、平成25年10月末に隠岐の島から東京へ引っ越すこととなりました。「人情の島」と呼ばれる隠岐の島では病院職員の皆様、役場の方をはじめ皆様に本当に親切にいただきました。また、歯科衛生士・技工士・看護師、そして医師の先生方にも御協力をいただきました。島に居る限り24時間365日オンコール一人医長という責任ある仕事もなんとか遂行することができました。大変貴重な経験をさせていただき関根教授はじめ隠岐の島町の皆様に感謝しています。

現在は、東京勤務にて貴重な経験をさせていただいています。いくらでも代わりがいる東京での挑戦は、島根大学もふるさと九州も離れ心細く、はじめはつらい壁にぶち当たることも沢山ありました。これまで久留米・福岡・島根で学んだことを振り返り



2014年7月には、研修医時代よりずっと参加していたドライマウス研究会にて講演の機会をいただきました

ながら精進の日々です。

東京では、お一人お一人の患者さんを大切に、頼れるすぐれた内科医や看護師との出会いもあり、今では自分宛の紹介状や講演依頼もいただいております。御縁に感謝しています。また、2014年春からは鶴見大学歯学部口腔内科学講座の非常勤講師を拝命しました。

大学病院でも、総合病院でも歯科口腔外科の需要は高く、またオーラルメディシン（口腔内科）分野へのニーズがさらに高まっています。

今回は「私の臨床」の機会を与えていただいたので、オーラルメディシンの役割について述べたいと思います。

1. はじめに

口腔や顎顔面領域に症状が現れる全身性疾患には、シェーグレン症候群などの自己免疫疾患、麻疹などのウイルス性疾患、天疱瘡などの皮膚科的疾患、白血病などの血液疾患がある。また、ドライマウスや歯科心身症も全身との関わりが深い¹⁾。

島根大学医学部附属病院歯科口腔外科では、平成21年にオーラルメディシン外来を開設、平成23年4月より医長として上野、専属歯科医師として同窓の江川正義先生をはじめ数名の歯科医師を配置し、本格的な診察を開始した。本稿では、島根大学医学部歯科口腔外科オーラルメディシン外来の取り組みをはじめ、これまで様々な総合病院歯科口腔外科にて

行ってきたことを紹介する。

2. オーラルメディシンとは？

口腔内科（オーラルメディシン）とは、「歯科患者の口腔だけに視点を向けず、大局的立場に立ち、全身的背景を考慮して口腔疾患を診断し、外科的なアプローチを主体とせず口腔疾患の治療に当たるもの」と定義されている²⁾。しかしながら、なにか新しいことを扱っているかというところではなく、これまでもかかりつけ歯科医院や病院歯科、口腔外科、全身管理歯科や高齢者歯科などで行ってきたことである。日本では高齢化社会がすすみ、医学的にリスクのある患者さん（Medically complex patient）の増加に伴い歯科医療においても全身的な知識と対応が必要となっている。私は卒後もうすぐ10年目を迎えようとしているが、この10年間にも様々な薬剤や治療法が登場している。たとえば、抗血栓薬についてもこれまで拔牙をはじめとする歯科治療時の対応について「抗血栓療法患者の拔牙に関するガイドライン」にて対応してきたアスピリン等の抗血小板薬や、ワルファリンカリウム等の抗凝固薬の他に、新たにダビガトラン、リバーロキサソ、アピキサバンといった新規経口抗凝固薬が発売となった。これらはワルファリンと異なり納豆等の食事制限が不要で、薬物との相互作用も少ないことから内服している患者さんも増加しているが、拔牙についてのガイドライン策定はこれからである。また、ビスフォスフォネート系薬剤関連顎骨壊死についてもその対応や予防策が策定されてきたが、その剤形や投与方法も日々新たに追加されているし、またRANKLモノクローナル抗体製剤についても顎骨壊死のリスクがあるため、その管理が必要となっている。口腔がん治療についても、これまでの化学療法・放射線治療に加えてセツキシマブ等の分子標的薬や、陽子線治療・ホウ素中性子捕捉療法（BNCT）などの新たな治療法が登場してきた。オーラルケアについても、基本は口腔環境の改善、誤嚥性肺炎予防を目的とした口腔清掃と、摂食嚥下機能をサポートする口腔機能訓練である。血液内科や呼吸器内科、消化器内科や外科等医科の領域にお

いても、分子標的薬をはじめとした新たな薬剤や治療法の登場がめざましく、分子標的薬であるハーセプチン、イレッサ、アバスタチン、アービタックス等は口腔粘膜炎の発生頻度が高いことで知られている。それぞれのがん患者さんの治療背景や治療方法の知識を持った上でのオーラルケアを行うべきであるし、そういった取り組みががん治療の質の向上になることが知られてきた。全身的な治療における口腔粘膜炎予防や、手術前後・化学療法中の口腔管理をはじめとしたがん治療や骨髄移植における支持療法としてのオーラルケアの必要性とその意義が認められるようになってきた。口腔は全身の一部であり、口腔の健康は全身の健康と密に関連していること、また口腔疾患と全身疾患に関連があることから他科や検査機関と密な連携をとることが必要である。このような背景から口腔内科（オーラルメディシン）の専門性が必要となっており、口腔内科的疾患に適切に対応するには口腔病変の正しい診査診断についての知識だけでなく、全身の病態の診かたや心理的背景をふくめた病態に関する医学的知識が必要となる。つまり、「歯や口」だけでなく全身のことを鑑みながら顎顔面・口腔を診る視点を持ったアプローチのニーズがある。

口腔粘膜疾患の発現頻度は高く、口腔粘膜の異常を主訴に様々な診療科や歯科口腔外科を受診する患者さんは多い。

口腔粘膜には様々な疾患が発生するため、われわれは通常疾患分類にある炎症・腫瘍・嚢胞・先天異常・外傷などすべての疾患の診断と治療にあたる³⁾。実際、掌蹠膿疱症や歯科金属アレルギーなどの皮膚疾患や、シェーグレン症候群や貧血、HIV等全身疾患の部分症状が口腔粘膜に発症することも少なくないため、口腔粘膜疾患は口腔だけではなく、全身的な観点から診断する必要がある⁴⁾。

日本の歯学教育の場では、歯科口腔疾患の構成も時代の変化とともに変遷しており、口腔軟組織疾患、口腔の機能変化にともなう疾患、全身的背景をもつ口腔疾患等に対する教育と研究の必要性が高まってきている⁵⁾。このような変遷を受け、1981年に東京歯科大学にオーラルメディシン講座が開設さ

れた。その後、北海道大学大学院歯学研究科口腔病態学講座口腔診断内科学、北海道医療大学病院口腔内科相談外来、鶴見大学歯学部口腔内科学（口腔外科学第二）講座、徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部口腔内科学分野等、六つの口腔内科学関連の講座や診療科が開設されてきている。

ここで注意すべき点は、口腔内科は口腔外科の基盤をなすものであるということ、決して乖離したものではないということである。

3. オーラルメディシン外来が目指すもの

う蝕の治療や歯牙欠損に対する補綴治療を主体として担当してきた歯科は、わが国では医科と分離した体制で発展した。養老元年（718年）に制定された養老律令では、医科は内科（体寮または体療）、腫瘍科（創腫または瘡腫）、小児科（少小）、耳鼻科・眼科・歯科（耳目口歯）の4科に区分されており、わが国では古い時代から歯学は医学の一分野として認識されていた⁶⁾。

本間⁷⁾によると、江戸時代までの歯科医術は薬物や灸による内科的鎮痛療法と拔牙による外科的治療が中心で、口中医とよばれていた。一方、庶民の歯科治療は補綴物の作製を「入歯師」、拔牙を「歯抜き」が行っており、これらの業は香具師が行っていたという。

医科の外科が散髪と瀉血を行った理髪外科に起点をもつことに通ずるものがあるが、外科は近世に発達した解剖学・生理学・麻酔学等を背景に学問としての体系を確立したことに比べ、補綴学にそうした取り組みが遅れたことが医科との違いを徐々に示す結果となったのではないかと考える。

このような歴史を踏まえると、歯科医業は「歯」に特化してきたことが否めない。しかし、歯科は口腔外科が担当する疾患の他、う蝕治療、歯内療法、歯周治療などの治療もほとんどが外科系である。歯科医師をD.D.S. (Doctor of Dental Surgery) と表記する所以と思われる。

口腔機能回復を目的とする補綴治療は、リハビリテーションであり、歯科インプラント治療はリハビリテーションのための外科である。このような外科

的アプローチを主流として発展してきた歯科は技術至上であり、今後全身を理解したうえでの「内科学的診断思考」が求められる。先に述べたように、様々な基礎疾患をもつ Medically complex patient の増加をみている昨今の歯科臨床では、切削等の技術を中心とした外科的アプローチと、感染症や代謝、内分泌などの生理生体反応などの知識や思考法を必要とする内科的アプローチの両方が必要である。

島根大学医学部附属病院歯科口腔外科オーラルメディシン外来をはじめ、これまで関わってきた隠岐広域連合立隠岐病院や総合東京病院歯科口腔外科においても、「歯や口腔だけに視点を向けず、大局的立場から全身的背景を考慮した口腔疾患の診断と治療を行う」スタンスで診療に臨んでいる。

また、医療安全、院内感染対策（ICT チーム）、栄養サポートチーム（NST）、病診連携など様々な委員を拝命し日々、多職種と連携した委員会の活動も沢山ある。歯科衛生士を中心とした専門的オーラルケアだけでなく、日々の病棟業務としてのオーラルケアの効率化や質向上、呼吸リハビリテーションにおけるオーラルケアや摂食嚥下リハビリテーション、栄養指導も含めると、歯科診療室以外での歯科医師・歯科衛生士の職域は多岐にわたり、日々様々な部署や病棟からのコールがたえない。まだまだ、歯科医師・歯科衛生士の活躍の場も需要も高まっている。今後、口腔内科（オーラルメディシン）のマインドをもった歯科医師・歯科衛生士の増加が望まれるように思う。

4. 具体的疾患

1) ドライマウス

「口の中や唇がヒリヒリする」「口の乾きが毎日、3ヶ月以上続いている」「夜、眠っている時に口が乾いて目が覚める」「のどが乾く」「口の中がネバネバする」「のみこみづらい」「味を感じにくい」「口の中が苦い・すっぱい」「口臭が気になる」（図1、2）

このような症状が続く場合は「ドライマウス」の可能性もある。ドライマウスとは、「唾液の減少に

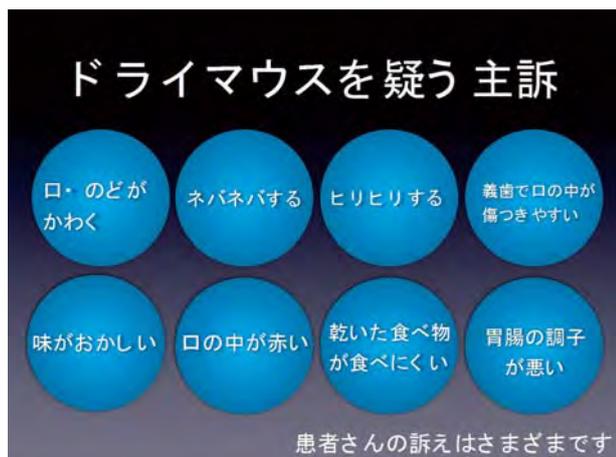


図 1



図 2

よって起こる口腔の乾燥状態を示す疾患名」とされ、European Assosiation of Oral Medicine (EAOM) の報告ではドライマウスの発症頻度は人口の10%とされている。

その他欧米の論文で25%を占めるとの報告もあり、日本では800万人~3,000万人と推定され、4人に1人はドライマウス関連のなんらかの症状があると考えられその頻度は多い。

■ドライマウスの症状

ドライマウスの症状は違和感から重症な口渇感まで様々で、全身的な疾患と複雑に関係していることも多く原因も多様である。

「口がかわく」「パンやクッキーが食べにくい」ことや、「長く会話することができない」「口がネバネバする」など様々な症状を認める。唾液の大切な役

割である自浄作用・潤滑作用・粘膜保護作用・抗菌作用・成長作用などが低下する為にこのような症状を引き起こすと考えられる。食事がしにくい、会話や歌が楽しめない、味がわからない、口の中がいつもネバネバ・ぴりぴり・ぱさぱさするなど、ドライマウスの症状は命にかかわらなくても生活の質 (Quality Of Life) を低下させることから、ドライマウスに対して診査診断を行い、適切なアプローチを行うと生活の質の向上につながる。

■ドライマウスの原因

ドライマウスを訴える方の中には、口・眼・皮膚などの乾きを主症状とする、シェーグレン症候群の場合もあり、日本の厚生労働省ではその患者数を約50万人と推定しているが認定患者数は約7万5,000人と、40万人以上の方がシェーグレン症候群でありながら診断されていないといわれている。

まず、シェーグレン症候群によるドライマウスであるかを鑑別することが重要で、この診断には唾液量測定や血液検査、涙量測定等が必要であり、シェーグレン症候群は自己免疫疾患の一つであることから、膠原病内科や眼科等医科との連携診療が必要となる。

その他、口の乾きや苦味、違和感を呈する可能性がある疾患には糖尿病や腎不全、更年期障害や精神疾患、胃食道逆流症 (GERD) や副鼻腔炎等があり、口腔乾燥感や違和感を主訴に来院された患者さんに適切な検査を行い診査・診断し全身性の疾患が判明した方も多数経験した。ドライマウスは様々な全身疾患と関わりが深いため、歯科口腔外科と消化器内科や総合内科、眼科、婦人科や心療内科など様々な他科と連携をはかり、適切な診療科と連携したチーム医療でケアを行うことも必要となる。

その他、薬剤の服用でドライマウスが起こることもあり、抗不安薬や降圧剤 (特にカルシウム拮抗薬) などが代表的な薬剤としてあげられる。お薬手帳や診療情報提供での既往歴・内服薬の把握や、かかりつけ医との連携によるチーム医療が大切と思われる。

その症状に心因的要素が関与することもある⁸⁾。

2) 歯科心身症

歯科心身症とは、医学的に説明困難な口腔周辺の症状をさす。患者さんの多くは、器質的異常がないにもかかわらず「歯が痛い」、「顎が痛い」などの心因性疼痛を訴える。うつ病や不安障害、身体表現性障害などの精神疾患の身体化症状と深く関連している場合もある¹⁾。

心因性疼痛を訴える代表的疾患として、舌痛症、咬合時違和感、顎関節症、口臭症、口腔異常感症、非定型顔面痛、過換気症候群、醜形恐怖（身体醜形障害）、歯科治療恐怖症、がん恐怖症などがある^{1,9,10)}。

患者さんが抱える主訴・悩みに対して、われわれはその症状のみに目を向けがちである。患者さんの「こころ」と「からだ」（図3）や、家族歴、生活背景や社会的背景などもふくめた多角的な診る目を持ち、総合的に判断する視点が必要である（図4）。

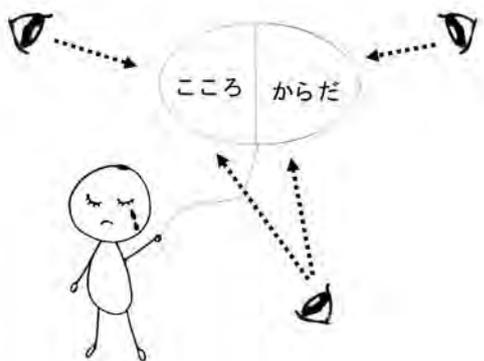


図3 医療者が持つべき視点

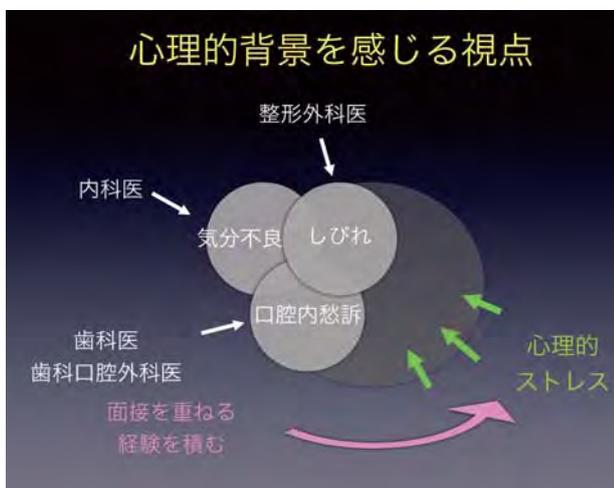


図4 心理的背景を感じる視点

患者さんの訴える様々な身体症状を考える時、身体的検査を主体に治療を進めると生活背景が見えなくなる場合がある。いかにスムーズに生活史の奥に潜む家族歴に関する面接に言及できるかが大切である。特に、疼痛緩和主体の歯科治療では家族歴や生活歴に関する病歴聴取が後手になりやすい。心の余裕を持った対応が重要と考える。

3) ビスフォスフォネート系製剤関連顎骨壊死

(Bisphosphonate Related Osteonecrosis of the Jaw, BRONJ)

島根大学医学部歯科口腔外科学講座では BRONJ の発症予防を目的に、2007年に当科独自の BRONJ 取り扱い指針を策定、島根大学医学部附属病院医療安全委員会へ上申し、病院運営委員会での承認を得たのち2008年より運用を開始し、本学および関連施設において、BP 製剤投与予定患者さんを事前に当科へ御紹介頂くよう呼びかけてきた。

2008年1月から2012年3月末日までの4年3ヶ月の間に、島根大学医学部歯科口腔外科ならびに関連施設（独立行政法人国立病院機構浜田医療センター、隠岐広域連立隠岐病院、日本赤十字社益田赤十字病院、隠岐の島町国民健康保険中村歯科診療所・都万歯科診療所・五箇歯科診療所）において、われわれの取り扱い指針に準じて464症例の管理をおこなった。その内訳は、BP 製剤使用開始前の症例92例、発症していない経口投与症例304例、発症していない静脈投与症例は29例、そして BRONJ 発症症例は39例であった¹¹⁾。先に述べたように、RANKL モノクローナル抗体製剤や新しい剤形も登場している。今後も症例を蓄積し、より安全な BP 系製剤投与前後の患者さんの口腔管理を行っていきたい。

4) 胃食道逆流症 (Gastroesophageal reflux disease, GERD) と口腔症状

2005年、モントリオールにおいて改訂された GERD の定義では、従来の食道症候群に食道外症候群が追加された。通常、口腔内は唾液自身の緩衝作用によりほぼ中性 (pH5.6~8.0) に保たれてい

る。しかし、GERD 罹患者では胃酸の口腔内への逆流により酸性に傾く。

一方、GERD 罹患者にみられるその他の口腔症状として、口臭や歯周組織をはじめとする口腔粘膜症状が報告されている¹²⁾。これらの多くも口腔内の pH 低下、唾液分泌量の低下に伴う唾液の粘膜保護作用の低下によると考えられる。

そこで、われわれは唾液分泌と嚥下機能に着目し、GERD と確定診断された患者の口腔内精査を行うとともに、唾液分泌量と嚥下機能を指標として GERD が歯科疾患の原因となりうるか否かを明らかにした^{13,14)}。隠岐病院、総合東京病院でも胃食道逆流症と口腔の関係性が示唆される症例は多く認め、消化器内科や近隣の内科クリニックとの連携診療を行っている。

5) 周術期における口腔管理

大学病院、総合病院においてがん治療や自己免疫疾患のステロイド療法など全身疾患の治療前の感染巣精査や抜歯、外来での口腔清掃依頼も多数ある。往診での口腔ケアも非常に多い。化学療法や放射線療法中の患者さんだけでなく、緩和ケア病棟、ICU など様々な病棟からの依頼がある。

放射線治療や化学療法によって生じる口腔内症状や、口腔内の症状で原疾患の治療が中断されたり、栄養状態不良について後手にまわると、がん治療などの全身加療に悪影響を与える。特に血液内科医や消化器医は口腔粘膜の制御を重視しており、パートナーとしての歯科医師の役割は大きい。今後も全身疾患の治療の支持療法としてのオーラルケアを行っていきたい。

まとめ

口腔内科（オーラルメディシン）は守備範囲はひろいものの、まだ診断や標準的治療法は確立しておらず各施設における取り組みも統一されていないし、社会における認知度も低いことが現状であるが、がん支持療法としての口腔管理・栄養療法・心身アプローチ・全身疾患との連携などそのニーズは非常に高い。地方でも、東京でも需要が高いことを

痛感している。

これまで、ただがむしゃらに臨床に携わる中で様々な大学・病院・医院を経験した。御指導を頂いた多くの歯科医師の先生方、看護師、歯科衛生士、放射線技師や言語聴覚士等多くの方々、一緒に仕事をさせていただく中で様々な世界を教えて下さった医師の先生方、担当させていただいた患者さんから多くのことを学んだ。私は特に口腔内科に特化した研修を積んだわけではないが、経験してそこから学んで吸収しての繰り返しである。全ての方々に感謝したい。

手技・技術主体の外科的アプローチに加え、内科的論理的思考を重視する口腔内科的アプローチを実践するには正確な知識と、「全身の中の口腔」を診る目を養うことが必須である。医師と共通言語、共通のイメージを持ち、連携して専門性を高め合いながら、一人の患者さんにアプローチすることは難しいがやりがいのある仕事で、より効果的なアプローチができたときは、チームとしての喜びを感じるし、それがそのチームの成長につながる。

歯科医師は、一生勉強・一生成長できる素敵な仕事であり、すべての出会いや経験は学びの機会である。そこから貪欲に吸収し活かして、一つひとつの経験から得るものを蓄積していくことが成長につながると信じている。学生時代、失敗と思えることも多かったがその経験も様々な形で今の糧となっている。

もっと学び成長し、関根教授のパワーパートナーとしてよりしっかり支え、患者さんに寄り添う安心で安全な医療を提供し、後輩の指導のためにも学位取得を目標に知識を深めていきたい。そして関根教授の御指導の下、ともに鳥根大学医学部歯科口腔外科学講座と母校福岡歯科大学に貢献し恩返しとなるよう成長できれば幸いである。

卒後10年を迎えようとしている今、このような機会を与えていただいた福岡歯科大学同窓会の皆様に、心より感謝致します。

(鳥根大学医学部歯科口腔外科学講座 ホームページ URL → <http://www.med.shimane-u.ac.jp/oral/index.html>)

文献

1. 関根浄治, 上野繭美: 臨床各科で遭遇する幻覚妄想 歯科・口腔外科領域, 堀口 淳編: 脳とこころのプライマリケア 幻覚と妄想, 第1版: 303-311, 株式会社シナジー, 東京, 2011.
2. 草間幹夫: 日本口腔内科学会雑誌 巻頭言, 18(2), 2012.
3. 松村智弘: 口腔粘膜疾患, 宮崎 正監修: 口腔外科学, 第2版: 177-190, 医歯薬出版, 東京, 2000.
4. 田中健藏, 本田武司, 北村憲司: 特別寄稿「医歯一元論」で「知の統合」を, 学術の動向, 9: 82-85, 2007.
5. 田中健藏, 本田武司: 新時代の口腔疾患対策—口腔医学の創設・育成と口腔ケアの推進—, 歯界展望, 109(5): 957-963, 2007.
6. 田中健藏, 本田武司, 北村憲司: 口腔医学の創設と口腔疾患対策の幕開け, 福岡歯科大学学会雑誌, 32(4): 133-139, 2007.
7. 本間邦則: 歯学史概説. 医歯薬出版, 東京, 1971.
8. 黒木俊秀: 歯科心身症の臨床—器質的所見に乏しい患者をどうみるか, 日本顎口腔機能学会雑誌, 1: 1-6, 2004.
9. 関根浄治, 上野繭美: [消化器系] 口臭, 永井良三, 大田 健編, 今日の治療と看護, 第3版: 100. 江南堂, 東京,
10. 豊福 明: 第2部 病態・疾患編 I. 心身医学的対応を要する歯科患者の症例 B. 口臭症, 都 温彦編, 心身医療と歯科医療—歯・口腔・顎と心の健康科学, 106-107, 第1版, 新興医学出版社, 東京, 2003
11. 関根浄治: 骨粗鬆症患者におけるビスフォスフォネート関連顎骨壊死の予防・治療指針の確立, *Osteoporosis Japan*, 20(3): 2012
12. Muñoz JV, Herreros B, Sanchez V, Amoros C, Hernandez V, Pascual I, Mora F, Minguez M, Bagan JV, Benages A: Dental and periodontal lesions in patients with gastroesophageal reflux disease, *Digestive and Liver Disease*, 35: 461-467, 2003.
13. 関根浄治: GERD は歯科疾患の原因となり得るか?, 治療, 92(3): 481-485, 2010.
14. Hiroo Yoshikawa, Kenji Furuta, Mayumi Ueno, Masayoshi Egawa, Aya Yoshino, Seiji Kondo, Yoshiki Nariai, Hiroaki Ishibashi, Yoshikazu Kinoshita, Joji Sekine: Oral symptoms including dental erosion in gastroesophageal reflux disease are associated with decreased salivary flow volume and swallowing function, *Journal of Gastroenterology*, 47(4): 412-420, 2012.



島根大学医学部歯科口腔外科学講座入局時の集合写真

福岡歯科大学同窓会本部役員

平成25年4月1日～平成27年3月31日

役職	氏名/E-mail	期	勤務先	郵便番号・住所	TEL	FAX
名誉会長	北村 憲 司		福岡歯科大学学長	814-0193 福岡県福岡市早良区田村2-15-1	092-801-0411	092-864-0657
会長	宮口 巖 miyaguchi1953@hotmail.co.jp	1	宮口歯科医院	852-8154 長崎県長崎市住吉町11-20	095-849-2238	095-849-2389
副会長	寺尾 隆 治 t9154@bronze.ocn.ne.jp	1	寺尾歯科医院	849-1411 佐賀県嬉野市塩田町大字馬場下甲50-3	0954-66-2142	0954-66-5422
副会長	勝 俣 辰 也 can92320@pop02.odn.ne.jp	1	かつまた歯科小児歯科医院	813-0041 福岡県福岡市東区水谷1-6-15	092-683-1011	092-683-1112
副会長	千原 眞 治 info@chihara-shika.net	1	ちはら歯科医院	181-0001 東京都三鷹市井ノ頭2-7-8 三鷹プラザ202号	042-249-2753	042-246-9454
副会長	永尾 禮 二 qqw92hwd@arrow.ocn.ne.jp	1	永尾禮二歯科医院	830-0072 福岡県久留米市安武町安武本1598-7	0942-26-4180	0942-27-2522
副会長	井手 正 洋 idecchi@almond.ocn.ne.jp	1	医)洋仁会 井手歯科	799-2430 愛媛県松山市北条辻1443-14	089-992-0026	089-993-2214
副会長	武井 俊 哉 takeid.c.2009@gol.com	2	武井歯科医院	813-0012 福岡県福岡市東区香椎駅東4-26-10	092-662-7132	092-683-1486
副会長	岩本 憲 明 izakidc7@chive.ocn.ne.jp	2	医)社団プラタナス会 いざき歯科医院	810-0067 福岡県福岡市中央区伊崎3-13	092-725-2626	092-725-3287
副会長	木村 孝 一	3	木村歯科医院	572-0063 大阪府寝屋川市春日町19-23	072-826-8838	072-826-8839
副会長	深井 修 一	3	深井歯科医院	747-0835 山口県防府市大字西浦2066-3	0835-29-3330	0835-29-0875
副会長	藤田 勝 也 fujitak@orange.ocn.ne.jp	3	フジタ歯科医院	822-0032 福岡県直方市新入624-4	0949-28-3636	0949-28-3636
副会長	神田 晋 爾 ksinji@f3.dion.ne.jp	4	神田歯科医院	819-0002 福岡県福岡市西区姪の浜4-21-1-1 F	092-882-5255	092-882-5255
副会長	矢野 尚 一 show@light.ne.jp	4	矢野歯科医院	806-0028 福岡県北九州市八幡西区熊手2-4-25	093-613-3470	093-622-4062
副会長	山田 俊 介 ydc2007@redbay.dc.jp	4	山田歯科医院	880-0912 宮崎県宮崎市大字赤江414-3	0985-54-7272	0985-54-7273
副会長	中 四 良 s-nakadc@jf7.so-net.ne.jp	5	中歯科医院	814-0022 福岡県福岡市早良区原8-17-3	092-866-0418	092-866-0417
副会長	高嶺 明 彦 akihiko@ryukyuu.ne.jp	6	たかみね歯科クリニック	900-0032 沖縄県那覇市松山1-9-2	098-866-0648	098-860-2666
副会長	馬場 篤 子 babaatus@college.fdcnet.ac.jp	12	成育小児歯科学分野	814-0193 福岡県福岡市早良区田村2-15-1	092-801-0411	092-801-0692
副会長	野口 芳 彰 noguchi.d.o@tuba.ocn.ne.jp	13	野口歯科医院	768-0040 香川県観音寺市柞田町乙1947-1	0875-25-3900	0875-25-1888
専務理事	持山 達 郎 mochitatsu@coffee.ocn.ne.jp	13	持山歯科医院	810-0001 福岡県福岡市中央区天神3-3-3	092-712-3900	092-716-0389
常務理事 (総務)	石本 圭 keishika2001@kif.biglobe.ne.jp	16	いしもと圭歯科医院	807-0856 福岡県北九州市八幡西区八枝4-3-7	093-602-6480	093-602-6481
常務理事 (総務)	稲井 哲 郎 inaidental.171@lup.bbiq.jp	16	稲井歯科医院	819-1123 福岡県糸島市神在489-76	092-322-9771	092-322-9772
常務理事 (福祉厚生)	水谷 匡 秀	6	みずたに歯科医院	819-1314 福岡県糸島市志摩師吉131-43	092-327-2342	092-327-2342
常務理事 (組織)	手島 将 teshima-shika@chime.ocn.ne.jp	22	てしま歯科クリニック	820-0203 福岡県嘉麻市平十峠1433-1	0948-42-6623	0948-42-6635
常務理事 (広報)	廣瀬 武 尚 tyhirose@college.fdcnet.ac.jp	4	歯科衛生学 学科	814-0193 福岡県福岡市早良区田村2-15-1	092-801-0411	092-864-0657
常務理事 (学術)	粉 浩 一 hegi@drive.ocn.ne.jp	3	へぎ歯科医院	810-0001 福岡県福岡市中央区天神1-14-16 三栄ビル6F	092-741-8212	092-741-8212
常務理事 (学術)	葛西 秀 夫 info@kasai-dental.com	6	医)かさい歯科医院	816-0082 福岡県福岡市博多区麦野1-29-8	092-581-0796	092-573-6111
常務理事 (企画・情報)	小柳 進 祐 skoyama@cable.ocn.ne.jp	12	小柳歯科医院	849-0503 佐賀県杵島郡江北町惣領分1898番地	0952-86-2574	0952-86-2574
常務理事 (会計)	西原 義 一 y-3185@fa2.so-net.ne.jp	3	西原歯科医院	819-1139 福岡県糸島市前原南1丁目14-3	092-323-5600	092-324-6326
理事 (総務)	松尾 憲 篤 ratshai@po1.people-i.ne.jp	3	医)ますらお 松尾歯科医院	849-5131 佐賀県唐津市浜玉町浜崎1885	0955-56-6343	0955-56-2115
理事 (総務)	芝池 覚 dpfif300@kawachi.zaq.ne.jp	4	芝池歯科医院	583-0886 大阪府羽曳野市恵我之荘1-2-2	0729-55-8815	0729-55-8815
理事 (総務)	吉 永 修 osamau@yoshinagashika.com	4	医)徳治会吉永歯科医院	869-0521 熊本県宇城市松橋町浦川内824-8	0964-32-5801	0964-32-3571
理事 (総務)	秋山 達 也 dental-a@vega.ocn.ne.jp	7	秋山歯科医院	834-0034 福岡県八女市大字高塚151-5	0943-22-7711	0943-22-7741
理事 (総務)	浦 嘉 訓 urayoshi@pd.saganet.ne.jp	12	浦歯科医院	849-0918 佐賀県佐賀市兵庫南4-1-29	0952-28-7070	0952-28-7078
理事 (福祉厚生)	泉 幸 三	2	泉歯科医院	814-0123 福岡県福岡市城南区长尾3-1-29 ファイン・ビュー泉2F	092-552-6333	092-552-6348
理事 (福祉厚生)	白本 光 鶴 qq266ym9@beach.ocn.ne.jp	3	しろもと歯科小児歯科クリニック	837-0917 福岡県大牟田市草木1033-2	0944-52-6480	0944-53-2418
理事 (福祉厚生)	新郷 陽 二 shingo42@mx1.harmonix.ne.jp	4	しんごう歯科医院	814-0103 福岡県福岡市城南区鳥飼5-6-3	092-822-8811	092-822-8811

役職	氏名/E-mail	期	勤務先	郵便番号・住所	TEL	FAX
理事(福祉厚生)	安倍敬治	4	安倍歯科	805-0017 福岡県北九州市八幡東区山王1-15-10	093-671-3946	093-671-3946
理事(福祉厚生)	本田康浩	16	ほんだ歯科クリニック	819-0041 福岡県福岡市西区拾六町1-7-1	092-894-5566	092-894-5599
理事(組織)	佐々木次郎 sasakidc1721@k8.dion.ne.jp	2	佐々木歯科医院	851-3101 長崎県長崎市西海町1755-260	095-884-1721	095-884-1731
理事(組織)	高森晴己	2	高森歯科医院	803-0846 福岡県北九州市小倉北区下道津1-3-7	093-581-9152	
理事(組織)	山本順一	10	山本歯科医院	811-1302 福岡県福岡市南区井尻4-2-48	092-581-4397	092-581-4441
理事(組織)	原精一郎 doctor@hara-dental.net	21	はら歯科医院	852-8117 長崎県長崎市平野町23-1 K'sビル2F	095-842-6622	095-842-6623
理事(組織)	鳥尾直弘	23		802-0045 福岡県北九州市小倉北区神岳2-8-11	093-511-0005	
理事(組織)	杉本大輔 dsqedoku@nifty.com	24	杉本歯科医院	815-0081 福岡県福岡市南区那の川11-8-8	092-531-6480	092-531-6580
理事(組織)	葉山揚介 hayama-shika@opal.ocn.ne.jp	26	はやま歯科医院	820-0067 福岡県飯塚市川津370-4	0948-26-8148	0948-21-0002
理事(広報)	白本光七 shiromoto1953@ybb.ne.jp	2	医)光仁会 白本歯科医院	811-0204 福岡県福岡市東区奈多3-3-37	092-607-7554	092-607-7554
理事(広報)	佐藤毅 tuyoshi@viola.ocn.ne.jp	3	佐藤歯科診療所	852-8107 長崎県長崎市浜口町11-14	095-844-5477	095-847-6568
理事(広報)	劉中憲 ryuchuken@yahoo.co.jp	14	バンダ小児歯科医院	813-0001 福岡県福岡市東区唐原7-1-3 エスブランサ1F	092-673-1180	092-403-6300
理事(広報)	三箇正賢 rmjir906@yahoo.co.jp	18	三箇歯科医院	806-0055 福岡県北九州市八幡西区幸神4-7-10	093-641-3641	093-641-3631
理事(広報)	重富澄保 shigetomi-dc@eos.ocn.ne.jp	24	重富歯科医院	811-1355 福岡県福岡市南区松原5-10-32	092-567-6633	
理事(広報)	村上弘 hiroshimame@hotmail.com	31	歯周病学分野	814-0193 福岡県福岡市早良区田村2-15-1	092-801-0411	092-801-4473
理事(広報)	廣松亮 hiromatsu_perio@yahoo.co.jp	32	歯周病学分野	814-0164 福岡県福岡市早良区田村2-15-1		
理事(広報)	安里啓	36	口腔インプラント学分野	814-0193 福岡県福岡市早良区田村2-15-1		
理事(学術)	江崎和久 kazu1239@me.com	8	睡眠科学研究所江崎歯科内科医院	834-0052 福岡県八女市新庄1266-1	0943-22-5809	0943-22-2632
理事(学術)	重松久幹 shigematu_hisa@com.home.ne.jp	8	重松歯科医院	814-0022 福岡県福岡市早良区原6-29-2	092-847-7755	092-847-7744
理事(学術)	久保山博 kuboyama-pd@izu.bbq.jp	8	くぼやまひろこ小児歯科	811-3112 福岡県古賀市花見東5-17-5	092-940-2111	092-940-2115
理事(学術)	武内孝治 takedent@kurume.ktarn.or.jp	10	医療法人 たけうち歯科医院	839-1343 福岡県うきは市吉井町鷹取26-10	0943-75-4511	0943-75-4561
理事(学術)	鬼塚得也 toku3500@yahoo.co.jp	14	オニツカ歯科医院	802-0981 福岡県北九州市小倉南区企球丘5-21-7	093-965-8110	
理事(学術)	香川豊宏 kagawat1@college.fdcnet.ac.jp	15	画像診断学分野	814-0193 福岡県福岡市早良区田村2-15-1	092-801-0411	092-801-4909
理事(学術)	椿誠 tbkdc@hf.rim.or.jp	16	椿歯科クリニック	862-0950 熊本県熊本市中央区水前寺3丁目15-20	096-381-6561	096-381-6664
理事(学術)	松永興昌 nylic99@yahoo.co.jp	16	松永歯科クリニック	810-0022 福岡県福岡市中央区薬院3-3-5 Lapisビル2F	092-401-4618	092-401-8148
理事(学術)	古田修一 sf0614@forest.ocn.ne.jp	16	ふるた歯科医院	813-0002 福岡県福岡市東区下原1-14-3	092-663-5252	092-663-5355
理事(学術)	久原佐知子 sachan@msa.biglobe.ne.jp	17	久原歯科医院	807-1312 福岡県鞍手郡鞍手町中山2365-1	0949-42-0059	0949-42-6123
理事(学術)	飯田聖子 maebaru-dc@bem.bbq.ne.jp	17	まえばる歯科医院	819-1117 福岡県糸島市前原西1丁目8-27	092-324-6615	
理事(学術)	松尾康平 mdc@feel.con.ne.jp	18	MATSUO DENTAL CLINIC	816-0095 福岡県福岡市博多区竹下4-6-27 ラ・カーサ151-1F	092-436-8497	092-436-8497
理事(学術)	野上堅太郎 nogamik@college.fdcnet.ac.jp	22	麻酔管理学分野	814-0193 福岡県福岡市早良区田村2-15-1	092-801-0411	092-801-4909
理事(学術)	津江文武 roguecain925@gmail.com	25	口腔医療センター	814-0193 福岡県福岡市早良区田村2-15-1	092-801-0411	092-801-4909
理事(学術)	中島一記 maru-tang@college.fdcnet.ac.jp	27	矯正歯科学分野	814-0193 福岡県福岡市早良区田村2-15-1	092-801-0411	092-801-4909
理事(学術)	小篠政之 hksxm9432000@yahoo.co.jp	29	持山歯科医院	810-0001 福岡県福岡市中央区天神3-3-3	092-712-3900	092-716-0389
理事(学術)	森南奈 m19840813@college.fdcnet.ac.jp	31	歯周病学分野	814-0193 福岡県福岡市早良区田村2-15-1		
理事(学術)	田口茜 taguchi@college.fdcnet.ac.jp	34	歯周病学分野	814-0193 福岡県福岡市早良区田村2-15-1		
理事(学術)	佐々木浩乃 sasakih@college.fdcnet.ac.jp	35	有床義歯学分野	814-0193 福岡県福岡市早良区田村2-15-1		
理事(企画・情報)	田中靖彦 toystory@camel.plala.or.jp	12	医療法人恵和会タナカ・デンタル・クリニック	850-0851 長崎県長崎市古川町6-35 タナカ・ビル3F	095-824-3281	095-822-4699
理事(企画・情報)	荒瀬陽一 arase@araseshika.com	12	荒瀬歯科医院	861-0000 熊本県熊本市東区上南部2-2-2 ゆめタウンサンビアン3F	096-349-7342	096-649-7343
理事(企画・情報)	吉岡和彦 mappun0@gmail.com	25	よしおか歯科医院	810-0014 福岡県福岡市中央区平尾3丁目6-8 武石ビル2F	092-521-6007	

役職	氏名/E-mail	期	勤務先	郵便番号・住所	TEL	FAX
理事 (企画・情報)	田代 剛 t244mk.dent@ezweb.ne.jp	26	田代 歯科 医院	849-3201 佐賀県唐津市相知町相知1940	0955-62-2217	0955-62-3595
理事 (会計)	北村 勝文 kitamuraadc@yahoo.co.jp	9	きたむら 歯科 医院	819-1131 福岡県糸島市篠原961-1	092-322-3588	092-322-3588
理事 (会計)	東 義隆 east28dental@yahoo.co.jp	18	東 歯科 医院	852-8134 長崎県長崎市大橋町23-1	095-844-1443	095-844-1443
理事 (会計)	橘 一史	27	たちばな 歯科	850-0874 長崎県長崎市魚の町3-12-2F	095-823-5363	095-826-4087
監事	臼 杵 辰雄	1	臼 杵 歯科 医院	838-0065 福岡県朝倉市一木95-4	0946-24-3691	0946-22-1982
監事	原 文夫	2	アンプル 歯科	811-1346 福岡県福岡市南区老司1-17-34	092-565-8148	092-565-8239
顧問	長尾 博通 h1127naga@ybb.ne.jp	1	長尾 歯科	879-4403 大分県玖珠郡玖珠町大字帆足279番地	0973-72-7122	0973-72-3613
顧問	升井 一朗 ichiom@college.fdcnet.ac.jp	1	歯科衛生学 科	814-0193 福岡県福岡市早良区田村2-15-1	092-801-0411	092-801-4909
顧問	梶谷 剛	1	はるデンタルクリニック	818-0005 福岡県筑紫野市原407-1	092-918-6480	092-918-6481
顧問	友添 秀樹 tomoze_dc@yahoo.ne.jp	2	友添 歯科 医院	839-0863 福岡県久留米市国分町1176-8	0942-22-4618	0942-21-0324
顧問	斉藤 武史	2	新飯塚 歯科 医院	820-0005 福岡県飯塚市新飯塚13-27	0948-22-7273	0948-22-7783
顧問	尾崎 正雄 mozaki@college.fdcnet.ac.jp	3	成育小児歯科学 分野	814-0193 福岡県福岡市早良区田村2-15-1	092-801-0411	092-801-4909
顧問	高橋 裕 ytakaha@college.fdcnet.ac.jp	3	有床義歯学 分野	814-0193 福岡県福岡市早良区田村2-15-1	092-801-0411	092-801-0513
顧問	佐伯 和道 kazu_s1201@yahoo.co.jp	4	佐伯 歯科 医院	802-0003 福岡県北九州市小倉北区米町1-2-17	093-531-4955	093-531-4957
顧問	城戸 寛史 hkido@college.fdcnet.ac.jp	6	口腔インプラント学 分野	814-0193 福岡県福岡市早良区田村2-15-1	092-801-0411	092-801-0513
顧問	比嘉 奈津美 wine-dentist@kdn.biglobe.ne.jp	8	衆議院第一議員会館517号室 比嘉なつみ 東京事務所	100-0014 東京都千代田区永田町2-2-1	03-3508-7261	03-3508-3531
顧問	原田 孝昭	12	原田 歯科 医院	806-0021 福岡県北九州市八幡西区黒崎2-9-18 2F	093-621-7407	093-621-7407

地区会会長

地区	役職	氏名/E-mail	期	勤務先	郵便番号・勤務(開業)先住所	TEL	FAX
学内	学内会 会長	香川 豊宏 kagawat1@college.fdcnet.ac.jp	15	画像診断学 分野	814-0193 福岡県福岡市早良区田村2-15-1	092-801-4909	
福岡県	福岡西	福岡県地区会会長 中 四良 s-nakadc@jf7.so-net.ne.jp	5	中 歯科 医院	814-0022 福岡県福岡市早良区原8-17-3	092-866-0417	092-866-0417
九州	宮崎	九州地区会会長 山田 俊介 ydc2007@redbay-dc.jp	4	山田 歯科 医院	880-0912 宮崎県宮崎市大字赤江414-3	0985-54-7273	0985-54-7273
中国	山口	中国地区会会長 深井 修一	3	深井 歯科 医院	747-0835 山口県防府市大字西浦2066-3	0835-29-0875	0835-29-0875
四国	愛媛	四国地区会会長 井手 正洋 idecchi@almond.ocn.ne.jp	1	(医) 洋仁会 井手歯科	799-2430 愛媛県松山市北条辻1443-14	089-993-2214	089-993-2214
近畿	大阪	近畿地区会会長 八木 隆史	1	八木 歯科 医院	673-0552 兵庫県三木市志染町中自由ヶ丘2-411		
中部	中部	中部地区会会長 伊藤 恒一 daiichi-shika@hb.tp1.jp	2	中津第一 歯科 医院	508-0032 岐阜県中津川市栄町4-26	0573-66-1578	0573-66-1578
関東	関東	関東地区会会長 中野 裕次 yuji_0603@nifty.com	6	なかの 歯科 医院	130-0011 東京都墨田区石原2-15-9 交楽堂ビル2F	03-3829-0008	03-3829-0008

府県・学内同窓会各会長・評議員

連合会	地区	役職	氏名	期	勤務先	郵便番号・勤務(開業)先住所	TEL	FAX
学	内	会長	香川 豊 宏	15	画像診断学分野	814-0193 福岡県福岡市早良区田村2-15-1	092-801-0411	092-801-4909
		評議員	児玉 淳	11	機能構造学分野	814-0193 福岡県福岡市早良区田村2-15-1	092-801-0411	092-801-4909
		評議員	都築 尊	18	有床義歯学分野	814-0193 福岡県福岡市早良区田村2-15-1	092-801-0411	092-801-4909
		評議員	玉置 幸雄	19	矯正歯科学分野	814-0193 福岡県福岡市早良区田村2-15-1	092-801-0411	092-801-4909
福岡県	福岡西	会長	中 四 良	5	中歯科医院	814-0022 福岡県福岡市早良区原8-17-3	092-866-0418	092-866-0417
	福岡西	評議員	高山 哲志	9	高山歯科医院	811-3217 福岡県福津市中央6-12-6	0940-42-0504	0940-42-5550
	福岡西	評議員	粉 泰 生	11	粉歯科医院	815-0041 福岡県福岡市南区野間1-9-26	092-541-0987	092-541-0987
	福岡西	評議員	花田 道人	23	志摩歯科クリニック	819-1302 福岡県糸島市志摩町吉田23-1	092-327-5225	
	福岡西	評議員	日高 英治	5	日高歯科	811-3101 福岡県古賀市天神5-3-2	092-944-4156	092-944-4176
	福岡西	評議員	疋田 三郎	6	ひきた歯科医院	818-0054 福岡県筑紫野市杉塚7-1-5	092-921-2267	092-921-2267
	福岡東	会長	藤田 勝也	3	フジタ歯科医院	822-0032 福岡県直方市下新入624-4	0949-28-3636	0949-28-3636
	福岡東	評議員	山本 清	14	山本歯科医院	822-0000 福岡県直方市須崎9-3	0949-22-6127	
	福岡東	評議員	川端 貴美子	17	みずほ内科・歯科クリニック	822-0006 福岡県直方市上境291-1	0949-29-9055	0949-29-9065
	福岡南	会長	永尾 禮二	1	永尾禮二歯科医院	830-0072 福岡県久留米市安武町安武本1598-7	0942-26-4180	0942-27-2522
	福岡南	評議員	白 杵 源 久	4	白杵歯科医院	839-1234 福岡県久留米市田主丸町豊城85-4	0943-73-0003	0943-72-4196
	福岡南	評議員	野田 慎一朗	21	のだ歯科・小児歯科	830-0422 福岡県三潁郡大木町高橋533-1	0944-75-9700	0944-75-9701
福岡北	会長	矢野 尚一	4	矢野歯科医院	806-0028 福岡県北九州市八幡西区熊手2-4-25	093-613-3470	093-622-4062	
福岡北	評議員	柴田 壮一	9	柴田歯科医院	806-0011 福岡県北九州市八幡西区紅梅2-9-13	093-641-9577	093-641-9577	
福岡北	評議員	浅尾 武	10	浅尾歯科医院	803-0831 福岡県北九州市小倉北区日明2-15-7	093-561-3169	093-561-3169	
中九州	佐賀	会長	山口 倫仁	7	やまぐち歯科医院	840-0202 佐賀県佐賀市大和町久池井931-8	0952-62-4848	0952-62-3892
	佐賀	評議員	古野 宏	5	ふるの歯科医院	849-2302 佐賀県武雄市山内町鳥海9082-1	0954-45-5188	0954-45-5187
	佐賀	評議員	酒井 正男	14	酒井歯科医院	840-0811 佐賀県佐賀市大財5-11-30	0952-23-8417	0952-22-7938
	長崎	会長	小川 豊久	5	小川歯科医院	852-8061 長崎県長崎市滑石3-1-8-101	095-857-8010	095-855-3845
	長崎	評議員	寺崎 宏	5	寺崎歯科医院	852-8125 長崎県長崎市小峰町3-31	095-847-9232	095-844-9737
	長崎	評議員	渡邊 知英	13	わたなべ TOMO 歯科医院	850-0832 長崎県長崎市油屋町1-2 MOTOビル2F	095-820-8030	095-820-8030
	熊本	会長	川 崙 俊 明	1	川崎歯科医院	861-0000 熊本県熊本市中央区安政町2-26	096-352-8008	096-352-8012
	熊本	評議員	伊藤 明彦	5	伊藤歯科医院	861-1112 熊本県合志市幾久富建山1909-1206	096-274-5688	096-248-5688
	熊本	評議員	宇治 寿隆	7	宇治歯科医院	862-0971 熊本県熊本市中央区大江6丁目25-26	096-363-0145	096-364-5534
	熊本	評議員	椿 賢	18	城山椿歯科クリニック	861-0000 熊本県熊本市西区上代4-11-10	096-312-5711	096-312-5712
	大分	会長	長尾 威	4	ながお歯科	870-0921 大分県大分市萩原3-1-15	097-556-8575	097-556-8575
	大分	評議員	上田 源	5	ウエダ歯科	874-0848 大分県別府市大畑6-1	0977-21-8855	0977-21-8840
南九州	宮崎	会長	山田 俊介	4	山田歯科医院	880-0912 宮崎県宮崎市大字赤江414-3	0985-54-7272	0985-54-7273
	宮崎	評議員	林 昇文	5	林歯科医院	880-0033 宮崎県宮崎市神宮西1-9	0985-26-4182	0985-26-8241

連合会	地区	役職	氏名	期	勤務先	郵便番号・勤務（開業）先住所	TEL	FAX
南九州	宮崎	評議員	陶山 隆	6	陶山歯科医院	880-0023 宮崎県宮崎市和知川原2-6-1	0985-24-7774	0985-24-7825
	鹿児島	会評議員	要 光	11	かなめ歯科医院	890-0045 鹿児島県鹿児島市武1-43-12	099-252-9667	099-252-9557
	鹿児島	評議員	山之内 伸	1	山之内歯科医院	898-0015 鹿児島県枕崎市西本町58	0993-72-0477	0993-72-1198
	沖縄	会評議員	松島 一夫	8	まつしま歯科医院	904-0115 沖縄県中頭郡北谷町美浜1-1-10	098-936-0648	098-936-0011
	沖縄	評議員	城間 吉弘	4	しろま歯科医院	901-2127 沖縄県浦添市屋富祖1-3-6	098-878-6121	098-873-1471
中国	山口	会評議員	佐々木 猛	1	佐々木歯科医院	759-5331 山口県下関市豊北町神田1222-1	083-786-1818	083-786-1855
	山口	評議員	藤井 仁	4	藤井歯科診療所	750-0025 山口県下関市竹崎町3-8-23	0832-22-0221	0832-22-0336
	広島	会評議員	今井 正人	6	いまい歯科医院	730-0043 広島県広島市中区富士見町12-7	082-241-6480	082-241-6480
	広島	評議員	村上 誠一	7	村上歯科クリニック	739-0424 広島県廿日市市前空5丁目2-5	0829-50-6666	0829-50-6480
	島根	会評議員	青笹 之夫	2	青笹歯科医院	697-0033 島根県浜田市朝日町7-12	0855-23-0641	0855-23-0859
	岡山	会評議員	平 滋之	4	ひら歯科医院	708-0884 岡山県津山市津山口68-2	0868-23-1212	0868-23-1213
四国	愛媛	会長	窪田 將臣	1	窪田歯科医院	799-0101 愛媛県四国中央市川之江町2562	0896-58-2114	0896-58-2115
	高知	会長	苧坂 幸一	3	オザカ歯科診療所	781-0270 高知県高知市長浜5199-3	0888-41-5340	088-841-5347
	香川	会長	吉田 良二	5	吉田歯科医院	762-0023 香川県坂出市加茂町620-21	0877-48-3355	0877-48-3225
	徳島	会長	野口 圭司	2	野口歯科医院	770-0937 徳島県徳島市富田橋1-27	088-625-4810	088-625-4810
	徳島	評議員	近藤 雅也	4	近藤歯科医院	776-0010 徳島県吉野川市鴨島町鴨島445	0883-24-2822	0883-24-3230
	近畿	大阪	会評議員	石田 哲也	9	石田歯科医院	583-0991 大阪府南河内郡太子町大字春日1726-1	0721-98-4180
京都		会長	葉山 義則	6	葉山歯科医院	606-0851 京都府京都市左京区下鴨東梅ノ木41-2	075-702-8788	075-702-8788
兵庫		会評議員	藤田 忠篤	2	フジタ歯科医院	651-0088 兵庫県神戸市中央区小野柄通7-1-1 4F	078-291-8855	078-291-8856
兵庫		評議員	八木 隆史	1	八木歯科医院	673-0552 兵庫県三木市志染町中自由ヶ丘2-411	0794-85-0882	
和歌山		会長	藤田 知則	8	藤田歯科診療所	644-0011 和歌山県御坊市湯川町財部835-4	0738-24-3948	0738-24-3948
奈良		会長	堀内 志厚	1	堀内歯科医院	632-0094 奈良県天理市前裁町119-21	0743-62-4836	
滋賀		会長	野村 信人	5	野村歯科医院	522-0023 滋賀県彦根市原町180-28	0749-26-5183	0749-26-5183
中部	中 部	会評議員	伊藤 恒一	2	中津第一歯科医院	508-0032 岐阜県中津川市栄町4-26	0573-66-1577	0573-66-1578
関東	関 東	会評議員	中野 裕次	6	なかの歯科医院	130-0011 東京都墨田区石原2-15-9 交楽堂ビル2F	03-3829-0008	03-3829-0008



EPA ヨーロッパ補綴学会 (トルコ) を終えて



咬合修復学講座
冠橋義歯学分野
医員 高江洲 雄 (33期)

私は現在、咬合修復学講座冠橋義歯学分野に所属し、佐藤博信教授の指導のもとで、補綴、インプラントを中心とした歯科臨床を行うとともに、学生教育、臨床研究を行い、日々充実した毎日を過ごしています。

これまでに、公益社団法人日本補綴歯科学会第

122、123回学術大会、第5回日本デジタル歯科学会などで発表を行ってきました。今回これらの研究の一部を平成26年9月25～27日の3日間、トルコのイスタンブールで開催された、ヨーロッパ補綴学会(EPA : European Prosthodontic Association) 38th Annual Conference of The European Prosthodontic Associationで発表する機会を頂きましたので、報告させていただきます。

今回の発表の演題は「One to three year follow-up of the monolithic zirconia crown」でした。

ポスター発表は1日目に午前と午後の2回、30分の討論形式で行われました。他国の先生から質問を受けましたが、なんとか回答することができました。とても貴重な経験になりました。

これからも世界的な視野を持ち臨床、研究に精進していきたいと思っております。

今回、EPAで発表を行う上でご指導を頂いた



ポスター発表。佐藤教授と高橋教授と



CEREC 開発者 Mormann 教授と佐藤教授



大久保力廣教授(鶴見大学)の基調講演



佐藤教授と記念撮影

佐藤博信教授、松浦尚志准教授をはじめ、共同演者の先生方、いつも私を後押ししてくれる両親に心から感謝申し上げます。父親の影響で歯科医師を目指すようになり、迷惑ばかりかけてきましたが今では歯科医師になって本当によかったと心から実感しております。

また、来年には佐藤博信教授を大会長とし、デジタルデンティストリー“Now and Then”をテーマに第6回日本デジタル歯科学会（平成27年4月25日(土)、26日(日)：福岡国際会議場）を開催いたします。ご参加の程宜しくお願い致します。

最後になりますが、同窓会の学術振興事業制度の援助により、このように無事に発表を行うことができましたことを厚く御礼申し上げます。



旋回舞踊（セマー）



ブルーモスク

一般社団法人 歯科基礎医学会
第56回歯科基礎医学会学術大会・
総会を終えて



細胞分子生物学講座
細胞生理学分野

准教授 福島 秀文 (23期)

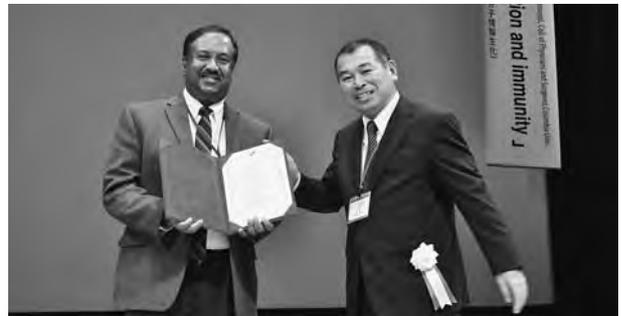
去る平成26年9月25日(木)～27日(土)の3日間にわたり第56回歯科基礎医学会学術大会・総会が、30年ぶりに福岡歯科大学が担当校となり、本学の岡部幸司教授(細胞分子生物学講座・細胞生理学分野)を会頭として、また、山崎純教授(細胞分子生物学講座・分子機能制御学分野)を準備委員長として、福岡国際会議場にて開催されました。「口腔から全身への架け橋、口腔基礎医学の展開」というメインテーマを軸として、Sankar Ghosh 教授(Columbia 大学)をはじめ国内外より多くの著名な講師をお招きし、5つの特別講演やメインシンポジウム、最多となる15のサテライトシンポジウムなど多くの学術企画が生まれ、歯科医学の基礎研究と臨床領域を横断する活発な意見交換の場となりました。当初、気を揉んでいました学会参加人数も過去最多の1,000人近くの参加があり、特別講演会場をはじめ一般公演会場、ポスター会場なども大盛況となりました。また、今大会の総会では歯科基礎医学会の公益社団法人へ移行する総会や、韓国の歯科基礎医学会との共同企画開催に関わる協定締結式などもあり、歯科基礎医学会のあり方も大きく変わる節目となる学会となりました。

隣接するサンパレスで開催された学会懇親会も、生体構造学講座の先生方のご尽力で、福岡をはじめとした九州の地の味を肴に大いに会員間の親睦を深めることができました。私の記憶では、過去の歯科基礎医学会の懇親会の中でも最も盛り上がった懇親会ではなかったかと感じています。

今学会の運営におきましては、本学の臨床や基礎の大学院生のご助力のお陰で大過なく学会を終えることができました。普段、基礎で研究をしている大学院生はもちろん、臨床講座で研究をしている大学院生にも本会の運営に多大なご協力を頂き、福岡歯

科大学同窓生の深い絆を感じた学会でもありました。また、今大会トピックスとして本学の大学院4年生の永沼香織先生(32期)が薬理学部門の優秀ポスター賞を見事に受賞されました。本賞は大学院生をはじめとした若手研究者の登竜門と言える賞で、本学の研究のレベルの高さを示すことができました。後に続く大学院生の先生方の良い目標となるのではないのでしょうか。

最後になりましたが、本学術大会開催にあたり、福岡歯科大学同窓会から温かい協賛を頂いたことや、宮口同窓会会長をはじめ、福岡歯科大学同窓会の先生方の多大なるご協力とご支援をいただきましたことを、この場をお借りして心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



特別講演 Ghosh 教授と岡部会頭



優秀ポスター賞授賞式(左から3番目が永沼先生)



終了後の集合写真

第24回特定非営利活動法人 日本顎変形症学会総会

・学術大会を終えて



成長発達歯学講座
矯正歯科学分野

助 教 中富 佑香 (29期)

平成26年6月10日(火)・11日(水)の2日にわたり、アクロス福岡で本学成長発達歯学講座矯正歯科学分野・石川博之大会長のもと、第24回特定非営利活動法人日本顎変形症学会総会・学術大会を開催いたしました。ご参加並びにご協力いただきました関係各位に深く御礼申し上げます。

本大会は「機能と美のシンフォニー」をメインテーマに、国際口腔顎顔面外科学会 (IAOMS) の会長である Piet E Haers 先生をはじめ、国内外より多くの講師の先生をお招きし素晴らしいご講演をいただきました。特別講演、教育講演、日韓ジョイントシンポジウム、シンポジウム、イブニングセミナー、ランチョンセミナーなど多くの講演が生まれ、日韓ジョイントシンポジウムでは類似点の多い両国で良好な治療結果を得るために、ともに考える貴重なきっかけとなりました。シンポジウム1では「女性だから気がつくこと なでしこ口腔外科医の挑戦!」をテーマに、本学口腔・顎顔面外科学講座口腔外科学分野より泉喜和子先生にもご講演いただき活発な意見交換の場となりました。また、一般演題として57題の口演、7題のビデオ演題および109題のポスター発表があり、活発な質疑応答が見られました。最終日には約780名を超える多くの参加者を迎えることができ、これも福岡歯科大学同窓会の先生方に、多方面にお声をかけていただいたお陰であると大変感謝しております。

また、併催しました6月8日(日)の市民公開講座では、講師の先生方に市民に向けてわかりやすくご講演いただきました。6月9日(月)の特定非営利活動法

人日本顎変形症学会第10回教育研究会では、「顎変形症患者の治療方針の決定法—術式選択に向けたアプローチ」をテーマとし、顎変形症のチームアプローチに関わる歯科医師の大変熱心な議論が繰り広げられました。

最後になりましたが、無事に盛会のうちに終了することができ、本学同窓会会長の宮口巖先生、ならびに福岡歯科大学同窓会の先生方に多大なるご協力とご支援をいただきましたことを、この場をお借りしまして心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



一般口演発表の様子



活発な質疑応答



終了後の集合写真

学内同窓会

学内同窓会会長就任挨拶

「絆」



学内同窓会
(画像診断学分野講師)

会長 香川 豊宏 (15期)

福岡歯科大学同窓会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝でご活躍のことと拝察いたします。

2013年4月から口腔治療学講座歯周病学分野の鬼塚得也先生の後任として、福岡歯科大学同窓会学内支部の会長を拝命いたしました15期生の香川豊宏と申します。私は1993年に福岡歯科大学歯学部を卒業後、同年7月に旧歯科放射線学講座の助手として採用され、現在、診断・全身管理学講座画像診断学分野で講師を務めさせていただいております。また、副会長として、福岡歯科大学の18期生である咬合修復学分野有床義歯学分野講師の都築尊先生が拝命されております。都築先生とともに、前任の鬼塚先生やこれまでの歴代学内支部会長が築き上げてきたものをより発展できるよう微力ながら務めていきたいと考えております。

現在、学内同窓会としては、福岡歯科大学学内支部総会の開催、同窓会主催のオープンキャンパスの支援、海外留学・学会発表の補助、九州地区連合歯科医師大会の参加、医科歯科総合病院歯科医師臨床研修修了の記念祝賀会の開催などの事業を行っております。これらの事業に関しまして、これまでの皆様のご協力に感謝すると共に、今後も、変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

さて、ご承知の通り、福岡歯科大学は1973年の開学以来、今年で創立42年を経過いたしました。現在では卒業生は約4,000人となり、同窓生の先生方が地域歯科医療の中核を担うようになってきております。このような中、今後は益々、本学同窓会の重要性が高まっていくものと推察いたします。

福岡歯科大学の卒業生としての「絆」である同窓会ですが、本学卒業生の本学同窓会への加入率は、宮口巖同窓会会長を始め、同窓会本部役員の先生方による有形無形の絶え間ないご支援により、年々、加入率は向上しているようです。しかし、他の大学の同窓会を調べてみますと、特に若い世代における同窓会の加入率が年々低くなり、この加入率の向上が各同窓会の重要な課題になってきております。本学同窓会学内支部においても、本年度においては卒業生の在籍数148人中、入会済みの人は59名(39.9%)と非常に低くなっております。

このような中、我々、同窓会学内支部の最大の目的は、在学中から同窓会の意義や重要性を早期に認識してもらうことであると考えております。振り返ってみますと、自分が在学中には同窓会という存在は正直、どこか他人事のように感じていました。しかし、現在では大学の発展のためには、同窓会はなくてはならない大きな存在であると痛感しております。我々、学内支部の会員は在学生にもっとも身近な同窓生です。在学生に同窓会の価値や重要性を広く知ってもらうためには、学内支部の会員の力が非常に大きいと思っております。学内支部の一人ひとりが、同窓会のために、どうすればよいのかを考え、行動していかなければなりません。学内の若き同窓生との「絆」を深め合い、在学生と同窓会をしっかりと結び付ける「絆」でありつづけることができる福岡歯科大学同窓会学内支部を目指して今後も努力していきたいと考えております。

重ねて、福岡歯科大学同窓生の皆様方の温かいご支援を心からお願い申し上げます。

「背振」・「季節風」原稿募集

広報委員会では、同窓会会誌「背振」、同窓会通信「季節風」への皆様方の近況報告や学位取得された先生方の原稿を募集しております。また、各期等の記念事業など開催の告知も掲載致しますのでお申し出下さい。

福岡県地区会

会長就任のご挨拶



福岡県地区会

会長 中 四良 (5期)

同窓生の皆様には、平素から同窓会に対してご尽力とご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、この度平成26年6月14日の福岡県西同窓会の評議員会および総会において、会長を拝命致しました、5期生の中四良と申します。紙面上にて、会長就任のご挨拶を申し上げます。

福岡県西同窓会は、平成13年12月15日に福岡市支部、宗像支部、糟屋支部、筑紫支部、糸島支部からなる5支部が連合して発足しました。現会員数（6月現在）は295名です。同窓会支部としては、最大の会員数を擁します。この大任を担ったことに対して、幸いにも多くの先生たちからご指導、ご支援そして励ましのお言葉を頂き引き続き務めさせて頂くことになりました。

福岡県西同窓会の最重要課題は、未入会会員（会費未納会員）の入会促進です。福岡県西同窓生は、現在741名いますが、会費納入会員は295名足らずです。本部の会費納入会員は435名ですので、140名の会員は福岡県西同窓会の会費が未納になっていることになります。この140名の内訳は、卒後間もない同窓生と思われます。本部の会費と支部の会費があることを理解していない点、そして、まだ今後の進路がはっきりしていない点が影響しているように思われます。このような問題点を解決するには、在学時から同窓会の活動をご理解いただけるような啓蒙活動と活動報告を念入りに広報していかなければなりません。そして、会員に少しでも役に立つことを同窓生へアピールしていかなければなりません。たとえば、院長病臥事故などの緊急時代診派遣制度や、ス

タッフ欠員時の一時補充など、会員間で情報の確立ができれば可能ではないかと思えます。まだまだ、多くの問題が重積していますが、一つずつ解決していく所存です。

次に問題なのは、同窓会への参加のきっかけをどのようにして作っていくのかです。この問題を解決する糸口になると思われることが昨年11月に行われました。それは、福岡県連合同窓会創立10周年記念講演会・記念祝賀会を開催した時、16期から35期の若い同窓生が手伝ってくれたことです。記念事業のスタッフの7割が若い同窓生でした。このきっかけが同窓会への参加の一步になることが確信させられました。とにかく、同窓生が一つの場に集まって何かを成し遂げることが解決の糸口です。そして、同窓会は母校が存続する限り永遠に続くものですから、在学生の時から気を配り、同窓会に関心をもたせ、同窓会に参加させる環境を作ることが大切です。若い芽を育てていくしかありません。

最後になりましたが、同窓生の皆様のご健康とご活躍を祈念し、そして今後とも私どもにご指導ご鞭撻を賜りますようによろしくお願いし、ご挨拶とさせていただきます。



九州地区会

九州地区会会長就任のご挨拶



九州地区会
会長 山田 俊介（4期）

今年の4月より九州地区会会長を拝命しております宮崎の山田俊介と申します。昨年の九地連鹿児島大会の九州各県支部長会議の折に、本部の副会長の武井俊哉先生より「各県支部長会議が九州地区会議となり、各地区会は都道府県同窓会、本部同総会及び母校の発展に関する協議を行う機関になります。」との説明を受け、その場で地区会の会長選出の運びとなりました。地区会長の任期が2年ということ、会長職を九地連開催県の順に受け持つこととなり、九地連次年度開催県ということもあり鹿児島県同窓会会長の要光先生の推薦を頂き私が初代会長になることになりました。青天の霹靂と申しましうか、寝耳に水と言えればいいのでしょうか、全く予想

もして無かったことですので、就任当初は何から始めて良いかも分かりませんでした。しばらくして本部から評議員定数の変更の打診があり、これまで各県ごとに評議員を出していたのを地区会の定数で選出するように要請され各県同窓会の会長の先生方にご相談したところご理解とご協力を頂き上手く配分の調整ができ、ほっと胸をなで下ろすことができました。

それから今までは年に一度、九地連の時に一堂に会して、情報交換や各県同窓会の抱える問題を話し合ってきましたが、これからは九州地区会というまとまったひとつの組織になりましたので、迅速な情報の伝達と共有が必要となってきました。幸い本部の常務理事の小柳進祐先生のご尽力で九州地区会メーリングリストを立ち上げることができました。このアイテムを活用し各県同窓会の横の連絡を密に取りあって九州地区会の総意を本部に上げていきたいと思っております。

最後にまだまだ浅学菲才の身ではありますが、福岡歯科大学同窓会の一助になれるよう会長の宮口先生や副会長の武井先生からのサポートを受けつつ2年間職責を全うできるよう頑張っていきたいと思っておりますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



中国地区会

中国地区同窓会の取り組みと
活躍中の同窓生に期待



中国地区会
会長 深井 修一（3期）

中国地区（山口県、広島県、岡山県、島根県、鳥取県）には現在約300名の同窓会員が在籍しています。

地区会長は2期2年（合計4年）とし、他県に交代するようにしています。これはマンネリ化を防ぐと同時に、各県の方に地区同窓会会長として、福岡の本部の会議に出席して、直接雰囲気を感じてもらい本部との距離感をなくそうというのが主なねらいです。

初代地区会会長が山口県、次に広島県、岡山県そして今は山口県から選出という流れで来ています。この事により同窓会本部への理解も深まり、複数の県で人材も育ちこのシステムが中国地区ではとてもうまく機能しているように思っています。

基本的には各県の同窓会活動は、各県にまかせていますが、地区役員会を定期的で開催して地区内の意思の疎通をはかると同時に、地区全体としては2年に一度学術講演会及び懇親会を開催しています。今年度は11月16日(日)にリーガロイヤルホテル広島（広島市）において開催予定です。学術講演の方は、咬合修復講座の高橋教授（3期）をお願いしています。

中国地区でも遅ればせながら、県歯執行部及び郡市歯会の会長や執行部で活躍される同窓生が多数出て来るようになりました。また全国の同窓会員全体で見ると、佐賀県歯会長の寺尾先生、大分県歯会長の長尾先生、衆議院議員の比嘉先生をはじめ各地で活躍されている先生の話聞くことが多くなり、同窓生としてはとても心強く、うれしい限りです。

内閣府の発表によると1990年度の国民総医療費は

約20.6兆円で、2013年度は約41.8兆円です。23年間で約2倍になっています。一方その中で国民歯科総医療費は1990年度は約2.35兆円で、2013年は約2.7兆円です。23年間で約1.15倍です。さらにその中には補綴関連使用金属材料の高騰による増点分も含まれています。それを除くと歯科の場合は、23年間で限りなくゼロに近いこととなります。医科の先生から「よくそれでみんな黙っているね。」と言われることがあります。歯科の先生方の中にはいろいろな形で限界を感じている者も多くいます。初診、再診料が医科の6～7割程度しかないということをはじめ、あまりにも低すぎる歯科の保険点数が今の歯科界に大きな影を落としています。

そんな中、歯科界に影響を与えるような活躍中の先生が同窓生からたくさん出てきているという事は、将来に向けてとても大きな希望となります。現在活躍中の同窓生がさらに活躍出来るようにみんなで後押しして、歯科界全体が明るく前へ進む日が来るのを期待しています。

私の中国地区会会長としての任期もあと1年余りとなりましたが、今まで以上に会員の親睦をはかり、母校の発展に寄与していきたいと思っています。今後共、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



中国地区役員一同（宮口会長を囲んで）



中国地区学術講演会

近畿地区会

近畿地区会会長の就任ご挨拶



近畿地区会

会長 八木 隆史 (1期)

はじめに、一昨年、成瀬名誉教授の叙勲祝賀会を、かくも盛大に催して頂きました分子機能制御学教室の先生方に、お礼申し上げます。有り難う御座いました。

さて、いつ私が、近畿地区会会長になったのかは定かではないが、近畿では1期生の同窓会の参加が少なく、本部に対して意見が言える1期生として私に、白羽の矢が立ったと言うことでしょうか。いま宮口会長には言いたいことを遠慮なく言わせてもらっています。今のところブロックの意見と言うよりは、私個人の不満の方が大半ですが…。私が兵庫県同窓会の支部長を発足以来15年務めました、その間なかなか本部同窓会の活動状況の情報が入ってこ

ないのが現状でした。当時は、「遠くの親類より、近くの他人」と言うように、九州の本部同窓会より、近畿近隣の他大学同窓会の方が頼りがいがあったし、学術講演会にも多数お誘い頂き、他大学との親密な横のつながりを持つことが出来ました。

はっきり言って、福岡歯科大学は九州地方の歯科医師養成大学でありますので、同窓会としても活動が九州に偏るのは仕方がないことですが、同窓会本部は、九州及び近隣の歯科医師会の会長を、福岡歯科大学同窓会で固めようと思っているようですが、各県の歯科医師会は学術団体であります。大学が学術的に知名度を上げるのが先決ではないでしょうか。日本歯科医師会総会で東京、横浜開催の学術講演に参加しても、福歯大からの論文発表がほとんど見当たらないのが残念で、もうそろそろ福歯大も全国に出ては、と思いつつ少し寂しい思いで帰ってきます。

最後に、今年で1期生の全てが、還暦を迎えました。もう先が見えて来ました。田中理事長、そして、同窓各位へお願いがあります。どうか我々1期生が活着しているうちに、福岡歯科大学の理事長、および、理事をぜひ同窓の中から選任され、名実ともに同窓が運営する福岡歯科大学を見てみたいです。よろしくお願いします。

広報からのご案内

広報委員会では次回27年度同窓会誌『背振34号』に向けて企画中です。

つきましては、下記の通り募集しています。自薦他薦は問いませんので、是非ご一報下さい。

1. 学位取得者 今まで取得された先生で、会誌に掲載されてない方、本学以外で取得された方等。

お知らせ頂きたい内容は下記の通りです。

①学位論文題目 ②取得年月日 ③学位専攻(所属・取得校) ④学位番号(甲・乙別) ⑤顔写真1枚

2. 巻頭フォト募集 表紙の写真を募集しています。風景・植物・動物・抽象的な物、感動に残る物など何でも結構です。尚、その写真のコメントも一言お書き添え下さい。

3. 原稿募集 トーク、支部報告、OB会、個人の趣味・近況・旅行等、学会報告、結婚報告、開業報告等、何でも結構です。また、その原稿に因んだスナップ写真等も同封して頂ければ幸いです。

どしどしご応募ください。(最後尾の原稿用紙をご利用下さい。)

※お送り頂いた写真はお返し致します。

連絡先 〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 福岡歯科大学同窓会事務局まで

TEL/092-863-2966 FAX/092-863-2967 Email : dousoukai@cillege.fdcnet.ac.jp

中部（東海・北陸）地区会
会長就任の御挨拶



中部（東海・北陸）地区会
会長 伊藤 恒一（2期）

昨年12月に前任の菅谷彰先生（2期）の後を受けて、福岡歯科大学中部（東海・北陸）地区支部長に就任しました2期生の伊藤恒一です。

当地区は卒業生が44名、会員が16名、非会員が28名という小さな組織です。この10年ほど、当支部は活動が休眠状態になっていましたが、昨年の夏、母校を受験する高3の息子と一緒にオープンキャンパスに参加した時、常務理事の本田武司先生とお話をする機会があり、その時に本田先生より中部地区同窓会の再構築を依頼され、私が菅谷彰先生（2期）、荻須政宏先生（8期）、後藤邦久先生（8期）に声を掛け、4人で当地区の卒業生の皆様に呼びかけ、昨年12月に名古屋市内のホテルで中部地区同窓会総会を開催することが出来ました。

本田武司先生からは、学生の現状、国家試験合格率の解説、新大学病院の建設予定案等、我々に分かりやすくお話をして頂きました。また何十年振りかの同窓生とも親しく話せることが出来ました。これを機会に未入会員の先生方にも呼びかけ、中部地区の同窓会の充実を図っていこうということで意見が一致しました。

中部（東海・北陸）支部長	伊藤 恒一（2期）
監 査	菅谷 彰（2期）
幹 事	荻須 政宏（8期）
会 計	後藤 邦久（8期）

今日現在、皆様に報告する支部の活動、写真等がありませんので、残りの紙面を私の自己紹介で埋めさせていただきます。

大学を卒業後、萩原義郷先生、上西秀則先生のもと、口腔細菌学教室に専修生として席を置きながら名古屋市内の柴田歯科医院（1期 柴田誠一先生のご実家）、奥田歯科医院、岐阜県のみどり歯科で研修後、32年前に岐阜県中津川市 JR 中津川駅前ビルで開業をしました。最初の診療所は駅ビルの2階にあり、エレベーターも駐車場もないテナントでした。開業して20年経つと患者さんが高齢化し、階段を上がるのが困難な方が増え、隣接するエレベーターのあるビルの2階に新築移転しました。それから10年経ち、開業から30年を超えると50歳だった方が80歳になり、車椅子で来院される方が多くなり、認知症の患者さんも増え、他の方の靴を間違えて履いて帰られることもしばしばありました。診療台まで土足で入っていただくように考え、昨年の2月、中津川駅前に土地をお借りし、バリアフリーの三度目の診療所を新築しました。30年で3回診療所を新設するという大変コストのかかる経験をしました。これから開業される後輩の皆様は診療室の設計を考える時、超高齢化に備えて頂けるよう御検討されると良いかと思えます。

下記の写真は昨年の2月、移転開設した時の写真です。



関東地区会

関東地区同窓会



関東地区会
会 長 中野 裕次 (6期)

関東同窓会は、北海道、東北、関東からなり地区会長、関東同窓会会長を兼任致しております。

関東同窓会の主な年間行事は、総会、学術講演会、懇親会、新年会、忘年会、理事会等です。様々な機会に会員相互の親睦を深めております。又、東京都12校歯科大学同窓校友懇話会に毎年参加、昭和61年、平成9年、21年には当番幹事校として会を主催致しました。他校同窓会行事に参加し情報交換等を行っております。

父兄後援会関東・中部懇親会にお招きを頂き、御父兄様に開業医の現況の他、同窓会活動の報告、御理解を頂き、ご子息、ご息女様の卒業後の同窓会参加をお願いして居ります。

同窓会地域が広範囲におよんでおり、遠方会員の先生方には大変ご迷惑をお掛けいたしております。

これからも同窓会活動に御理解、御協力を頂き多くの先生方のご参加を頂けましたら幸いです。



関東地区会

会長 中野 裕次 (6期)

関東同窓会役員

会長 中野 裕次 (6期)

副会長 村上 幸一 (2期)

山崎 哲雄 (3期)

鶴 洋彦 (6期)

専務理事 榎原 政博 (7期)

理事 提 三告子 (5期)

菱山 豪 (6期)

山下 伸司 (6期)

竹村 和彦 (7期)

古瀬 健一 (15期)

監事 坂口 豊 (19期)

同窓会本部役員

副会長 千原 眞治 (1期)



長崎県

長崎県同窓会「歯ってん会」
会長就任挨拶長崎県同窓会
会長 小川 豊久 (5期)

平成26年5月10日に開催された平成26年度歯ってん会総会において、6代目歯ってん会会長に就任しました5期生の小川豊久です。

私は大学時代バスケットボール部に所属し、卒業後は福岡で3年間勤務医として修行をしてから、長崎に戻って1年半後に長崎市内で開業をいたしました。

長崎に戻ってからは、歯ってん会・初代道津敏之会長の下、会計の担当理事になり27年間、歯ってん会の仕事に携わってまいりました。その間、総務理事、副会長を経験して、このたび俣野前会長のあとを引き継ぐことになりましたことを大変光栄に受けとめ、また大所帯を引き継ぐ責任の重さに身の引き締まる思いでございます。

さらに長崎県同窓会は本部宮口会長のお膝元と言う事もあり、他の同窓会からも注目されていると勝手に思い、自意識過剰を貫いていく覚悟であります。

現在、長崎県同窓会の会員数は113名で、長崎県歯科医師会の同窓会会員数では九州歯科大、長崎大学歯学部次ぐ3番手ではありますが、長崎出身の学

生も多く、今後一大勢力になることは間違いありません。数が増えたからと言って、まとまりのない会にはしたくないと思っています。

さて私は同窓会の役割とは、昔お世話になった先輩や楽しい時を過ごした同級生、そして色々な意味で可愛がった後輩たちと、昔話に花を咲かせ、家族や趣味の話で盛り上がり、将来の夢を語り合う場所を準備する所だと思っています。

又、もう一つは大学時代など過去に多くの方からお世話になった恩を、同窓会を通じて感謝の気持ちをお返しする場所であるとも考えます。

つまり同窓会の使命とは、諸先輩方が築きあげた良き伝統と誇りを後輩たちへ継承・伝承させていき、地域のために働く立派な歯科医師を育て、更には学生の皆様のために、大学の発展に貢献することだと考えます。

今後、同窓会とは如何なるものかを自問自答しながら、ある時は大胆にある時は繊細に、会員同士の融和と結束力を強化しながら、会員の先生方が居心地の良い同窓会、自慢できる同窓会を作っていくよう努力をさせて頂く所存です。

また、福岡歯科大学の発展のために本部同窓会や他地区同窓会と連携を取っていきたいと考えております。お陰さまで、長崎県同窓会は1期生から30期生以下の若い先生まで縦のつながりが強く、又各地域には信頼できる諸先輩や活きのいい後輩も多くて大変頼もしく、結束力の強い同窓会と自負しているところです。

今後とも、他地区の先生方には歯ってん会並びに福岡歯科大学同窓会が益々発展出来るようご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。



大分県

会長就任のご挨拶



大分県同窓会
会長 長尾 威 (4期)

今年の4月から福岡歯科大学大分県同窓会の会長を拝命致しました4期生の長尾威と申します。

大分県同窓会も平成元年の発足以来25年の歳月が流れ、現在では会員数も90名を数えるほどになりました。長尾博通(1期生)大分県歯科医師会会長を筆頭に多くの会員が大分県歯科医師会や各都市歯科医師会に於いての要職に就き活躍しています。

大分県内に於いても大きな勢力となった大分県同窓会が、今後も進むべき道を間違えることの無いように、ますます発展していけるように微力ではありますが、力になればと思っています。

今回の新役員人事に於いては、3年後に大分県にて開催される予定の第70回九州歯科医学大会を無事成功させることを念頭に、かつ今後の大分県同窓会の運営が盤石なものとなることを願い、またスムーズに若い先生にバトンタッチができるように、副会長には過去に厚生・会計・広報を経験した先輩を配置し、若い各担当理事を指導していける体制を整えました。

そして、就任後すぐに理事会を開催し、若い先生が気兼ねなく同窓会に入会できるように大分県同窓会の入会金の無料化を決定し、通常総会に図り、会員の賛同を得て、事業計画のメインとなる同窓会会則(定款)の改正を可決しました。また、その他にも平成19年以来の会員名簿の作成も計画しています。

最後になりますが、本同窓会が今日まで発展を続けて参ることが出来たのは、ひとえに皆様方の深いご理解とご支援の賜物と心より感謝いたします。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

新役員紹介

会長	長尾 威 (4期生)
専務理事	上田 源 (5期生)
副会長(厚生担当)	谷川 参聖 (5期生)
副会長(会計担当)	矢田 信裕 (5期生)
副会長(広報担当)	山田 道男 (6期生)
厚生担当理事	原田 裕教 (12期生)
会計担当理事	兼子 宏一 (7期生)
広報担当理事	秋好 宏隆 (8期生)
学術担当理事	菅原 健二 (7期生)
専務理事補佐	西澤浩太郎 (21期生)
選挙管理委員	竹下 尚之 (17期生)
監事	深江 順吾 (1期生)
監事	武藤 秀典 (1期生)
総会議長	岩尾 秀実 (5期生)
総会副議長	松本 考史 (10期生)



2011年9月
故 大津留先生と北海道にて

宮崎県

第67回九州歯科医学大会

in 宮崎



宮崎県同窓会

副会長 崎山 長司 (7期)

第67回九州歯科医学大会が、平成26年11月8日(土)に宮崎市の宮崎観光ホテルにおいて開催されました。今大会は、「食・健・美～口からはじめる健康づくり～」というテーマにて行われ、基調講演は、「大学教授がすすめる長生き健康法～世界一受けたい授業から～」と題して九州歯科大学副学長・附属病院長歯学科・老年障害者歯科学分野教授柿木保明先生にご講演いただきました。そのあと、特別講演として元プロテニスプレーヤー杉山愛氏により「夢をかなえる生き方」と題し講演していただきました。県民公開講座として、500名を超える県民の方が参加され、盛会のうちに閉会しました。

大会終了後、午後5時より、福岡歯科大学福岡県・九州地区同窓会会議が、同ホテル西館10階にて行われました。本部同窓会からは、宮口巖会長をはじめ、寺尾隆治・武井俊哉・岩本憲明・高嶺明彦副会長、持山達郎専務理事、長尾博通顧問が出席され

ました。また口腔インプラント学分野城戸寛史教授も出席いただき、総勢40名以上で、活発な協議を行いました。

会議終了後、午後6時30分より、同ホテル3階『飛耀の間』において、福岡歯科大学同窓会懇親会が開催されました。130名を超える同窓生の出席で、大いに賑やかな懇親会が始まりました。宮崎県同窓会の水流裕二郎監事の開会の辞につづき、アトラクションの宮崎山形屋紅會（くれないかい）の女性陣により、歯科医院商売繁昌の祈念を込めて、「繁昌太鼓」を披露してもらいました。宮崎県歯科医師会重城正敏会長と参議院石井みどり議員から祝辞をいただき、山田俊介宮崎県同窓会会長、宮口巖福岡歯科大学同窓会会長、本田武司福岡学園常務理事の挨拶をいただきました。口腔インプラント学分野城戸寛史教授の乾杯の発声にて、開宴しました。宮崎の食材をふんだんに使用した郷土料理にて祝宴が進みました。途中でお楽しみ抽選会があり、宮崎牛ヒレステーキ・活伊勢海老・百年の孤独など宮崎の名物が、多くの先生方に当たりました。

校歌斉唱のあと、来年の九州歯科医学大会の開催地の沖縄県同窓会松島一夫会長に挨拶いただき、万歳三唱をし、宮崎県同窓会崎山長司副会長の閉会の辞で閉会となりました。

懇親会終了後は、場所を移動して、70名以上の先生方の出席で、二次会開催となり、大いに盛り上がりました。

最後になりますが、県外の先生には、宮崎まで飛



平成26年11月8日 於：宮崎観光ホテル

府県同窓会だより

行機や自動車で多くの時間を割いてきていただきありがとうございました。なかなか行き届かない点もありましたが、盛会となりました。来年は、沖縄県にて、11月に開催されます。1年後にまた沖縄でお

会いできるのを楽しみにしています。

会員の皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。



平成26年11月8日 於：宮崎観光ホテル

1 期生卒業35周年記念祝賀会



山口県開業

佐々木 猛 (1期)

11月22日午後5時過ぎになると、ニューオータニに1期生が集まってきました。35周年なんて不思議な年数と思われるかもしれませんが、5年前に30周年の祝賀会をしたときに、40周年まで待ちきれない(健康でいる自信がない)から35周年を、ということになったわけです。

現役が少なかった1期生ですが、現役で入学したのも今年度中に還暦を迎え、今日の最高齢者の岡先生は70歳を超えているはずです。

当然会えば、近況報告、病氣自慢が始まり病院の待合室さながらです。臼杵先生が私に「見せたいものがある」というので、見せてもらおうと私たちが入学する前の福岡歯科大学のパンフレットでした。私たちが入学した頃は、現在の衛生士学院の横にモリタがありました。それももうありません。パンフレットの写真は昭和の薫りが、プンプンしています。それにしても40年も前のパンフレットを、もっておられた臼杵先生には恐れ入りました。

和やかな中で写真撮影が始まりましたが、高齢者ばかりなので表情が堅い、写真を撮られることになっていないのです。祝賀会は長尾先生の開会の辞、

会長挨拶と順調に始まり、乾杯の後卒業アルバムの個人写真と過去の祝賀会の映像を会場のスクリーンに映し出して、飲みながら「あれは、誰かー、髪がないからわからん。」などと好きなことをしゃべっていました。個人写真は230枚、1期生全員を映し出すと時間がかかります。私が作ったのですが、「写真だけでは分からないから名前を大きな字でつけろ。」「現在はどうなっているかも(髪の毛がなくなっている写真)一緒に写せ。」などとビフォーアフターの注文が付く始末です。それでもみんな仲良く、学生時代と同じように恩師のスピーチは聞かずに楽しく過ごしました。

終わり近くになって、校歌斉唱の歌唱指導に武藤先生が壇上に上がった頃は、絶好調で同期生を指さして「おまえ、おまえ、誰やったかのう。」と言いつつ始末、万歳三唱の岡先生は、福岡歯科大学は年寄りに優しいと、笑いを取りながらも40年前の秘密を暴露して、升井先生の閉会の辞では5年後の再会を約束してそのまま二次会に突入しました。

二次会もあっという間に終わってしまいましたが、三々五々と三次会に突入しました。私は入学から3年間を一緒に過ごしていた、緒方先生が最近開いたバー「ヤモリ」に連れて行ってもらい、緒方先生との再会を果たしましたが、緒方先生はマスターとして忙しく働いていたのでゆっくり話が出来なかったのが残念です。

追伸

校歌の合唱にあわせて、歌詞が現れるカラオケのようなビデオを作りました。バックの映像は最近の歯科大学の映像です。同窓会のホームページからアクセスできます。

<http://www.fdcnet.ac.jp/col/collink/alumnus/index.html>



福岡歯科大学学内同窓会・学術振興事業の実施について

学内同窓会長 香川豊宏

本事業は、福岡歯科大学学内同窓会に属する正会員、準会員を対象とする学術および研究活動を支援するものです。同窓会年会費を滞りなく納めている者が対象です。

対象項目

- 1) 研究助成金（学内同窓会正会員の研究を対象とする）
- 2) 研究奨励賞（学内同窓会正会員の論文を対象とする）
- 3) 旅費援助金（国内外で開催される国際学会の発表に対する旅費の援助）
- 4) 留学援助金（外国・国内留学への援助金）

この4つの事業により成り立っており、同窓会特別委員会により管理運営されています。同窓会で集められた大切なお金が、留学・国際学会での発表のために使われた事は、大変名誉な事です。これも一重に、同窓会員の皆様のご理解と宮口同窓会長の采配の賜物と感謝しております。これからも、本事業にご理解の上、ご支援をお願い致します。

福岡歯科大学同窓会・学術振興事業内訳

事業名	対象者	金額	申請書類	備考
研究助成金	同窓会学内支部に属する正会員	50万円を上限とする。	様式1、様式2 推薦状	大学経理、推薦者を経て、申請者の研究費となる。
研究奨励賞	同窓会学内支部に属する正会員	3万円	様式1、様式3 推薦状、別刷2部	本賞金は同窓会総会等において同窓会長が賞状と共に授与し、2名を限度とする。
旅費援助金	同窓会学内支部に属する正会員、準会員	正会員 国内10万円 海外20万円 準会員 国内5万円 海外10万円を 上限とする。	様式1、様式4 発表演題の受領を証明する書類を添付	国際学会を対象とし、原則として正規の旅費以内で援助限度額以内とする。
留学援助金	同窓会学内支部に属する正会員	国内 10万円 海外 20万円	様式1、様式5 留学先の受け入れを証明する書類を添付	

※本事業の申請については、同窓会本部事務局へお尋ね下さい。

福岡歯科大学 6 期生 卒業30周年記念同窓会 パート 2



東京都開業
中野 裕次 (6期)

平成26年8月2日(土)午後6時、グランドハイアット福岡に於いて、6期生卒業30周年記念同窓会が、同窓会会長宮口巖先生にご臨席を賜り、参加50余名にて開催されました。

会場受け付けは、次々に来場する同期生で次第に賑やかになり、最初に集合写真の撮影がありました。

菱山豪先生の司会進行、定刻の午後7時開宴に先立ち、御来賓の同窓会会長 宮口巖先生にご挨拶をいただき、高嶺明彦先生、疋田三郎先生の挨拶の後、乾杯に続き祝宴となりました。

卒業30年を経過し、体型、髪型に多少(?)の変化はあるものの、気持ちは学生時代と少しも変わらず、飲んで、食べて、入学当時、大学の周りは田圃や畑で周辺道路の多くは未舗装、アパートは、水不足は等々、話の輪が出来、大変な盛り上がりでした。

祝宴後、同ホテル二次会会場に移動し楽しい時間

は過ぎて行きました。二次会お開きとなりましたが、多くの方が、会場ホテルから博多の街に流れて行ったことは言うまでもありません。

タイトルに「パート2」とありますが、実は平成24年3月19日に、高嶺明彦先生をはじめ沖縄の先生方にお世話を頂き、30周年記念同窓会パート1が開催されております。

次回、35周年記念を開催することが決まりましたが、パート1、2更に3(?)もあるのではと期待致しております。

今回、30周年記念同窓会開催にあたり、幹事の大役をお引き受けいただきました、斎藤孝徳先生をはじめ、担当をされました先生方に心よりお礼申し上げます。有難うございました。

次回、6期生同窓会で皆様にお会いできますことを楽しみに致しております。





福岡歯科大学第16期同窓会 20周年記念特別講演会・祝賀会

福岡市開業

古田 修一 (16期)

平成26年11月22日(土)、ホテル福岡オークラにて福岡歯科大学第16期卒業20周年記念事業が午後7時より開催されました。これも偏に皆様方のお力添えの賜物と衷心より感謝申し上げます。当日、何かとご多忙中のところ、福岡学園常務理事本田武司先生、福岡短期大学長栢豪洋先生、福岡歯科大学同窓会副会長神田晋爾先生、福岡歯科大学同窓会専務理事持山達郎先生、福岡歯科大学第6期卒業北園俊司先生、元福岡歯科大学学務課係長守田健様にご臨席賜り、また連休初日にも関わらず北は大阪、南は沖縄から総勢48名もの同窓生が集い盛大に執り行われました。

午後7時より、鹿児島市でご開業の医療法人きたぞの矯正歯科理事長北園俊司先生による「トゥースポジションを再考する」を演題に特別講演をして頂きました。咬合不正が原因で生じる咬合崩壊について、矯正治療を含めた包括的治療を行うことにより、炎症、カリエスと咬合のコントロールが行いやすくなりメンテナンスしやすい環境を整えることにより、予知性の高い口腔内の構築ができることについて等、また、今回は、前歯部においての良い歯の位置・角度はどこを目標にすればよいのか、そして実際歯の位置を改善したことで、より審美的・機能的な補綴治療を行えた症例を提示して頂き有意義なご講演を行って頂きました。講演終了後、活発なディスカッションが行われ、普段疑問に思っていることへのアドバイスを頂き特別記念講演会は幕を閉じました。

午後8時から、会場を移動し記念撮影後、祝賀会が執り行われました。まず、はじめに、ご来賓の本田常務理事、栢短期大学長、神田同窓会副会長にご祝辞を頂き、鏡開きを行ったあと、持山同窓会専務理事の乾杯のご挨拶後、祝賀会が始まりました。10周年祝賀会ぶりに会う同窓もおり、学生時代の思

い出話しや近況報告などで楽しい席となり、また元第一口腔外科助教授の若江秀敏先生もお見えになって頂き大いに盛り上がりました。

最後に、学生時代に大変お世話になった元学務課の守田さんの万歳三唱で無事に幕を閉じ、その後、二次会、三次会で各々仲間同士、夜がふけるまで盃を交わし語り会いました。

無事に卒後20周年を迎えられたのも、皆様方の日頃の御支援があったからこそであり、感謝の至りにつきます。このうえは、皆様方のご激励を胸に、第16期卒業生一同、福岡歯科大学の名に恥じぬように、地域医療の貢献に努めてまいる所存でありますので、今後ともご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、第16期卒業は88会と称し各県で持回りで、毎年同窓会を開催しております。次回は熊本で開催されますので、来年、また皆様とお会いできることを楽しみにしております。



親子でお世話になりました

宮坂 圭太 (1期)

宮坂 彩花 (36期)



娘は熊本大学の研修医として4月に帰熊したばかり。まだまだ親子で頑張っているという状況ではありませんが、研修医として、娘は歯科大学のない熊本県の拠点病院で夜遅くまで頑張っている。なかなか仕事のことを話す時間がないのが現状です。この場を借りて、私の思いを書かせていただきます。

長女が歯科医師として熊本に帰ってきた。歯科教育も35年違うと、かなり進歩していると思うことがたくさんある。かく言う私も父の診療所に勤務した頃、綿せん根充、継続歯、開面金冠と???疑問符だらけの診療風景に出くわした。しかし変わらないものもあることを、しっかりと伝えたい。ちなみに父の歯科医籍登録番号は2万7千、私7万7千、娘17万5千と30数年ごとで、およそ2倍の増加率であり、歯科医師需給問題も大きな問題となっている。下村文部科学大臣は「優れた入学者確保が困難な大学、国が試験合格率の低い大学などの入学定員を見直す。」と発言、注目を集めている。団塊の世代の引退とともに次世代の時代が来ることを信じている。60歳を過ぎ、まだまだ若造だが次の世代がもうそこにいることを自覚したい。

公共の福祉に寄与することが歯科医師としての役目であることに違いない。ただただ「自分だけが」と思う歯科医院の増加が心配だ。最近の医療苦情相談の内容が医療の相談でなく、あまりにも歯科医自身の人格に疑問符を打たざるを得ない内容が多くなりつつあることが心配である。

歯科医師は国家資格を持った「反社会的勢力」になってはいけない。自分だけが（自分の診療所だけが）よくなれば良いという考えは捨てて欲しい。

理想論かもしれないけどみんなが手をつないで歯科界がよくなればと思っている。歯科界全体の幸せが個人の幸せになることを願うばかりだ。

My way and our ways

今井富実生 (2期)

息子から歯科医師になりたいと大学受験前に言われたときは正直とまどいました。親の職業を認めてもらえたという喜びと、歯科医師過剰問題が深刻であるという現実は、喜んでばかりいられません。だからというわけではありませんが福岡県の地域保健部員として、また現在は地域保健担当理事として私は、歯科医師の職域を広げ、県民の口腔への健康意識を高めていただくための仕事をしております。このことにより人々が歯科医院を気軽に訪れ相談できる環境になればまだまだ歯科医師も捨てたもんじゃなくなると思います。またわれわれも歯科医院にくる方を患者として扱うのではなく人と人とのふれあいがかかわっていけばいいのではないかと考えております。

息子が無事最短年限で卒業し国家試験も無事通過してくれ、うれしいお土産として理事長賞まで取ってくれて親としてはうれしいかぎりです。しかしこれからは歯科医師として対等である以上、自分で My way を決めてがんばってください。できるアドバイスはいくらでもしますから、そして our dentist way を生きてみたいと思います。さて大学院に行くきみのためにもう一がんばりしましょうか。

今井実喜生 (36期)



今春歯科医師国家試験に合格し、父の後を追いついて歯科医師になることができました。幼いころからの夢であった歯科医師になれたのは、亡き祖父を始め家族、諸先輩方、同期友人達、大学関係者の皆様の力添えのおかげだと深く感謝しております。現在は九州大学病院にて日々勉強の研修医生活を送っています。歯科医師となり学生時代に父に言われた「歯科医師になってからが本当のスタートだ」という言葉を改めて痛感する毎日です。来春からは九大義歯補綴科大学院に進み補綴のスペシャリストになるべく日々勉強に励みたいと考えています。そして将来は父とともに歯科医師として地元朝倉に貢献したいと考えています。

福岡歯科大学出身というプライドを持ちこれからも日々努力していきたいと思っています。

娘、そしてこれから卒業される皆さんへ～贈る言葉として～

山鹿 茂彦 (2期)

私は、昭和59年に現在の古賀市に開業致しました。当時は、歯科医師不足もあり、夜遅くまで診療時間がかかることがあるほどでした。

娘が、歯科医師となった今、現状は、医科同様専門的に分かれており、日々の勉強も大変なことと思います。

卒業していかれる若い先生方、そして娘に贈る言葉として、一般的ではありますが…経営は、大変とされています。しかし、日々、努力さえしていれば、歯科も医科の分野に入っている現在です。未来は、明るいと思います。

今年、卒業させて頂いた娘も今は、福岡大学病院歯科口腔外科で、研修医として勉強させて頂いていますが、私は、若い時頑張れば、皆さん将来立派な歯科医師になられることと信じております。



山鹿 多紀 (36期)

今年の春、晴れて107回歯科医師国家試験に合格し、早いもので半年が経とうとしています。現在、福岡大学病院歯科口腔外科にて研修させて頂いています。

総合病院での研修をはじめて感じていることは有病者・高齢者の方の歯科治療の難しさです。基礎疾患をお持ちの患者さんといかに向き合い治療方針を決めていくか毎日が勉強であります。その中でもやはり医科との連携、開業医の先生方との連携の大切さを日々痛感している次第です。

これからも、両親への感謝の心を忘れず、母校で学ばさせて頂いたことをしっかりと生かし日々精進していこうと考えております。

一生が勉強です。まだまだ未熟な私ですが、今後とも皆様のご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

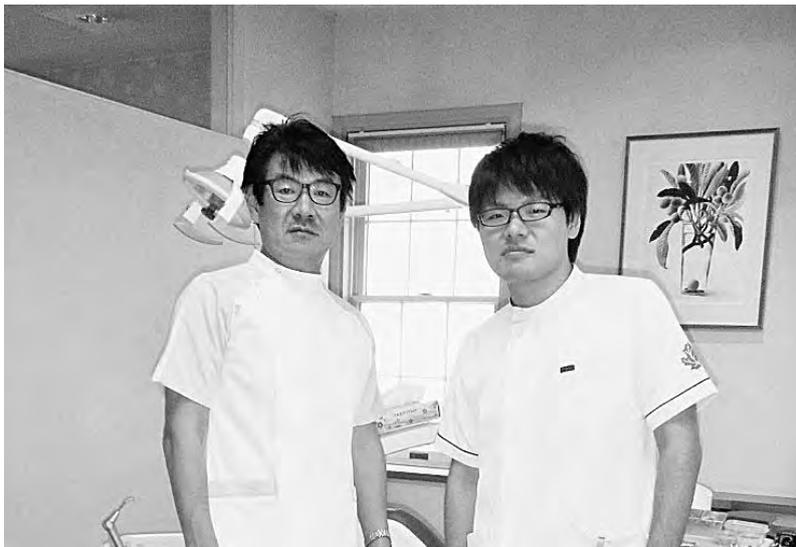
あつという間の三十数年

塩次 稔浩 (3期)

子供が福歯大に入学して学生をしている時は、漠然と国家試験に通ればくらいに考えていた。

今、歯科医師になって研修医として九州歯科大にお世話になっている。たまに話す機会があると、仕事の大変さを愚痴ってくる。三十数年前の記憶がよみがえる。仕事ができない時、それなりに苛められたこと。そして、仕事ができるようになると待遇、収入が良くなり仕事になったこと。これから先も代診、開業と職場が変わるたびに大変なことがある。逃げるわけには行かないのだから子供にも頑張ってもらいたい。同じ職業に就いた今、この職業の良さも大変さもわかる。気になることが多いと思うが、できるだけ口を出すのは良そうと思う。しかし聞かれた時は仕事にしろ、プライベートにしろ頼りがいがある返事ができるよう再度勉強しておきたい。

今まで、誰からも負けたくない頑張ってきたが、息子だけには私を超えてもらいたいと思う。しかし簡単に追い越せさせるのもどうかと思うので、頑張ってやっと追い越せたと言わせたい。そう思いながら毎日の診療に励んでいる。



塩次 将平 (36期)

両親を含め、様々な人に支えられ、今春、歯科医師国家試験に合格することができ、歯科医師として第一歩を踏み出すことができました。

臨床研修医として半年間研修をさせていただきましたが、国家試験に合格するということは、あくまでも歯科医師としてのスタートラインに立つ資格を得ただけであると同時に、歯科という医療行為を行う上で、その責任を負うことであることを実感しました。

歯科医師として大成し、また、歯科医師という責任を果たせるよう日々努力を惜しまず精進し続けたいと考えております。未熟な面も多々ありますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

「感謝」

近藤 英紀 (4期)

歯科医師会や仕事が忙しいなど言っっては、子育ては部活の手伝いくらいしかせず、三男一女の担任の先生が男か女かも知らないような親父でしたが、長男が高校3年になって突然歯科医師になりたいと言ってきたときはさすがに驚きました。

周りの人たちに支えられながら研修医となった息子に親としてはあれもこれもとたくさん思うことはあります。が、私も歯科医師になって30数年積み上げてきたものを簡単に伝えられるはずもなく、押し付けられてもイヤだろうし、休日の都合のいい時は親父の診療でも見に来いよ、くらいでいます。他人には聞けないようなことも尋ねられるし、知ってるふりして診療するようなことのないようにしないとイケませんしね。家内は、歯科衛生士やスタッフとは仲良くしなさい。嫌われんようにせんと助けてもらえんよ、なんて言ってます。ちなみに私は仲良くなりすぎて結婚までしちゃいましたが(笑)。

息子には患者さんから「かかりつけ医」と言われるような歯科医師を目指してほしいですが、先は長し多くの人の影響を受け感謝しながらじっくりと勉強していってくれたらと思います。子育てに正面から取り組まずにいた親父としてはまずは歯科医師になってくれた息子に感謝です(^_^)v



近藤 光 (36期)

歯科医師国家試験に合格し、多くの知識を得てきたつもりでしたが、約半年間研修をさせてもらっていると本当にわからないことばかりです。その分、学生の時にはわからなかったことをいろいろと吸収してもらい、貴重な研修期間を過ごさせているのかなと思います。

私が歯科医師になりたいと思ったのは、やはり父親の影響でした。診療している姿を見たことはあまりなかったのですが、最初は「親父のやってる歯医者ってすごいのかな、俺もなれるのかな」というぐらいの思いで歯科大に入学しました。ただ、少しずつ歯科のことがわかってきて、父親の診療を見学したとき、「親父ってすごいな、俺もこんなふうになりたいな」と思うようになりました。今では、診療に関する相談や悩みなどを聞いてもらい、非常に頼りになる存在です。そんな父親といつか一緒に働ける日がくればいいなと思い、これからも頑張っていきたいと思います。

福岡歯科大学弓道部 OB 会近況報告



弓道部 OB 会
会 長 村田 淳一（8期）

弓道部 OB 会は、1979年 1 期生の卒業と同時に発足し、現在は、100名を超える会員がいます。

この度、崎山長司前会長（7期）の後を引き継いで、8代目の弓道部 OB 会会長に就任いたしました。

平成26年 2 月15日(土)八仙閣本店において弓道部 OB 会総会・懇親会が行われましたので、近況と併わせて御報告致します。

弓道部では、昨年のオールデンタル男子団体戦において、悲願の団体初優勝を達成致しました。

今年のオールデンタルにおいても、33年振りに、男子個人戦優勝を成し遂げてくれました。会長として、OB 会のまとめ役だけではなく、弓道部学生との良きパイプ役になれるように、努めてまいりたいと思います。

OB 会では毎年 2 月に総会、懇親会を行っておりますが、遠方からの会員の出席もあり、楽しく開催しています。

より多くの会員の参加があるよう開催時期の変更も検討しています。

また、会員同志の連絡を密にするためにメーリングリストを活用していますが、より充実したものにしていきたいと思ひます。

今年 8 月 4 日(月)～7 日(木)新潟県で開催されたオールデンタルにおいて男子団体 5 位入賞と個人戦入賞（男子個人優勝：本学 3 年富田洋嘉くん、女子個人 6 位：短大 2 年中野朱梨さん）となりましたので、9 月20日(土)に、平和楼天神本店において祝賀会が行われました。弓道部 OB 会から久保山博子副会長と

吉田朋洋専務が出席して、お祝いをさせていただきました。

今後とも弓道部および OB 会をよろしく願い申しあげます。なお新役員は以下の通りです。

- 【会 長】村田 淳一（8期）
- 【副 会 長】久保山博子（8期）
- 【副 会 長】姫野 尚宏（11期）
- 【代表幹事】吉田 武博（4期）
- 【専 務】吉田 朋洋（19期）
- 【会 計】川口 智弘（29期）
- 【メーリングリスト・住所録担当】丸尾 直樹（32期）



懇親会後の集合写真

（平成26年 2 月15日(土)於八仙閣本店）



平成25年オールデンタル男子団体戦優勝後の祝賀会

（平成25年 9 月14日(土)於平和楼）

「福岡学園はいま」

福岡歯科大学事務局 企画課

世の中の動きは大変に激しく、国内外では多くの困難な課題が提起されています。私共は、そのような社会教育環境のもとで、建学の精神を忘れず、中期構想の実現に努力しております。

以下、この一年間の学園の主なトピックスをご紹介します。

○学園役員改選

任期満了に伴う本学園の理事・監事・評議員の改選が、7月15日及び8月3日に開催された理事会、評議員会で行われ、理事11名、監事2名、評議員25名が決まりました。また、理事長として田中健藏氏が、常務理事に水田祥代・本田武司の両氏が再任されました。

なお、今期より新たに新理事・評議員に多田昭重氏、古谷野潔氏、新評議員として阿南壽氏、大星博明氏、江頭啓介氏、持山達郎氏のあわせて6名が選任されました。



田中健藏理事長

○福岡歯科大学と福岡医療短期大学が大学教育再生加速プログラムに選定

福岡歯科大学、福岡医療短期大学は、この度、文部科学省平成26年度「大学教育再生加速プログラム（AP）」に申請し、採択されました。

AP事業は、教育再生実行会議等で示された新たな方向性に合致した先進的な取組を実施する大学等

を支援することを目的としており、GP事業の後継となるプログラムと言えます。

申請件数は、国公私立の大学、短期大学、高等専門学校を合わせ250件で、3テーマ合計で46件が選定されました。

採択された事業内容は次のとおりです。

・福岡歯科大学（テーマⅡ〔学修成果の可視化〕）

福岡歯科大学では、学長のリーダーシップの下、大学内の成績などの様々な教学情報を収集、管理、分析する教育支援・教学IR室を新設し、学修成果の可視化を図っていきます。それにより、各学生の学修成果を把握し、教育内容、方法等の改善を図ります。さらに卒業生の調査から得られた結果を教育にフィードバックすることによって、大学教育の質的転換と内部質保証を行うものです。

・福岡医療短期大学（テーマⅠ・Ⅱ 複合型）

福岡医療短期大学では、学修成果アセスメントテスト、学生の行動や満足度等に関する間接評価調査、産業界のニーズを反映させた共通ルーブリック、学生ポートフォリオなどを活用し、学修成果の可視化及びアクティブ・ラーニングの質向上と汎用的能力の育成のための教育改善モデルを実践していきます。さらに、卒業後の専門職としての汎用的能力の定着の向上と医療・福祉系実践教育におけるアクティブ・ラーニング教育改善モデルの提唱を達成目標として、人材養成機能の抜本的強化を図っていきます。

○地域連携推進協議会が始動

地域、自治体及び医療・保健・福祉関係団体代表者との情報共有、意見交換、協議等を進めるための地域連携推進協議会が平成26年1月に始動しました。当協議会には福岡県と福岡市早良区の関係者、福岡県と福岡市の医師会及び歯科医師会、早良区自治組織連絡協議会、並びに同窓会の代表等が委員と

して参加します。

1月29日に福岡歯科大学において行われた、第1回地域連携推進協議会では、昨年発足した福岡歯科大学・福岡医療短期大学地域連携センターの事業計画等について協議が行われました。また、4月23日には第2回の協議会が開催され、福西会病院（福岡市早良区）との連携や公開講座の開催等について話し合いが行われました。福西会病院とは、5月19日より内藤 徹教授（高齢者歯科）を中心としたチームが、入院患者の周術期口腔機能管理を開始しています。

今後は年2回（4月・10月）の協議会を通じて、新たな連携先の検討も含めたさらなる活動の展開を目指していきます。

◆福岡歯科大学◆

○国際交流

・ブリティッシュコロンビア大学

平成26年4月20日から5月4日まで、カナダ・バンクーバーのブリティッシュコロンビア大学を学生4名が訪問しました。この交流は、平成22年2月にブリティッシュコロンビア大学歯学部との間に結んだ提携に関する協定に基づき実施されているもので、今回で4度目を数えます。参加した学生からは、勉強だけでなく、様々な考え方や価値観に触れることもできる貴重な機会になったとの感想が寄せられました。



ブリティッシュコロンビア大学訪問

・中国医科大学口腔医学院

平成26年4月20日から27日まで、中国医科大学口腔医学院を教員2名と学生6名が訪問し、同年9月27日から10月5日まで、中国医科大学口腔医学院より学生訪問団が本学を訪れました。

今回が2回目となる中国医科大学との学生交流は、平成25年3月に結ばれた姉妹校協定に基づいて行われました。両校の学生にとって国際交流は大変有意義なものであり、今後更なる交流の発展が期待されます。

・上海交通大学口腔医学院

本学との学生交流は、平成18年から毎年行われ、今年で9回目になります。

今年は、平成26年4月20日から27日まで、上海交通大学口腔医学院を教員1名と学生7名が訪問し、同年11月30日から12月5日まで、上海交通大学口腔医学院より学生訪問団が本学を訪れる予定です。



上海交通大学訪問

・慶熙大学校歯科大学

平成26年2月2日から2月9日まで、韓国・慶熙大学校歯科大学より学生訪問団が本学を訪れ、同年4月27日から5月4日まで、慶熙大学校歯科大学を学生5名が訪問しました。

慶熙大学との学生交流は平成19年から24年まで隔年で行われていましたが、25年より毎年行われるようになり、双方の学生が自国以外の歯学や生活について直接意見交換ができる、貴重な学びの機会となっています。

・ヤンゴン歯科大学

大関悟教授（口腔腫瘍学）をリーダーとする本学医療チームが平成25年12月21日から29日まで、ヤンゴン歯科大学との姉妹校協定に基づく学术交流および医療援助活動の一環としてミャンマーに派遣され、ヤンゴン歯科大学口腔顎顔面外科と共同で手術や診察を行いました。今回は例年行っている口唇・口蓋裂の手術32例とともに、昨年から開始した口唇・口蓋裂児の術後経過観察調査・診察と小児歯科の岡暁子講師による口腔診察・ケアが行われました。また、医療援助を開始して20年目の節目となりましたので、ヤンゴン歯科大学で“Present situation and prospect in the treatment of CL&P in Myanmar”のテーマで Joint Symposium を開催しました。

滞在中にはヤンゴン歯科大学との姉妹校協定に基づく今後の大学間交流について学長や主だった教授との意見交換が行われ、今後、共同研究や人材の交流の発展が広がることが期待されます。



ミャンマー訪問

科衛生士1名、早良区から保健師3名の計11名で板屋地区の住民6名を対象に口腔健診や口腔機能検査および血圧測定、栄養指導等健康調査を実施しました。

健診結果は、月例の健康教室を通じて住民にフィードバックされます。



板屋地区での健康診断の様子

○第107回歯科医師国家試験

平成26年3月18日、厚生労働省から第107回歯科医師国家試験の結果が発表されました。全国の受験者3,200名中、合格者2,025名、合格率は63.3%でした。本学からは今春卒業した92名及び既卒者43名、計135名が受験し、80名が合格しました。合格率は59.3%でした。

○地域連携

平成26年8月6日、地域連携センターは早良区地域保健福祉課と合同で板屋地区（福岡市早良区）における健康診断を実施しました。

板屋地区は、福岡県最高峰の脊振山の中腹に位置し、地域住民31名のうち65歳以上の方が64%を占める、超高齢地区です。2004年にバス路線が廃止されたため、病院に通院することが極めて困難な医療過疎地域となっています。2010年5月に、本学高齢者歯科学分野（内藤徹教授）と早良区地域保健福祉課（水戸川真子保健師）を中心とした高齢者支援事業の取り組みが始まって以来4回目の健康診断となりました。本学からは歯科医師6名、看護師1名、歯

福岡歯科大学の過去の合格率

（順位は私立歯科大学17校中）

平成10年	（第91回）	95.0%	1位
平成11年	（第92回）	86.8%	3位
平成12年	（第93回）	81.1%	2位
平成13年	（第94回）	92.4%	4位
平成14年	（第95回）	87.0%	5位
平成15年	（第96回）	98.3%	2位
平成16年	（第97回）	87.0%	3位
平成17年	（第98回）	63.9%	13位
平成18年	（第99回）	76.4%	11位
平成19年	（第100回）	70.7%	10位
平成20年	（第101回）	62.9%	9位

平成21年（第102回）	76.0%	5位
平成22年（第103回）	80.5%	2位
平成23年（第104回）	67.2%	7位
平成24年（第105回）	66.9%	8位
平成25年（第106回）	69.5%	8位
平成26年（第107回）	59.3%	9位

○生涯研修の充実

福岡歯科大学では平成23年12月に開院した口腔医療センターを生涯研修の中核施設として、歯科医師等の資質の保持・向上に向けた研修を積極的に開催しています。

平成25年度は、「口腔インプラント中級講習会『エビデンスに基づく口腔インプラント治療』」、「口腔インプラント初級講習会」、「歯科臨床に役立つ医科の知識」、「口腔インプラントセミナー」、「保存・歯周治療の基本と応用」、「口腔外科・全身管理・画像診断学講習会」の6つのプログラムを実施し182名の方が参加されました。

平成26年度は、「口腔インプラント初級講習会」、「在宅歯科医療に役立つ医科の知識」、「歯科臨床に役立つ生活習慣病の知識」、「口腔インプラント中級講習会」を実施・計画しております。今後も、歯科医学・歯科医療の進展や社会環境の変化に対応し、社会のニーズに応えることの出来る歯科医師等の育成・支援を目指して、様々な生涯研修を開催しますので、是非ご参加ください。



生涯研修の様子

○関口教授らの研究プロジェクトが私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択

先端科学研究センターの関口睦夫教授を代表とする研究プロジェクト「疾患の発症と進展を抑制する分子基盤」が平成26年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択され、助成金（5年間で75,000,000円の予定）を獲得しました。

多くの疾患の背景には、遺伝子の発現異常や突然変異などの遺伝的要因があり、それに生活習慣を含む環境的要因が作用して疾患が発症し進展します。したがって疾患を制御するためには、ゲノムを安定に保ち、その発現を適切に制御することが重要です。本研究は、そのような認識に基づいて我が国における三大死因である悪性新生物、心臓血管病、感染症に対する生体防御機構および環境因子の影響について研究し、口腔疾患を含む多くの疾患を制御する基盤を確立しようとするものです。

◆医科歯科総合病院◆

○地域連携

平成26年6月8日、福岡県歯科医師会館において、「第39回福岡市民の歯を守る集い」（福岡市歯科医師会等と共催）が開催されました。本学からは、小児歯科、禁煙相談、口臭予防、口腔外科等の相談コーナー等を開設し、お子様連れから高齢者の方まで多くの方にご利用いただきました。

今後も、本院の理念である安全で質の高い、思い



福岡市民の歯を守る集い

やりのある医療を提供するとともに、豊かな人間性を備えた有能な医療人の育成に努め、地域の患者様に満足されるよう、病院機能の維持と向上にさらに努力して参ります。

◆福岡医療短期大学◆

○第23回歯科衛生士国家試験

平成26年3月27日、厚生労働省から第23回歯科衛生士国家試験の結果が発表されました。福岡医療短期大学・歯科衛生学科からは卒業生81名（既卒者1名）が受験し、合格者は78名、合格率は96.3%でした。なお全国の合格率は97.1%でした。

今回も昨年同様、国家試験対策として国試問題集の出題範囲を限定した演習試験を15回実施し、各回の成績不振者（約20名）に対して、水曜・金曜日の放課後と土曜日に補習を行いました。また、演習ならびに模擬試験の成績不振者には冬期休暇中はもとより、国家試験直前まで特訓補習を実施しました。



今年も引き続き、教職員が一丸となって、厳しい倫理観としっかりした価値観、さらに目的意識を持ち、学生が意欲をもって勉学し、同窓生が誇れる母校を目指して参りたいと思います。

福岡歯科大学同窓生の皆様には、今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年10月
福岡学園 企画課

◆受賞など◆

○松本光生名誉教授春の叙勲受章

平成26年春の叙勲において、福岡歯科大学名誉教授 松本光生先生が、教育研究功勞により「瑞宝小紋章」を受章されました。松本先生は、福岡歯科大学歯科矯正学教室の初代教授として教育・研究にあたられる一方、学生部長、附属病院長も歴任され、

大学の発展にご尽力いただきました。



松本名誉教授

○本田武司常務理事が日本ラグビーフットボール協会功勞賞を受賞

本田常務理事が、永年にわたるラグビー競技の安全確保への貢献およびマウスガードの採用普及と定着推進への貢献が評価され、平成25年度日本ラグビーフットボール協会の功勞賞を受賞しました。

4月29日に行われた表彰式では、公益財団法人日本ラグビーフットボール協会 森喜朗会長より、賞状と記念品が授与されました。



表彰式の様子

○画像診断学分野元助教授・和田忠子先生日本歯科医学会会長賞受賞

本学の画像診断学分野元助教授で、平成18年3月に定年退職された和田忠子先生が、日本歯科医学会会長賞（地域歯科医療部門）を受賞しました。この賞は、地域歯科医療に30年以上従事し、地域において指導的な役割を担い、地域社会の歯科保健衛生の向上に著しい功勞があったと認められた方に贈られるものです。この度の受賞を心よりお祝い申し上げます。

◆ 人 事 ◆

(平成25年11月1日～平成26年10月31日)

■ 福岡医療短期大学長再任



平成26年3月に開催された理事会において福岡医療短期大学長の選任が審議され、栢豪洋現学長の再任が決定しました。

任期は平成26年4月1日から3年間です。

■ 名誉教授



8月3日、谷口邦久前教授(病態構造学分野)に福岡歯科大学名誉教授の称号が授与されました。谷口名誉教授は平成26年3月に退職されるまでの38年3か月間、福岡歯科大学の教育・研究の向上に尽力し、多くの研究業績を残されました。

■ 新役職教員紹介

平成26年3月に開催された理事会において、病院の活性化と管理運営体制強化のため新設された医科歯科総合病院副院長が次のとおり決定しました。任期は平成26年4月1日から2年間です。

- 医科歯科総合病院 副院長 阿南 壽
(歯科保存学分野・教授)
- 医科歯科総合病院 副院長 大星 博明
(内科学分野・教授)



阿南副院長



大星副院長

■ 新任教授紹介



【平成26年4月30日付】

かねこたかし
金子高士 教授

(口腔医療センター)

〈略歴〉

鹿児島大学歯学部卒。長崎大学歯学部歯科保存学第2講座(歯周病学)助手、米国マサチューセッツ大学医学部感染症部門学位取得後研究員、長崎大学病院歯周病治療室講師を経て平成26年4月30日福岡歯科大学口腔医療センター教授就任。博士(歯学)。長崎県出身。〈抱負〉

歯周病患者の包括的治療に取り組んできました。自家骨移植、歯周組織再生誘導法やエナメルマトリックスタンパクを応用した再生療法も積極的に取り入れています。これまでの知識・経験を今後の診療・研究・教育に生かしていきたいと思ひます。

■ 採用

【平成26年4月1日付】

- 福島 忠男(再生医学研究センター・特任教授)
- 青木 将虎(口腔医療センター・講師)
- 山野 貴史(耳鼻咽喉科学分野・講師)
- 米津 博文(口腔外科学分野・任期付き教員(講師))

【平成26年4月30日付】

- 知念 正剛(福岡医療短期大学・特任教員(教授))

【平成26年5月16日付】

- 森田 浩光(総合歯科学分野・重点配置教員(准教授))

【平成26年10月1日付】

- 内田 竜司(教育支援・教学IR室・准教授)
- 松崎英津子(歯科保存学分野・講師)

【平成26年10月15日付】

- 齊藤 信明(外科学分野・講師)

■昇任教授紹介

【平成26年3月1日付】



ながい あつし
永井 淳 教授

(福岡歯科大学・福岡医療短期
大学地域連携センター)

〈略歴〉

大阪大学歯学部卒。岡山大学医
員、助手、国立療養所邑久光明

園歯科医長、岡山大学講師、福岡歯科大学准教授を
経て平成26年3月1日福岡歯科大学教授に昇任。博
士(歯学)。愛媛県出身。

〈抱負〉

地域医療に携わる多くの職種の方々と連携しなが
ら、地域住民の皆さんに口腔医学の成果を還元し
て、「口から元気になっていただく」ことを目指し
て、微力を尽くす所存です。倍旧のご指導ご支援を
お願い申し上げます。

■昇任

【平成26年1月1日付】

加倉 加恵(口腔インプラント学分野・講師)

【平成26年4月1日付】

畠山 雄次(機能構造学分野・准教授)

永尾 潤一(感染生物学分野・講師)

中山 敬介(口腔医療センター・講師)

黒木まどか(福岡医療短期大学 歯科衛生学科・講師)

【平成26年10月1日付】

川口 智弘(有床義歯学分野・講師)

■新任臨床教員

【平成26年4月1日付】

原口 尚大(臨床准教授)

■定年退職

【平成26年3月31日付】

谷口 邦久(病態構造学分野・教授)

福島 忠男(再生医学研究センター・教授)

知念 正剛(福岡医療短期大学 保健福祉学科・教授)

■退職

【平成25年12月31日付】

諸富 孝彦(歯科保存学分野・講師)

【平成26年3月10日付】

勝山 英明(口腔医療センター・教授)

【平成26年3月31日付】

敦賀 英知(機能構造学分野・定員外教授)

清水 博史(有床義歯学分野・准教授)

鬼塚 得也(歯周病学分野・講師)

松本 久伸(外科学分野・講師)

秦 雄一郎(矯正歯科学分野・講師)

【平成26年9月30日付】

内田 竜司(教育支援室・准教授)

■ご逝去



原田博文 教授

平成26年9月18日逝去

享年57歳。

昭和57年に防衛医科大学校医
学科を卒業後、福岡大学医学部
助手、講師、助教授を経て、平
成19年4月より、福岡歯科大学総合医学講座耳鼻咽
喉科学分野教授として大学の発展のため尽力されま
した。合掌。

健康まるごと福岡学園 第40回「田の歯科祭」



実行委員長

4年 黒木 翔太

今年度、学園祭実行委員長を務めさせていただきました黒木翔太と申します。今回は、2日目の午前中に雨が降りましたが、無事に「第40回田の歯科祭」を行うことができました。これも、ご尽力くださいました先生方を始め、職員の方々や地域の皆様、学生の皆様、実行委員といった多くの方々のおかげです。心よりお礼申し上げます。

私が実行委員に入ったのは1年生の時でした。当時は、先輩方の考えた企画で、先輩方の指示に従うといった受け身の姿勢で実行委員をこなしていました。しかし、2年、3年と学年が上がるにつれ、「もっとこの学園祭を面白いものにしたい!」という気持ちが強くなり、実行委員に対しても熱が入り、自らどんどん考え行動するようになりました。そして、今年、自分が実行委員長という立場になり、今まで自分で考え行動していた自信は全て4年生の先輩方の支えがあったからだと気付きました。そのことで、今年自分が委員長を務めさせていた

くのなら、下級生達が、より動きやすくアイデアを出しやすい環境のもと、みんなで一つのものを作り上げる集団として機能できるように、引っ張っていきたくと思いました。しかし、実際にやってみると上手くはいかず、自分のミスでたくさんの方に迷惑をかけたか失敗ばかりでした。しかし、スタッフのみんなは、文句一つ言わず、笑顔で、面白い学園祭を作り上げようと、一致団結して作業をしてくれました。学園祭の2日目のエンディングで、ステージの上から話している時、「本当にやって良かった」と心から思えました。学園祭実行委員長を経験し、自分は少しながら成長できたかなと感じています。それは、自分が成長したのではなく、スタッフや指導いただいた先生のおかげだと思います。

本年度も全体を通して滞りなく行うことができ、例年のごとく多くの来場者に来ていただくことができました。地域の皆様の参加も多く、ステージ企画も例年以上に盛り上がったという話をたくさんの方から耳にすることができ、大変喜ばしく思っております。参加いただいた地域の方々にもお礼申し上げたいと思います。

最後になりましたが、この「田の歯科祭」は、多くの方々のご協力により開催することができています。繰り返しにはなりますが、先生方や職員の方々、学生の皆様、地域の皆様、実行委員のスタッフといった全員の力があって無事に学園祭を終えることができましたことを、本当に心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。





実行委員会

昇格者



平成26年1月1日
咬合修復学講座
口腔インプラント学分野
講師 加倉 加恵 (24期)

平成26年1月1日付で口腔インプラント学分野の講師に任命されました。これからも「口腔医学」の理念に沿った口腔インプラント学の臨床、研究、教育、およびインプラント学分野の発展に貢献出来るよう頑張っまいります。今後とも、同窓の先輩方をはじめ皆様のご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



平成26年4月1日
口腔・顎顔面外科学講座
口腔外科学分野
口腔医療センター
講師 中山 敬介 (20期)

平成26年4月1日付で口腔医療センター講師に任命されました。
福岡歯科大学卒業から平成25年3月に至る17年間、口腔外科学講座にて教育・臨床・研究について貴重な経験をさせていただきました。この経験を礎に、口腔医療センターにてより一層の研鑽を積んで参る所存であります。少しでも、同窓や近隣の諸先輩方のお力になればと考えております。今後ともご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

新任者



平成26年10月1日
教育支援・教学 IR 室
准教授 内田 竜 司 (18期)

平成26年10月1日付で教育支援・教学 IR 室の准教授に採用されました。
同室は、文部科学省の大学教育再生加速プログラム採択に伴い設置され、口腔医学教育の推進並びに本学学生の学士力向上を図るため、学士過程教育に関する情報を収集、分析し、学修成果の可視化を図るとともに、中長期的な企画立案、改善を担っていきます。
今後とも同窓の皆様方のご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

本学学位取得者（甲）



福岡歯科大学
咬合修復学講座
有床義歯学分野
堤 貴 司 (31期)

博士（歯学）（甲第243号）
平成26年 3月15日
学位論文題名
Hyperocclusion up-regulates CCL3 expression in CCL2- and CCR2-deficient mice.
（過剰咬合によって CCL2 および CCR2 欠損マウスにおける CCL3 の発現は、上昇する）



福岡歯科大学
口腔治療学講座
歯周病学分野
森 南 奈 (31期)

博士（歯学）（甲第244号）
平成26年 3月15日
学位論文題名
Cell viabilities and biodegradation rates of DNA/protamine complexes with two different molecular weights of DNA
（DNA 分子量の異なる DNA/プロタミン複合体の細胞毒性と生体内分解性）



福岡歯科大学
咬合修復学講座
冠橋義歯学分野
篠 崎 陽 介 (31期)

博士（歯学）（甲第245号）
平成26年 3月15日
学位論文題名
Osteogenic Evaluation of DNA/Protamine Complex Paste in Rat Cranial Defects
（ラット頭蓋骨欠損における DNA/プロタミン複合体ペーストの骨形成能評価）



福岡歯科大学
口腔治療学講座
歯周病学分野
村 上 弘 (31期)

博士（歯学）（甲第246号）
平成26年 3月15日
学位論文題名
Association of caspase-14 and filaggrin expression with keratinization of the oral mucosa and reconstruction culture rat models
（口腔粘膜と再構築モデルの角化機構におけるカスパーゼ14とフィラグリンの発現の関係性）



福岡歯科大学
咬合修復学講座
有床義歯学分野
濱 中 一 平 (31期)

博士 (歯学) (甲第247号)

平成26年 3月15日

学位論文題名

Mechanical properties of injection-molded thermoplastic denture base resins.

(射出成形型熱可塑性義歯床用レジンの機械的性質)



福岡歯科大学
咬合修復学講座
口腔インプラント学分野
山 本 和 子 (31期)

博士 (歯学) (甲第251号)

平成26年 3月15日

学位論文題名

The Effects of Implant Surface Characteristics on Surrounding Bone: Comparative Study of Two Types of Surface Characteristics

(インプラントの表面性状が周囲骨組織におよぼす影響—2種類の表面性状に関する比較研究—)



福岡歯科大学
咬合修復学講座
口腔インプラント学分野
安 野 貴美恵 (31期)

博士 (歯学) (甲第252号)

平成26年 3月15日

学位論文題名

Zirconia implants with laser surface treatment: peri-implant bone response and enhancement of osseointegration

(レーザー照射による表面加工を行ったジルコニアインプラントにおける周囲骨の反応と骨結合の強さに関する研究)



福岡歯科大学
成長発達歯学講座
矯正歯科学分野
山之内 香 (32期)

博士 (歯学) (甲第255号)

平成26年 3月15日

学位論文題名

Fibrillin-1 and Fibrillin-2 are essential for formation of thick oxytalan fibers in human nonpigmented ciliary epithelial cells in vitro

(in vitroにおいてFibrillin-1とFibrillin-2はヒト無色素毛様体上皮細胞による太いオキシタラン線維の形成に必要不可欠である)

学位取得者紹介



福岡歯科大学
咬合修復学講座
有床義歯学分野
長谷英明 (31期)

博士 (歯学) (甲第257号)
平成26年 3月15日
学位論文題名
Three-dimensional finite element analysis of
Aramany Class IV obturator prosthesis with
different clasp designs.
(異なるクラスプ形態の Aramany IV 級顎義
歯における三次元有限要素法解析)

本学学位取得者 (乙)



福岡歯科大学
口腔・顎顔面外科学講座
口腔外科学分野
中山敬介 (20期)

博士 (歯学) (乙第89号)
平成26年 3月31日
学位論文題名
A Clinical Study on the Relationship between
the Anatomical Location of the Mandibular
Canal and the Occurrence of Inferior Alveolar
Bundle Exposure and Damage after Sagittal
Splitting Ramus Osteotomy.
- A Computed Tomographic Analysis on the
Anatomical Location of the Mandibular Canal -
『下顎枝矢状分割術に伴う知覚障害および下
歯槽神経血管束の露出と下顎管の走行との
関連性についての臨床的研究』
- CT 画像を用いた下顎管の走行の解析 -



福岡歯科大学
成長発達歯学講座
成育小児歯科学分野
柏村晴子 (23期)

博士 (歯学) (乙第90号)
平成26年 3月31日
学位論文題名
試作フッ素系ナノシール剤の耐酸性の向上に
関する研究

他大学学位取得者（乙）



新潟大学大学院
医歯学総合研究科
口腔生命科学専攻
歯周診断・再建学分野
白井 義英（5期）

博士（歯学）（乙第269号）

平成25年3月25日

学位論文題名

The comparative effectiveness of granules or blocks of superporous hydroxyapatite for the treatment of intrabony periodontal defects.

Open Journal of Stomatology, 2012, 2, 81-87



九州大学大学院歯学部
口腔顎顔面病態学講座
口腔顎顔面外科学分野
首藤 俊介（7期）

博士（歯学）（乙第626号）

平成26年3月25日

学位論文題名

Clinical study of cases that made the expansion of the alveolar ridge by utilizing the bone spreader

（ボーンスプレッターを利用し歯槽堤の拡大を行った症例の臨床的検討）

「本部報告」

平成25年度福岡歯科大学同窓会 第36回定時総会並びに 大久保満男先生特別講演会・懇親会

日時 平成26年5月31日（土）

場所 アークホテルロイヤル福岡天神



平成26年5月31日（土） アークホテルロイヤル福岡天神に於いて昨年総会で承認頂いた福岡歯科大学同窓会機構・会則規則改正に基づき、まず第1回福岡歯科大学同窓会地区会長会議が開催された。

学内、福岡県地区会、九州地区会、中国地区会、四国地区会、近畿地区会、中部地区会、関東地区会（関東より以北の都道府県を含む）の地区会長が出席し、第1回ということもあり地区会長会議の今後の運営についての話し合いが行われ今後総会開催の日に年1回開催することとなった。その他各地区の状況や本部への要望等を話し合い終了した。

その後会場を移し、平成25年度福岡歯科大学同窓会評議員会および総会が開催された。議長選出後、物故会員に対する黙祷が厳かに捧げられた。まず、報告事項が告げられ、議事の第1号議案から第6号議案までの審議を行い、多少の修正を加えて原案通り可決、承認された。

総会終了後、日本歯科医師会大久保満男会長による『歯科界の厳しい15年と今後の展望』という演題にて特別講演が行われた。内容は、国民に対社会保障制度改革を巡って見えてくるものという難しい内



容で歯科医師会の歴史から昨今の現状や問題点をわかりやすく解説して頂き特別講演が終了した。

その後、懇親会に移り福岡学園田中健藏理事長、日本歯科医師会大久保満男会長よりご祝辞を頂き、日本歯科医師会村上恵一専務理事による乾杯の御発声をもって開宴となり、比嘉奈津美先生より簡単な国政報告がなされた。その後、和やかな雰囲気の中、同窓生の懇親が深められ全日程を終了した。

（専務理事 持山達郎）

第36回定時総会

（敬称略）

1. 開会
2. 議長選出 宇治寿隆（7期、熊本県）
3. 議事録署名人選出
4. 会長挨拶
5. 物故会員に対する黙祷
吉田公典（1期）、豊 重広（2期）
和田守雄（4期）、河井 新（4期）
仲間正武（4期）、西郷吉隆（7期）
山下恭子（8期）、坂田擁一（9期）
相澤 隆（10期）
6. 報告
 - (1) 会務報告 専務理事 持山達郎
 - (2) 監査報告 監 事 原文夫
 - (3) 評議員会議長審議経過報告
評議員会議長

7. 議事

- 第1号議案 会長・監事選出に関する件
- 第2号議案 平成25年度福岡歯科大学同窓会事業報告並びに収支決算書の承認を求める件
- 第3号議案 特別会計平成25年度福岡歯科大学同窓会特別支援事業収支決算書の承認を求める件
- 第4号議案 平成26年度福岡歯科大学同窓会事業計画（案）の承認を求める件
- 第5号議案 平成26年度福岡歯科大学同窓会会計収支予算（案）の承認を求める件
- 第6号議案 特別会計平成26年度福岡歯科大学同窓会特別支援事業収支予算（案）の承認を求める件

8. 協議

9. 閉会

平成25年度九州5大学歯学部同窓会連絡協議会

平成26年3月29日(土) AQUA 博多において、平成25年度九州5大学歯学部同窓会連絡協議会が九州大学の主管で開催された。

本会からは、宮口巖会長、武井俊哉副会長、岩本憲明副会長、神田晋爾副会長、水谷匡秀常務理事、小柳進祐常務理事の6名が参加した。

本年度の九州5大学歯学部同窓会連絡協議会は、医院継承問題等、同窓会の取り組みについてと、女性歯科医師への同窓会の取り組みについて、学術、広報分科会の開催について協議が行われた。

具体的な協議の内容については以下の通りである。

1. 医院継承問題等についての同窓会の取り組みについて

(1) アンケート結果報告

事前に、掲題について各大学より提出されたアンケート結果について報告があった。

(2) 各校からの補足説明

九州歯科大学より、掲題についての取り組みにつ

いて詳細な説明があった。

(3) 質問・協議（大学間の情報共有についての今後のあり方）

大学間の情報共有については、今後メーリングリスト等を用いて協議していくことになった。

2. 女性歯科医師への同窓会の取り組みについて

各大学より、現在掲題に対する取り組みや対策について報告があった。宮口会長より、本年度掲題に関するアンケートを福岡歯科大学同窓会は行っており、その結果が、広報誌に掲載される予定であるので、ご参考頂きたいとのコメントがあった。

3. 学術、広報分科会開催について

学術、広報分科会を、九州5大学歯学部同窓会連絡協議会の次の日の日曜日に開催してはとの提案があった。

本件についても、今後メーリングリスト等を用いて協議していくことになった。

来年度は、本校が主管をさせて頂くことが決定し、協議を終えた。

(常務理事 小柳進祐)

12校会議並びに日歯会長時局講演会

平成26年6月29日（日）11時より東京九段・ホテルグランドパレスにて私立歯科大学歯学部同窓会・校友会連絡協議会による12校会議が開催された。

この会議への出席は当同窓会からは宮口会長と他1名が出席した。この会議に参加している他大学同窓会は、愛知学院大学歯学部同窓会、朝日大学歯学部同窓会、岩手医科大学歯学部同窓会、奥羽大学歯学部同窓会、神奈川歯科大学同窓会、昭和大学歯学部同窓会、鶴見大学歯学部同窓会、日本大学松戸歯学部同窓会、福岡歯科大学同窓会、北海道医療大学歯学部同窓会、松本歯科大学校友会、明海大学歯学部同窓会であった。会議の内容は主幹校の鶴見大学歯学部同窓会の進行で開会し、会計等の報告事項が

本部報告

なされ、参加12校出身の日本歯科医師会をはじめ日本歯科医師連盟、各都道府県歯科医師会の人事について、日本歯科医師会の代議員について、歯科医師会や同窓会の会費徴収方法について、各校の同総会の年間予算についてと多岐にわたる話し合いが行われました。どこの大学に於いても会費徴収や人員の確保では頭を抱えているのが実情でした。

会議終了後、引き続き行われた昼食会においても忌憚ない意見の交換が行われていました。13時より別室において日本歯科医師会会長の久保満男先生による12校会議時局講演会が行われた。ここから、千原副会長、中野関東地区会会長が合流し参加した。講演内容は、「社会保障制度改革国民会議報告書への見解」あるべき国の姿をもとめて、社会保障制度改革をめぐって見えてくるもの、というものであった。歯科医師会の歴史から消費税アップに至った時の問題点等をわかりやすく解説していただき本会議の全日程を終了した。

(専務理事 持山達郎)

懇話会では、日本歯科医師会副会長の三塚憲二先生、大阪大学理事・副学長の恵比須繁之先生、大阪大学大学院歯学研究科科長の脇坂聡先生から来賓のご挨拶が行われました。

「女性会員がより輝くために」をテーマに、大阪大学歯学部同窓会女性会員検討WG委員の佐々木有美先生が「大阪大学歯学部同窓会女性会員アンケート報告」を発表し、その後「ウーマノミクスとダイバーシティの実現のために」と題して石井みどり



石井みどり参議院議員

西村まさみ参議院議員

第61回全国歯科大学同窓・校友会懇話会報告

第61回全国歯科大学同窓・校友会懇話会が平成26年11月8日(土)にリーガロイヤルホテル大阪において、大阪大学歯学部同窓会の主催のもと全国から約140名の参加で開催されました。

福岡歯科大学同窓会からは、千原眞治副会長、木村孝一副会長、石田哲也大阪府同窓会会長、加藤秀治大阪府同窓会常務理事と私が出席いたしました。



愛知学院大学歯学部副会長 森 榮先生

日本歯科医師会会長 久保満男先生



懇話会風景



各大学の女性役員達 (筆者は最前列左から2番目)

り参議院議員が、「女性会員がより輝くために」と題して西村まさみ参議院議員が基調講演を行いました。その後事前に行ったアンケート結果をもとに各大学同窓・校友会で女性会員に対して取り組まれている内容を愛知学院大学歯学部同窓会から順に報告されました。残念ながら時間の関係上、本校を含め数校は報告ができませんでしたが、熱心に討論が行われました。

懇親会では、地元大阪府歯科医師会会長の太田謙司先生と日本歯科医師会会長の久保満男先生から来賓のご挨拶をいただきました。約2時間の懇親会でしたが、今回は女性の先生が多数参加されたこともあり、とても華やかな会となりました。次回は、平成27年7月に大阪歯科大学同窓会の当番で開催されます。

(副会長 馬場篤子)

平成26年同窓生対象 オープンキャンパス開催

平成26年6月1日(日)に、福岡歯科大学同窓会と福岡歯科大学の共催で、同窓生とご家族を対象としたオープンキャンパスが行われました。

このオープンキャンパスは、同窓生の皆様から好評を頂いており、毎年多くの同窓生の皆様にご参加頂いております。本年は、41名の同窓生の皆様とご子息がご参加になりました。

オープンキャンパスでは、大学の紹介、大学内の施設見学、昼食会、模擬実習、個別進学相談が行わ



体験演習



現役学生とのディスカッション

れました。また、昼食、茶話会時には、在学中の学生および教員と交流を深めつつ、在学中の学生から学生生活についての説明がありました。学生との交流では、ご子息と年齢が近いこともあるからか、積極的かつ具体的な質問が交わされておりました。

オープンキャンパスに参加された皆様は、同窓生は大学の変化に驚きながら、また、ご子息は目を輝かせながら色々なことを見聞きされておりました。

注視すべき点といたしましては、この福岡歯科大学同窓会と福岡歯科大学共催のオープンキャンパスは、一般向けに行われるオープンキャンパスとは若干趣向が異なっております。このオープンキャンパスは、一般向けに行われるオープンキャンパスに比較して、模擬面接や入試のポイントについての解説がより細かくなっており、受験に関する具体的な情報をお知りになることが出来るように配慮されております。また、その他の項目につきましても学内支部の先生方が、手取り足取り説明され、ご子息のモチベーションを高める努力をされております。

このように、同窓会はより強固に大学との連携を深め、ご子息の受験などに関しましても、情報を発信できますように努めておりますが、今後とも多岐多様な情報発信に努めて参りたいと思っております。

ご子息の将来的な進路を、福岡歯科大学へとお考えの同窓生の皆様には、このオープンキャンパスに是非ご参加賜ることができましたら光栄に存じます。

(常務理事 小柳進祐)

第30回全国歯科大学同窓会・ 校友会学術担当者連絡会

平成26年6月14日（土）・15日（日）の両日、仙台市内のホテルメトロポリタン仙台において、第30回全国歯科大学同窓会・校友会学術担当者連絡会が東北大学歯学部同窓会主管で開催された。

14日土曜日の13時30分開会で、主管校の会長大内光太郎氏の挨拶に続き、明海大学・林功氏の学術連絡網の確認およびHP関連報告、朝日大学・吉永正富氏の第29回学術連絡会および収支報告が行われた。

次に議題として、北海道医療大学の石野善男氏の学術連絡会の会計・監査報告とその承認、日本大学松戸歯学部より次期第31回学術連絡会の日程の提示、次々期第32回主管校について新潟大学歯学部同窓会主管、明海大学歯学部同窓会共催について検討された。

14時30分から東北大学歯学部同窓会常務理事の篠原誠氏を座長に『学術的視点から東日本大震災時・犠牲者の身元確認の検証と課題』というテーマについて協議が行われ、東北大学大学院歯学研究科准教授鈴木敏彦氏による「東日本大震災における歯科的身元確認」、東北大学大学院情報科学研究科教授・東北大学副学長青木孝文氏、群馬県検視警察医小菅栄子氏による「大規模災害時の身元確認と情報技術、及び今後の課題」と題した講演が行われた。

講演の内容を紹介すると、青木氏は2006年頃から「大規模災害に備えて情報技術の活用を前提とした身元確認体制を検討すべき」と主張してきた。2009

大子同窓会・校友云子術担当者連絡会



年の警察歯科医会全国大会で、これに関する提言を發表し、大きな反響があったが、それからわずか2年待たずして東日本大震災が発生し強く衝撃を受けた。2013年12月10日の時点で、全国で回収された遺体は、15,883体、行方不明者は2,643名にのぼった。宮城県における身元確認手段の内訳は、①身体的特徴や所持品等による確認が86%、②歯牙による確認が約10%、③指紋・掌紋による確認が約3%、④DNA型による確認が約1%（親子鑑定の併用が約14%）であった。震災当初の遺体の多くは、顔貌や着衣、所持品などで個人を特定できたが、1ヶ月を経過すると、遺体が損傷して確認が困難になり、このような状況で歯科的個人識別はきわめて有効との事であった。歯科的個人識別のために、宮城県では発生当初から、手書きのデンタルチャートによって遺体記録を収集していたが、その後、宮城県歯科医師会と連絡をとり、歯科的個人識別の高度化に関する技術提供を申し入れ、歯科検視標準機材をパッケージ化して、広域配置された検案所でデンタルチャート、口腔内写真、歯科X線画像の三種を採取するしくみを整備した。さらに、生前カルテ情報と遺体情報を照合する歯科情報照合ソフトウェアDental Finderも開発されたが、収集した診療録に目を通してDental Finderのデータに変換する作業は著しく煩雑だった。この解決策として、緊急時に行方不明者の歯科情報を標準的な形式で医院から迅速に入手できるようになれば、作業の大幅な効率化が可能になる。これが、現在取り組んでいる厚生労働省事業「歯科診療情報の標準化」の目的であり、この標準化によって、今後起こりうる緊急時に



備えた歯科情報バックアップ事業の展開など、多様な取り組みが可能になる。これらの歯科医院に存在する貴重な診療情報の保全について十分な対策が必要である。災害以外にも、情報システムの故障や法定保存年限の経過、医院の廃業などにより診療情報は容易に消失してしまう可能性がある。デジタル歯科情報の標準化は、この重要な情報を社会の財産として、保存・活用するための切り札になると考えられるというものであった。詳しくは Web ページ「身元確認と情報技術」をご覧ください。

(<http://www.aoki.ecei.tohoku.ac.jp/dvi/>)

17時30分より【魅力ある同窓会づくりへの試み】『東日本大震災と全国の歯科大学・歯学部同窓会・校友会』というテーマで話し合いが行われたのち、『東日本大震災に対する全国の同窓会・校友会』の取り組みに関するアンケート調査結果の発表が行われ、予定どおり18時に初日の会議は無事終了し閉会となった。

18時30分より同ホテルにて懇親会が開催され主管校の東北大学歯学部同窓会会長大内光太郎氏、続いて宮城県歯科医師会会長細谷仁憲氏の挨拶で乾杯となった。会場では、震災被害を受けた女川町の子どもたちによる勇ましい和太鼓の演奏があり、郷土名物の牛タンに銘酒で歓待を受け、各同窓会との懇親を深めることとなった。

翌15日は9時より前日からの協議テーマ【魅力ある同窓会づくりへの試み】に関して「東日本大震災への岩手医科大学歯学部同窓会の取り組み」岩手医科大学歯学部同窓会副会長村上正博氏、「東日本大震災に対する奥羽大学歯学部同窓会の取り組み」奥羽大学歯学部同窓会会長渡辺友彦氏による2題の発表が行われた。

10時より各大学同窓会・校友会の研修会・講演会の情報・意見交換会が行われ、「オンデマンドのその後」、「無料招待制度の実施状況アンケート調査結果と運用ルール」、「研修会報告書の新書式と湖西要綱について」話し合われた後、協議題・意見交換会のまとめがあり、次期・次々期主管校の挨拶の後、12時に閉会され全ての日程を終了した。

(理事 重松久幹)

2014年度福岡歯科大学同窓会主催 臨床スキルアップセミナー報告

2013年度より、日常臨床で重要なテーマについて福岡歯科大学講座、同窓開業医、他大学開業医の先生から最新の情報を提供していただき、皆様の臨床に役立つ内容の「臨床スキルアップセミナー」を新しく企画しました。



4月24日「抜歯」

2014年度は参加者多数により会場を福岡県歯科医師会館5F視聴覚室にて開催することとなり、第1回セミナーは、平成26年4月24日(木)19時30分より「抜歯」をテーマに開催いたしました。講師陣は、福岡歯科大学口腔医療センター教授の古賀千尋先生より抜歯のポイントと画像診断から偶発症。福岡歯科大学診断・全身管理学講座麻醉管理学分野講師野上堅太郎先生に全身的な偶発症についてご講演していただきました。



7月24日「MTM」

第2回セミナーは7月24日(木)「MTM」をテーマに福岡歯科大学成長発達歯学講座矯正歯科学分野講師玉置幸雄先生より「MTMのポイント」、福岡市開業林美穂歯科医院勤務の柳川淳子先生より



10月23日「義歯」

「一般歯科診療における MTM の導入」についてご講演していただきました。

第3回セミナーは10月23日（木）「義歯」をテーマに福岡歯科大学咬合修復学講座有床義歯学分野講師都築尊先生より総義歯診療の基礎知識、佐賀県杵島郡開業小柳歯科医院小柳進祐先生には症例およびエビデンスに基づいたテクニックについてご講演いただきました。各回セミナー終了後は活発な質疑応答があり、満席の会場内は熱気に溢れていました。

来年度、2015年度臨床スキルアップセミナーは「患者さんの総合的な治療計画を考慮」をテーマに6月25日（木）「エンド」、8月27日（木）「ペリオ」、10月22日（木）「修復」を予定しております。

今後も「臨床スキルアップセミナー」を通じて皆様にさらなる充実した臨床セミナーを企画して参りますので、より多くのご参加をお願い申し上げます。

（学術担当 常務理事 葛西秀夫）

ご逝去のお知らせ

[大学関係]

口腔治療学講座歯科保存学分野前教授（特別会員）
井上 廣先生 平成26年12月22日

[同窓生]

北村 浩明先生（15期、福岡県）平成26年11月10日
黒住 和義先生（13期、岡山県）平成26年11月17日
良永 純一先生（6期、福岡県）平成26年11月25日

第14期福岡歯科大学同窓会会長並びに監事選挙結果について

さて、第13期福岡歯科大学同窓会会長並びに監事任期満了に伴う、第14期会長並びに監事選挙は、立候補者が定数内でしたので、選挙規則第11条3項により無投票選挙が決定し告示致します。第14期福岡歯科大学同窓会会長並びに監事は下記の通り決定致します。

記

会 長	宮 口 巖（1期） 長崎市住吉町11-20
監 事	白 杵 辰 雄（1期） 福岡県朝倉市一ツ木95-4
監 事	原 文 夫（2期） 福岡県福岡市南区老司1-17-34

平成26年1月31日

福岡歯科大学同窓会選挙管理委員会

委員長 堀 江 和 彦

会 務 報 告

(自 平成25年 4月 1日～至 平成26年 3月31日)

4/5 (金)	本学入学式	本学園 (北村名誉会長、宮口会長、尾崎常務、馬場・鬼塚理事、 升井・高橋・城戸顧問)
4/6 (土)	佐賀県同窓会総会	ホテルピアントス (宮口会長、武井・神田副会長、持山専務)
4/8 (月)	平成25年度第1回学術委員会	福岡県歯科医師会館談話室 (学術委員会)
4/11 (木)	平成24年度監査	同窓会事務局 (白杵・原監事、武井副会長、持山専務、会計委員会)
4/13 (土)	福岡県北同窓会総会	アートクレフ・クラブ (宮口会長、神田副会長、持山専務)
4/16 (火)	法人理事会	本学園 (宮口会長)
〃 〃	平成25年度学内同窓会 (講師以上) 懇談懇親会	しげまつ (宮口会長、武井副会長、持山専務、岩本常務、学内役員)
4/17 (水)	総合戦略部タスク部門同窓会・校友会チーム第1回会合	日本歯科医師会館 (宮口会長)
4/20 (土)	機能生物化学講座感染生物学分野上西秀則教授退職記念祝賀会	ソラリア西鉄ホテル (宮口会長)
4/21 (日)	平成25年度第1回理事会	福岡県歯科医師会館中ホール (本部役員)
4/25 (木)	第6学年激励会	本学園 (武井副会長)
4/27 (土)	熊本県同窓会平成24年度大阿蘇会定時総会・学術講演会	KKR ホテル熊本 (宮口会長、佐藤理事)
5/11 (土)	長崎県同窓会総会	長崎ワシントンホテル (持山専務)
5/13 (月)	平成25年度第2回学術委員会	福岡県歯科医師会館談話室 (学術委員会)
〃 〃	評議員会・総会準備打合せ会議	持山歯科医院 (宮口会長、武井・神田副会長、持山専務)
5/15 (水)	学内同窓会総会	本学園 (学内本部役員)
5/18 (土)	日本補綴歯科学会第122回学術大会 (本学咬合修復学講座主催)	福岡国際会議場
〃 〃	日本補綴歯科学会創立80周年記念、第122回学術大会懇親会 (本学咬合修復学講座主催)	博多リバレイン (宮口会長)
〃 〃	平成25年度兵庫県同窓会総会・学術講演会	グリーンヒルホテル神戸
〃 〃	大阪府同窓会総会	サウナニュージャパン (芝池理事)

5/21 (火)	法人理事会・評議員会・ガーデン研修会	本学園 (宮口会長、武井副会長、高橋顧問)	
5/25 (土)	第5期生30周年記念祝賀会	グランドハイアット	(中常務)
〃	〃 平成24年度定時評議員会・総会並びに比嘉奈津美先生衆議院議員当選祝賀会	福岡ガーデンパレス	
5/26 (日)	同窓生対象オープンキャンパス	本学園 (高嶺・野口副会長、持山専務、後藤・小柳常務、佐々木・佐藤・芝池理事)	
〃	〃 関東同窓会との懇談会	笹川記念館 (宮口会長、千原・武井・神田副会長、廣松理事)	
5/31 (金)	福岡学園田中理事長卒寿祝賀会	ホテルニューオータニ博多	(宮口会長)
6/1 (土)	福岡県西同窓会総会	福岡ガーデンパレス	(勝俣副会長)
〃	〃 関東同窓会総会・学術講演会	永田町 TBR ビル	
6/2 (日)	沖縄県同窓会学術講演会	沖縄県歯科医師会館	
6/10 (月)	平成25年度第3回学術委員会	福岡市歯科医師会館支部室	(学術委員会)
6/15 (土)	沖縄県同窓会総会	ザ・ナハテラス	(宮口会長)
6/22 (土)	平成25年度福岡県南同窓会総会・学術講演会	久留米歯科医師会館	(宮口会長、武井副会長)
6/25 (火)	法人理事会	本学園	(宮口会長)
6/29 (土)	広島県同窓会総会・学術講演会	広島リーガロイヤルホテル	(深井副会長)
7/6 (土)	山口県同窓会総会・学術講演会	ホテル松政	(深井副会長、小柳常務)
7/8 (月)	平成25年度第4回学術委員会	福岡市歯科医師会館支部室	(学術委員会)
7/13 (土)	鹿児島県同窓会総会・学術講演会	鹿児島サンロイヤルホテル	(武井副会長)
7/20 (土)	大分県同窓会総会・学術講演会	トキハ会館	(宮口会長、佐藤理事)
7/23 (火)	法人理事会	本学園	(宮口会長)
7/25 (木)	福岡歯科大学同窓会主催2013年度臨床スキルアップセミナー「接着」	福岡歯科大学口腔医療センター	(学術委員会)
8/3 (土)	宮崎県同窓会総会・学術講演会	宮崎県歯科医師会館	(武井副会長)
8/12 (月)	平成25年度第5回学術委員会	福岡市歯科医師会館第2会議室	(学術委員会)
8/24 (土)	平成25年度日本補綴歯科学会九州支部学術大会	アバンセ	(宮口会長)
8/25 (日)	第29回全国歯科大学歯学部同窓・校友会学術担当者連絡会	岐阜都ホテル	(岩本常務、枡理事)
8/29 (木)	福岡県西同窓会学術講演会	福岡市歯科医師会館	(持山専務)
8/31 (土)	近畿ブロック役員連絡協議会・大阪府同窓会学術講演会	ホテル阪神	(宮口会長、持山専務)
〃	〃 九州歯科大学福岡県同窓会福岡支部レクレーション	博多リバレインイニミニマニモ	(武井副会長、岩本常務)
9/1 (日)	秋山治夫先生叙勲祝賀会	西鉄グランドホテル	(宮口会長)

9/7 (土)	福岡県東同窓会総会・学術講演・懇親会	福岡県歯科医師会館 (宮口会長、勝俣・神田副会長、持山専務)
9/9 (月)	平成25年度第6回学術委員会	福岡市歯科医師会館第2会議室 (学術委員会)
9/12 (木)	日本歯科医師会創立100周年・日本歯科医師会・日本歯科医師連盟役員披露パーティー	ホテルニューオータニ (千原副会長)
9/17 (火)	法人理事会	本学園 (宮口会長)
9/29 (日)	12校会議並びに日歯会長の時局講演会	ホテルグランドパレス (宮口会長、千原・武井副会長、村上関東同窓会副会長)
10/5 (土)	高知県同窓会総会・学術講演会	松葉川温泉ホテル
10/7 (月)	平成25年度第7回学術委員会	福岡市歯科医師会館談話室 (学術委員会)
10/10 (木)	第38回福岡歯科大学献体者慰霊祭	萬行事 (持山専務)
10/11 (金)	第28回日本病院口腔外科協議総会・学術集談会・懇親会	福岡国際会議場 (升井副会長)
10/15 (火)	法人理事会	本学園 (宮口会長)
10/19 (土)	第66回九州歯科医学大会(鹿児島県同窓会)	鹿児島サンロイヤルホテル (宮口会長、武井・神田・高嶺副会長)
〃	〃 四国連合同窓会総会	徳島ワシントンホテル (持山専務)
10/24 (木)	福岡歯科大学同窓会主催2013年度臨床スキルアップセミナー「エンド」	福岡歯科大学口腔医療センター (学術委員会)
10/26 (土)	第60回全国歯科大学同窓・校友会懇話会(鶴見大学歯学部当番校)	パシフィコ横浜アネックスホール (宮口会長、千原副会長、持山専務、岩本常務)
11/5 (火)	学内同窓会臨時総会	本学504号講義室
11/9 (土)	福岡県連合同窓会創立10周年記念講演会・祝賀会	西鉄グランドホテル (宮口会長、高嶺副会長)
11/10 (日)	第4回 ICOI Fellowship 養成コース(1回)	本学504号講義室 (岩本常務、枡理事)
11/11 (月)	平成25年度第8回学術委員会	福岡市歯科医師会館第2会議室 (学術委員会)
11/17 (日)	福岡歯科大学同窓会主催第27回学術講演会	電気ビル「共創館」 (学術委員会)
11/19 (火)	法人理事会・評議員会	本学園 (宮口会長、武井副会長、高橋顧問)
〃	〃 学内同窓会忘年懇親会	寿里庵 (宮口会長、神田副会長)
11/27 (水)	第6学年激励会	学生食堂 (武井副会長)
12/1 (日)	第32回日本接着学会学術大会・懇親会	福岡市歯科医師会館
12/7 (土)	九州歯科大学福岡県同窓会福岡支部忘年懇親会	稚加栄 (武井・神田副会長、持山専務)
〃	〃 JUC 発表会 第1回	電気ビル「共創館」 (宮口会長)
〃	〃 愛媛県同窓会学術講演会	愛媛県歯科医師会館
12/9 (月)	平成25年度第9回学術委員会	福岡市歯科医師会館第2会議室 (学術委員会)
12/13 (金)	長崎県人会「卒業生送別会」	ソラリア西鉄ホテル (宮口会長)

12/15 (日)	平成25年度福岡歯科大学学会総会・学術大会	本学園	(宮口会長)
12/17 (火)	法人理事会	本学園	(宮口会長)
12/22 (日)	第4回 ICOI Fellowship 養成コース (2回)	本学504号講義室	(岩本常務)
12/24 (火)	第14期会長・監事選挙立候補届け受付		
12/27 (金)	仕事納め		
1/6 (月)	仕事始め		
1/14 (火)	平成25年度第10回学術委員会	福岡市歯科医師会館第1会議室	(学術委員会)
1/19 (日)	東京医科歯科大学歯科同窓会新年名刺交換会	東京医科歯科大学	(千原副会長)
1/21 (火)	法人理事会	本学園	(宮口会長)
1/23 (木)	第14期会長・監事選挙立候補届け締切		
1/26 (日)	第4回 ICOI Fellowship 養成コース (3回)	本学504号講義室	(岩本常務、枡理事)
2/2 (日)	福岡歯科大学同窓会主催第31回臨床セミナー/学術委員会	口腔医療センター/クラウンプラザホテル	(学術委員会)
2/15 (土)	杉山義祥先生日本歯科医師会代議員議長就任をお祝いする会	ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル	(千原副会長)
2/16 (日)	第4回 ICOI Fellowship 養成コース (4回)	本学504号講義室	(岩本常務、枡理事)
2/18 (火)	法人理事会	本学園	(宮口会長)
3/1 (土)	全国歯科大学同窓会・校友会 日歯連盟参与会議	日本歯科医師会館 会議室	(高嶺副会長)
3/9 (日)	中国ブロック会議	広島グランビア	(深井副会長)
3/10 (月)	平成25年度第12回学術委員会	福岡市歯科医師会館第2会議室	(学術委員会)
3/15 (土)	第36回歯学部卒業式・第26回大学院修了式/謝恩会	本学園/ホテルニューオータニ博多	(宮口会長)
3/16 (日)	第4回 ICOI Fellowship 養成コース (5回)	本学504号講義室	(岩本常務)
3/18 (火)	法人理事会・評議員会	本学園 (宮口会長、武井副会長、高橋顧問)	
3/20 (木)	石井みどりを励ます会	ホテルニューオータニ	(千原副会長)
3/22 (土)	近畿ブロック連絡協議会並びに兵庫県同窓会学術講演会	グリーンヒルホテル神戸	
3/27 (木)	総合戦略会議・総合戦略合同会議	アルカディア市ヶ谷	(宮口会長)
3/28 (金)	平成25年度福岡歯科大学医科歯科総合病院歯科医師臨床研修医修了祝賀会	ヒルトン福岡シーホーク (宮口会長、勝俣・武井・神田副会長、持山専務、岩本常務)	
3/29 (土)	平成25年度九州5大学歯学部同窓会連絡協議会	アクア博多 (宮口会長、武井・神田副会長、岩本・水谷・小柳常務)	
3/30 (日)	12校会議	ホテルグランドパレス	(宮口会長、武井副会長)

一般会計

平成25年度 福岡歯科大学同窓会会計収支決算書

自 平成25年4月1日
至 平成26年3月31日

収入の部

単位：円

款	項	科 目	予 算 額	決 算 額	予算との差額	執 行 率	備 考
1		会費・入会金	25,000,000	23,010,000	-1,990,000	92.0%	
	1	会員	23,000,000	20,520,000	-2,480,000	89.2%	会費及び入会金
	2	準会員	2,000,000	2,490,000	490,000	124.5%	入会金
2		学術	840,000	555,000	-273,000	66.1%	
	1	講演会	300,000	133,000	-167,000	44.3%	第27回学術講演会
	2	臨床セミナー	300,000	194,000	-106,000	64.7%	第31回臨床セミナー
	3	小セミナー2013	240,000	194,000	-46,000	80.8%	スキルアップセミナー
	4	小セミナー2014		34,000			
3		雑収入	801,000	831,957	30,957	103.9%	
	1	預金利息	1,000	1,957	957	195.7%	一般会計分利息
	2	広告料	700,000	800,000	100,000	114.3%	同窓会誌広告
	3	その他	100,000	30,000	-70,000	30.0%	祝儀
		小 計	26,641,000	24,396,957	-2,244,043	91.6%	
4		繰入金収入	0		0		
	1	繰入金収入	0		0		
5		前年度繰越金	7,253,273	7,253,273	0		
	1	前年度繰越金	7,253,273	7,253,273	0		
		合 計	33,894,273	31,650,230	-2,244,043	93.4%	

支出の部

款	項	科 目	予 算 額	決 算 額	予算との差額	執 行 率	備 考
1		人件費	3,300,000	3,270,244	29,756	99.1%	
	1	人件費	3,300,000	3,270,244	29,756	99.1%	
2		通信費	960,000	837,242	122,758	87.2%	
	1	通信費	960,000	837,242	122,758	87.2%	
3		事務費	600,000	699,890	-99,890	116.6%	
	1	事務費	600,000	699,890	-99,890	116.6%	
4		連絡会議費	2,950,000	2,465,458	484,542	83.6%	
	1	連絡会議費	2,950,000	2,465,458	484,542	83.6%	
5		広報印刷費	2,220,000	2,145,908	74,092	96.7%	
	1	広報印刷費	2,220,000	2,145,908	74,092	96.7%	
6		慶弔費	320,000	348,051	-28,051	108.8%	
	1	慶弔費	320,000	348,051	-28,051	108.8%	
7		学術費	1,750,000	1,197,030	552,970	68.4%	27回学術講演会、31回臨床セミナー、スキルアップセミナー
	1	学術費	1,750,000	1,197,030	552,970	68.4%	
8		渉内費	4,350,000	4,540,327	-190,327	104.4%	
	1	渉内費	4,350,000	4,540,327	-190,327	104.4%	
9		渉外費	3,300,000	3,673,431	-373,431	111.3%	
	1	渉外費	3,300,000	3,673,431	-373,431	111.3%	
10		雑費	100,000	79,716	20,284	79.7%	
	1	雑費	100,000	79,716	20,284	79.7%	
11		予備費	2,000,000	0	2,000,000	—	
	1	予備費	2,000,000	0	2,000,000	—	
12		積立金	4,500,000	4,500,000	0	100.0%	
	1	名簿積立金	600,000	600,000	0	100.0%	
	2	退職金積立金	200,000	200,000	0	100.0%	
	3	備品積立金	200,000	200,000	0	100.0%	
	4	周年記念準備基金	1,000,000	1,000,000	0	100.0%	同窓会記念事業の積立金
	5	学園改修等協力積立金	2,500,000	2,500,000	0	100.0%	学園施設改修等・事業協力基金
		小 計	26,350,000	23,757,297	2,592,703	90.2%	
13		次年度繰越金	7,544,273	7,892,933	-348,660	104.6%	
	1	次年度繰越金	7,544,273	7,892,933	-348,660		平成26年度繰越金
		合 計	33,894,273	31,650,230	2,244,043	93.4%	

平成25年度積立金会計収入支出決算書

自 平成25年4月1日
至 平成26年3月31日

単位：円

退職金積立金	
過年度積立金	3,947,585
本年度積立金	200,000
利息（西日本シティ/野芥）	643
合 計	4,148,228

基本財産積立金	
過年度積立金	59,117,737
	0
計上利息（普通・定期預金利息90%）	17,619
合 計	59,135,356

名簿積立金	
過年度積立金	1,510,870
本年度積立金	600,000
利息（西日本シティ/原）	254
合 計	2,111,124

備品積立金			
収 入		支 出	
過年度積立金	1,241,300	デスクトップパソコン本体2台（富士通）	198,000
本年度積立金	200,000		
利息（西日本シティ/野芥）	204	合 計	198,000
合 計	1,441,504	次年度繰越金	1,243,504

周年記念準備基金			
収 入		支 出	
過年度積立金	4,106,704	残高証明書	315
本年度積立金	1,000,000		
利息（西日本シティ/野芥）	666	合 計	315
合 計	5,107,370	次年度繰越金	5,107,055

学園改修等協力金			
過年度積立金	18,499,999	残高証明書	100
本年度積立金	2,500,000		
利息（ゆうちょ銀行/郵便振替・定期預金）	60	合 計	100
合 計	21,000,059	次年度繰越金	20,999,959

特別会計

平成25年度福岡歯科大学同窓会特別支援事業収支決算書

(平成25年度 福岡歯科大学同窓会共催 第4回 ICOI Fellowship 養成コース)

自 平成25年4月1日
至 平成26年3月31日

単位：円

収入の部

款	項	科 目	予 算 額	決 算 額	予算との差額	備 考
1		参加費	5,000,000	3,400,000	-1,600,000	
	1	参加費	5,000,000	3,400,000		7名参加
2		雑収入	1,000	896	-104	
	1	雑収入	1,000	896		預金利息
小 計			5,001,000	3,400,896	-1,600,104	
3		繰入金	4,868,042	4,868,042		前期繰越
	1	繰入金	4,868,042	4,868,042		
小 計			4,868,042	4,868,042	0	
収入合計			9,869,042	8,268,938	-1,600,104	

支出の部

款	項	科 目	予 算 額	決 算 額	予算との差額	備 考
1		人件費	300,000	180,000	120,000	
	1	人件費	300,000	180,000		研修医手伝い・バイト代
2		通信費	150,000	132,649	17,351	
	1	通信費	150,000	132,649		案内郵送料等
3		会場費	0	0	0	
	1	会場費	0	0		講義室会議室料
4		講演費	3,060,000	2,092,002	967,998	
	1	講師料	2,000,000	1,300,000	700,000	講師・インストラクター・アシスタント・礼金・交通費
	2	材料費	500,000	524,832	-24,832	材料・機材費
	3	昼食費	300,000	158,370	141,630	弁当
	4	印刷費	60,000	58,800	1,200	案内パンフレット印刷費
	5	その他	200,000	50,000	150,000	他役員交通費
5		事務費	550,000	0	550,000	
	1	事務費	550,000	0		ICOIへ10%本年免除
6		会議費	500,000	669,200	-169,200	
	1	会議費	500,000	669,200		ICOI学会出張費、懇談会
7		雑費	300,000	32,275	267,725	
	1	雑費	300,000	32,275		その他雑費（お茶・菓子）
8		寄付金	0			
	1	寄付金	0	0		
小 計			4,860,000	3,106,126	1,753,874	
7		繰越金	5,009,042	5,162,812		
	1	繰越金	5,009,042	5,162,812		次期繰越
支出合計			9,869,042	8,268,938	1,600,104	

福岡歯科大学同窓会会則

第1章 総 則

第1条 名 称

本会は、福岡歯科大学同窓会と称する。

第2条 組 織

1. 本会は、福岡歯科大学（大学院を含む）を卒業（修了）した者及び福岡歯科大学在校生で組織する。
2. 本会は、各地区、学校法人福岡学園勤務の同窓との連携を計り、会務運営の円滑を期待するために地区会、学内同窓会を置くことができる。
3. 地区会の区割り及び学内同窓会、その他必要な事項については別に規則を定める。

第3条 目 的

本会は歯科界、並びに母校の発展に寄与し、併せて会員の福祉及び会員相互の親睦を図ることを目的とする。

第4条 事 業

本会は、第1章第3条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 母校の発展に関すること。
2. 会員の福祉増進及び親睦に関すること。
3. 歯科医学の向上に関すること。
4. その他本会の目的に関すること。

第5条 事務局

本会は事務局を福岡市早良区田村2丁目15-1福岡歯科大学内に置く。

第2章 会 員

第6条 会 員

本会は次の会員を以って組織する。

1. 正会員 福岡歯科大学（大学院を含む）卒業（修了）者で、第2章第7条第1項を満足するものとする。
2. 準会員 福岡歯科大学在校生。

第7条 会員の権利と義務

1. 会員は居住、又は就業する地域の地区会都道府県同窓会に所属することを原則とする（但

し、学内同窓会に所属する会員は、この限りではない）。

2. 会員は本会の主催する事業に参加し、本会の発行する機関誌及び印刷物の頒布を受け、若しくは購入することができる。
3. 会員は総会に出席し、意見を述べることができる。
4. 会員は、総会並びに評議員会の決定事項を遵守する義務を有する。
5. 会員は、住所を異動した場合、所属の都道府県同窓会を経由して本会に届け出なければならない。
6. 会員が死亡又は除名されたときは、本会会員の身分を失ったものとする。
7. 会員が本会を退会するときは、その旨を記載した書面を本会に提出しなければならない。
8. 正会員は、総会において議事を審議し、議決権を有する。また役員になることができる。
9. 準会員は、本校在学者とし、正会員としての権能は有しない。

第3章 名誉会長・名誉会員・

特別会員・臨床研修会員

第8条 名誉会長・名誉会員・特別会員・臨床研修会員

本会に名誉会長、名誉会員、特別会員、臨床研修会員を置くことができる。また、前項の会員は、本会の研修会等に出席し学術研究を発表し、あるいは本会の会誌及び刊行物の配布を受けまたは購入することができる。本条の会員は前項のほか、正会員の権利を有しない。但し、本会員の正会員で名誉会員に推薦された者はこの限りではない。

1. 名誉会長は、会長が母校の学長を推薦する。任期は、学長としての在任期間とする。
2. 名誉会員は、母校並びに本会に対して特に功労があった者を評議員会の議決を経て会長が推薦する。
3. 特別会員は、退職した母校の教授、または母

校並びに本会に対して特に功労があった者を理事会の議決を経て会長が推薦する。

4. 臨床研修会員は、他大学卒業の歯科医師法に定める臨床研修歯科医師で、本学で臨床研修を行っている者を会長が推薦する。また、会員の資格は臨床研修の期間とする。

第4章 会費及び負担金

第9条 会費及び負担金

1. 会員は本会所定の入会金、会費、及び負担金を本会へ納入しなければならない。
2. 入会金、会費及び負担金の額ならびに支払いの方法は、総会で決める。

第10条 会費の減免

本会の会員にして長期疾病及び災害等により本会所定の会費の支払いが極めて困難な者は、支部の申請に基づき理事会の議を経て、復帰するまでの期間を前提として会費を減免、またはその納入を猶予することができる。

第11条 会費の返還

本会に納入された入会金、年会費及び負担金はいかなる理由があっても返還しない。

第12条 負担金その他

本会は、評議員会、総会の承認を経て負担金を徴収することができる。

第5章 役員

第13条 役員の種類と定数

本会に次の役員を置く。

1. 会長 1名
2. 副会長 若干名
3. 理事 若干名
4. 監事 3名以内

第14条 役員を選出

1. 会長、監事は選挙規則に従い、評議員会において正会員の中から選出する。但し、監事は他役員を兼任できない。
2. 副会長、理事、委員は会長が指名する。
3. 理事の内、1名を専務理事、若干名を常務理事とする。

第15条 役員の仕事

1. 会長は本会を代表し、会務を総理する。
2. 会長は総会、評議員会、理事会、委員会、地区会長会議を招集する。
3. 会長は、理事会の決議を要する事柄でありながら、緊急必要事項については専決することができる。但し、後日理事会へ報告しなければならない。
4. 副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時または欠けた時は会長の職務を代行する。
5. 専務理事は、会長の旨を受け会務を掌理し、会長及び副会長共に事故ある時または欠けた時はその職務を代行する。
6. 常務理事は、会長の旨を受けその担当業務を掌理して専務理事を補佐する。
7. 各前号に定める以外の理事は、会長の旨を受けて会務を分掌して会長を補佐する。
8. 監事は本会の業務と会計を監査し、評議員会、総会に報告しなければならない。

第16条 役員任期

1. 会長、監事及び役員、委員の任期を2年とする。但し、再任を妨げない。
2. 役員は任期満了後も、後任が選出されるまでは、その職務を行う。

第17条 役員補充

副会長、理事の欠員が生じた時は、本会会則5章第14条に従い補充することができる。その任期は前任者の残留任期とする。

第18条 顧問

本会は、顧問を置くことができる。顧問は会長が推薦し委嘱する。顧問の任期は、委嘱した会長の在任期間とする。

第6章 評議員

第19条 評議員

1. 本会に評議員を置く。
2. 評議員は第13条で規定する役員と兼ねることができない。

第20条 選任等

1. 評議員は正会員で地区会、学内同窓会より選出される。

2. 評議員の選任数は、地区会、学内同窓会における1月末日現在の本会会員50名までに対して1名、50名を超える場合は、50名までごとに1名の割合で加えた数の評議員を上限として選出するものとする。
3. 地区会、学内同窓会は評議員に変更がある場合は、速やかに本会に報告しなければならない。
4. 評議員の任期は2年とし、選任された年の4月1日に始まる。

第21条 職務及び権能

1. 評議員は評議員会に出席し、地区会、学内同窓会の同窓会会員の意見を反映させると共に、その決定事項を地区会、学内同窓会の同窓会会員に報告しなければならない。
2. 評議員は、評議員会で会則その他の規定で定められていることを審議し、又は、本会の目的、事業について意見を述べることができる。

第22条 職務代理及び代行

評議員に事故ある時または欠けた時は、当該地区より評議員会の議長宛に委任状を提出するか、または当該地区より代理人は書面をもって指定し届ける事とする。代理人は、評議員と同等の権利と義務を有する。

第7章 会 議

第23条 会議の種類

本会の会議は、総会・評議員会・常務理事会・理事会・委員会・地区会会長会議とする。但し、会長は必要に応じ会議を開催することができる。

第8章 総 会

第24条 構成・種別及び開催等

1. 総会は正会員を以って構成し、議決、報告及び承認する。
2. 総会は定時総会と臨時総会とする。
3. 定時総会は毎年1回原則として5月に開催する。
4. 臨時総会は、会長が必要と認めた場合に開催する。

第25条 招 集

1. 評議員の3分の2以上又は監事から、臨時総会の招集の要求があった場合は、会長はできるだけ早く臨時総会を招集しなければならない。
2. 会長は総会を招集しようとする時は、事前に日時、場所及び会議の目的を示した書面を以って会員に知らせなければならない。

第26条 総会の権能

総会では、次の事項を承認又は議決し会員へ報告しなければならない。

1. 評議員会の決議承認事項
2. 会務全般にわたる事項
3. その他、総会において必要と認めた事項

第27条 議長及び副議長

総会の議長及び副議長は出席正会員の中から選出する。

第28条 委任規定

議事規則は、別に定める。

第9章 評 議員 会

第29条 構成・種別及び召集

評議員会は評議員を以って構成する決議機関である。

1. 評議員会は定時評議員会と臨時評議員会とする。
2. 定時評議員会は総会開催前に会長が招集する。
3. 臨時評議員会は会長が必要と認めた時、あるいは全評議員の4分の1以上の要求があった時に招集する。
4. 評議員会は、委任状を含む全評議員の3分の2以上の出席で成立する。

第30条 意見陳述

役員は評議員会に出席して意見を述べるができるが、表決に加わることはできない。

第31条 評議員会の権能と総会への上程

評議員会では次の事項を行い承認又は議決を経てこれを総会へ上程する。

1. 会則及び諸規則改正の審議
2. 会長選出
3. 前年度会計報告の審議並びに承認

4. 前年度会務及び事業報告の審議並びに承認
5. 新年度予算案の審議並びに承認
6. 役員承認
7. 入会金、会費及び負担金の金額並びに徴収方法の決定
8. 本会の目標達成に必要な事業で経費を要するものの承認
9. その他の必要と認める事項

第32条 議長及び副議長

評議員会の議長及び副議長は評議員で互選する。

第33条 委任規定

議事規則は別に定める。

第10章 常務理事会

第34条 常務理事会の構成

常務理事会は、会長、副会長、専務理事、常務理事を以って構成し会長が随時必要な場合にこれを招集する。

第35条 権能

常務理事会は、常務会務並びに緊急を要する会務に関することを執行する機関であり、会長がこれを招集する。

1. 常務理事会で処理した事項は、理事会に報告しなければならない。

第11章 理事会

第36条 理事会の構成及び招集

1. 理事会は、本会の会務全般を執行する機関であり、会長がこれを招集する。
2. 理事会は、会長、副会長、専務理事、常務理事、理事、委員を以って構成し、会長が随時必要な場合にこれを招集する。

第37条 理事会の権能

理事会は本会の業務に必要な事項の審議を行う。

1. 総会及び評議員会の招集に関する事項とこれに付議する事項
2. 会費の減免に関する事項
3. その他本会の運営業務執行に関する事項

第38条 監事の権能

監事は随時出席して意見を述べることができるが表決に加わることはできない。

第12章 委員会

第39条 委員会

1. 会長は、必要に応じて理事会の同意を得て、委員会を置くことができる。
2. 委員会は、理事会の議を経て会長が委嘱した委員で構成する。
3. 委員会の種類、構成、活動は必要に応じ理事会で決定する。
4. 会長は随時必要な場合にこれを招集することができる。

第40条 委員会の事業

委員会は、会務処理の円滑を図るため次の事業部を置き、常務理事が各委員会を統括する。

1. 総務
2. 福祉厚生
3. 組織
4. 広報
5. 学術
6. 企画・情報
7. 会計

第41条 臨時委員会

1. 会長は、特別な行事及び重要な問題が生じた時に理事会の承認を経て臨時委員会を設置することができる。
2. 会長が委員長を指名し、会長及び委員長が必要に応じ委員を選任する。

第42条 特別委員会

1. 会長は、特別な行事及び重要な問題が生じたときに評議員会の承認を経て特別委員会を設置することができる。
2. 会長が委員長を指名し、会長及び委員長が必要に応じ委員を選任する。

第13章 地区会会長会議

第43条 地区会会長会議

本会議は、会長が必要と認めるとき随時開催することができる。

第14章 選挙管理委員会

第44条 選挙管理委員会

1. 本会に選挙管理委員会を置く。
2. 選挙管理委員会は、選挙管理委員をもって組織する。
3. 選挙管理委員会の構成及び任務その他必要なことは、選挙規則で定める。

第15章 会計及び財産

第45条 会計年度

本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第46条 財産の構成

本会の財産は、次にあげるものをもって構成する。

1. 入会金
2. 年会費
3. 寄付金
4. 前年度の繰越金
5. その他の収入

第47条 財産の管理

本会の財産は、会長が代表としてこれを管理し、毎年その状況を評議員会、総会で報告しなければならない。

第48条 経費の支弁

本会の経費は、財産をもって支弁する。

第49条 委任規定

本規則に定める以外の財産の管理及び会計に関する規則は別に定める。

第16章 賞 罰

第50条 表彰

会員で本会に功労のあった者、及び医療界に貢献した者は、評議員会の議決によって表彰することができる。

第51条 処 罰

会員で本会の目的趣旨に反し、またはその体面を汚したものは総会の議決によって適当な処置を講ずる。

第17章 会則の改正

第52条 会則の改正

本会則の改正には、評議員会及び総会において出席者の3分の2の賛成を以って議決されることを要する。

〔附 則〕

1. この規則は平成16年5月29日から施行する。
2. この規則は平成20年5月24日から施行する。
3. この規則は平成23年5月28日から施行する。
4. この規則は平成26年4月1日から施行する。

福岡歯科大学同窓会地区会設置規則

第1条 本規則は本会会則第1章第2条第3項により定める。

1. 地区会は、地区会会長を選出できる。
2. 地区会に都道府県同窓会を置くことができる。

第2条 地区会の目的

1. 会務運営の円滑を期するため地区会を置く。
2. 地区会は当該地域内の都道府県同窓会、本部同窓会及び母校の発展に関する協議を行う機関とする。

第3条 地区会、都道府県同窓会の設置

各地区においては下記のように7地区（ブロック）に分割し地区の中に都道府県同窓会を置く。但し、福岡県に限っては4分割設置し、関東地区においてはこの限りでない。

福岡県地区会

（福岡県東、福岡県西、福岡県南、福岡県北）
同窓会

九州地区会

（長崎県、佐賀県、熊本県、大分県、宮崎県、
鹿児島県、沖縄県）同窓会

中国地区会

（山口県、広島県、島根県、鳥取県、岡山県）
同窓会

四国地区会

（愛媛県、高知県、香川県、徳島県）同窓会

近畿地区会

（兵庫県、大阪府、京都府、奈良県、滋賀県、
和歌山県）同窓会

中部地区会

（福井県、岐阜県、愛知県、三重県、石川県、
富山県、長野県、静岡県）同窓会

関東地区会

（関東以北の都道府県を含む）

第4条 地区会の任務

1. 地区会は評議員を選出する。

2. 地区会は次の事項を本会に届けなければならない。

- （1）役員の名簿
- （2）会員の異動
- （3）会員の死亡、若しくは不慮の災害が生じた場合

第5条 地区会会長

地区会会長は、地区会から選出し、本部長が指名する。

地区会会長は地区会を代表して次の任務を行う。

1. 地区会会長は地区の同窓会会員を掌握し、その融和と親睦を図る。
2. 地区会会長は本部との連絡を密にし、地区会の決定事項、実施した事項及び本会本部に対する要望事項、その他必要な事項を本部長に報告しなければならない

第6条 都道府県同窓会会長

都道府県同窓会会長は、都道府県同窓会会員から選出し、本部長が指名する。

都道府県同窓会会長は都道府県同窓会を代表して次の任務を行う。

1. 都道府県同窓会会長は都道府県同窓会会員を掌握し、その融和と親睦を図る。
2. 都道府県同窓会会長は地区会、本部との連絡を密にし、都道府県同窓会の決定事項、実施した事項及び地区会、本部に対する要望事項、その他必要な事項を地区会会長に報告しなければならない。

〔附 則〕

1. この規則は平成16年5月29日から施行する。
2. この規則は平成20年5月24日から施行する。
3. この規則は平成26年4月1日から施行する。

福岡歯科大学同窓会学内同窓会規則

第1条 本規則は本会会則第1章第2条第3項により定める。

1. 学内同窓会は、学内同窓会会長を選出することができる。

第2条 組織

1. 学内同窓会は、福岡歯科大学（大学院を含む）を卒業（修了）したもの、準会員及び学内勤務会員で組織する。

第3条 学内同窓会の目的

1. 会務運営の円滑を期するため学内同窓会を置く。
2. 学内同窓会は、本部同窓会及び母校の発展に関する協議を行う。

第4条 学内同窓会の任務

1. 学内同窓会は評議員を選出する
2. 学内同窓会は次の事項を本会に届けなければならない。
 - (1) 会員の名簿
 - (2) 会員の異動
 - (3) 会員の死亡、若しくは不慮の災害が生じた場合

第5条 会員

学内同窓会正会員

本会正会員で学校法人福岡学園勤務の者。

準会員

本会の準会員

第6条 学内勤務会員

学校法人福岡学園に5年以上勤務で、学内同窓会会長が推薦し本部理事会の議決を得て、会長が指名した者で、会費は正会員に準ずる。但し、正会員としての権能を有しない。

第7条 学内同窓会会長

学内同窓会会長は、学内同窓会会員から選出し本部の会長が指名する。学内同窓会会長は学内同窓会を代表して次の任務を行う。

1. 学内同窓会会長は学内同窓会会員を掌握し、その融和と親睦を図る。
2. 学内同窓会会長は本部との連絡を密にし、学内同窓会の決定事項、実施した事項及び本会に対する要望事項、その他必要な事項を本部長に報告しなければならない。

〔附 則〕

1. この規則は平成26年4月1日から施行する。

福岡歯科大学同窓会総会議事規則

第1章 会議の開閉

第1条 この規則は、本会会則第8章第28条に基づいて定めるものとする。

第2条 議事日程に記載した事項の議事が終わったときは、議長は散会を宣告する。会議を終わらない場合でも、議長は、過半数の賛成を得て延会又は散会をすることができる。

第3条 議長が会議を宣告する前、又は散会若しくは延会を宣告した後は、何人も議事について発言することはできない。

第4条 議事日程には、会議の日時及び会議に付する事項並びにその順序を記載しなければならない。

第2章 議 事

第1節 審 議

第5条

1. 審議中発言せんとする会員は、手を挙げ議長の許しを得て発言しなければならない。
2. 二人以上発言を求めたときは、議長はその発言の順序を決めることを要する。

第6条 すべての問答は、議長に向かってしなければならない。

第7条 一議案の審議中は、他の議案について発言することはできない。

第8条 発言は、個人の事柄にわたってはならない。

第9条

1. 会員が発議しようとするときは、その理由を付し、建議を添え、5人以上の賛成者とともに連署して会議の2週間前までに会長に提出しなければならない。
2. 動議は、5人以上の賛成者を得て提出することができる。
3. 議長は、第1項・第2項に規定する発議及び動議について議場に諮り、出席者の過半数の賛成を得た場合、これを議題とすることができる。

第2節 決 議

第10条 出席者は特別の理由がない限り、可否いずれかの数に加わらなければならない。

第11条 議長表決をとるときは、表決に附する事項を明らかにしなければならない。議長表決に附する事項を宣言した後は、何人も議案について発言することはできない。

第12条 賛否は出席者の過半数で決める。賛否を決める方法は、議長が適宜決める。賛否が同数のときは議長が決める。

第13条 修正案は、原案より先に賛否を決めなければならない。同一の議案について数個の修正案が提出された場合は議長が採決の順序を決める。その順序は、原案に最も遠いものから先に採決する。

第14条 修正案が全部否決されたときは、原案について賛否を決める。

第15条 修正案及び原案が共に過半数の賛成を得なかった場合は、委員会を設置して更に修正案を提出させることができる。

第16条 議決の条項中、字句の整理を議長に委任することができる。

第17条 討論終結及び散会、休憩の合議は、討論を用いなくて議長が決める。

第18条 議長は、議事を妨げると認めるものがあるときは、退場を命ずることができる。

第19条 議長は、議事整理のためやむを得ないときは出席者の発言を止め又は中止することができる。

第3章 議 事 録

第20条 議事録には次の事項を記載する。

1. 総会の名称と開会の年月日時
2. 出席者の氏名
3. 会議に附した議案の題目
4. 議題となった動議及び発議者の氏名
5. 議決事項
6. 賛否の数を計算したときはその数
7. 議長において必要と認めた事項

第21条 議事録は、議長の指名した会員2人がこれに署名捺印しこれを本会に保管する。

〔附 則〕

1. この規則は平成16年5月29日から施行する。
2. この規則は平成26年4月1日から施行する。

福岡歯科大学同窓会評議員会議事規則

第1章 総 則

第1条 趣 旨

この規則は、本会会則第9章第33条に基づいて定めるものとする。

第2条 氏名点呼

開議の時刻に至るときは、執行部はその席に着き、出席評議員の氏名を点呼する。

第3条 会議の開閉

1. 議長は、前条による氏名点呼の結果、定足数に達していることを確認したときは、開会を宣言する。
2. 会議の閉会は議長が宣言する。

第4条 欠席の届出

1. 評議員が欠席しようとするときは、予め議長に委任状と共に届けなければならない。
2. 評議員は、出席できないときは、その職務を代理する代理人を議長に届け出なければならない。

第2章 議 事

第5条 議題の宣言

議長は、会議に付する案件を議題とするときは、その旨を宣言する。

第6条 一括議題

議長は、必要があると認められるときは、2件以上の案件を一括して議題とすることができる。

第7条 案件の説明と質問

会議に付する案件は会議において提出者の説明を聞き、質問がある時は質問を行わせ、質問が終わった時は討論に付しその終結の後、表決に付する。

第8条 議決案件の条項、字句及び数字等の整理評議員会は、議決の結果生じた条項、字句、数字、その他の整理については議長に委任することができる。

第3章 発 言

第9条 発言の許可等

1. 評議員が発言しようとするときは、挙手により議長を呼び自己の地区名と姓名を告げ、議長の許可を得なければならない。
2. 2人以上の挙手により発言を求めたときは、議長は先に挙手をした者と認めた者を指名して発言させる。
3. 評議員の発言は、すべて議長に向かってこれをなさなければならない。

第10条 発言内容

1. 発言はすべて簡明を旨とし、重複を避け、議題外にわたり又はその範囲を超えてはならない。
2. 議長は、その発言が前項の規定に反すると認めるときは注意をし、なお従わないときは発言を禁止することができる。
3. 評議員は、議題になっている案件に限り、質問をすることができる。

第11条 発言時間

1. 議長は、必要があると認めるときは予め発言時間を定めることができる。
2. 前項により、発言時間の定めをした場合に、評議員の発言がその予定時間を超えたときは、議長は注意し、又は発言の中止を命ずることができる。

第12条 議事進行に関する発言

1. 議事進行に関する発言は、議題に直接関係あるものについて、又は議事進行上の問題について、質問し、注意し、又は希望を述べるものでなければならない。
2. 議事進行の発言が、その趣旨に反すると認めるときは、議長は直ちに制止しなければならない。

第13条 議長の発言及び討論

1. 議長が討論しようとするときは、案件朗読後評議員席に着き代理者を議長席に着かせなければならない。

2. 議長が討論したときは、その議題の表決が終わるまで議長席に復することができない。

第14条 質疑又は討論の終結

質問又は討論が終わったときは、議長はその終結を宣告する。

1. 発言が尽きないときは、評議員から質疑又は討論終結の動議を提出することができる。
2. 前項の動議が提出されたときは、議長は直ちに表決しなければならない。

第4章 議 決

第15条 表決事項の宣告

議長は、議決しようとするときは、議決に付する議案又は動議の内容を宣告しなければならない。

第16条 挙手による表決

表決は、挙手により議長はその多少を認定して可否を宣告する。

第17条 修正案の採決の順序

1. 修正案は、原案より先に採決しなければならない。
2. 同一の議案について数個の修正案が出された場合は、議長が採決の順序を定める。
その順序は原案に最も遠いものから採決する。
3. 修正案がすべて否定されたときは、原案について採決しなければならない。

第5章 発議と動議

第18条 発 議

評議員会において評議員が議案を提出しようとするときは、提案理由を付し、5人以上の賛成者とともに連署して、開催日の2週間前までに会長に提出することができる。

第19条 動 議

動議は、5人以上の賛成者を得て提出することができる。

第6章 議 事 録

第20条 議事録の作成

議長は、評議員会の会期ごとに議事録を作成しなければならない。

第21条 議事録署名人

議事録は、議長及び当日議長の指名した出席評議員2名がこれに署名捺印し、これを本会に保管する。

〔附 則〕

1. この規則は平成16年5月29日から施行する。
2. この規則は平成26年4月1日から施行する。

福岡歯科大学同窓会監査規則

第1章 総 則

第1条 本会会則第5章第15条第8項の規定に基づいて監事が行う監査は、この規則に定めるところによる。

第2条 監査は会務運営と財産管理の全般について、その実態を正確に把握し運営の合理化と業務の改善に資すると共に過誤を防止し、財産の保全を図ることを目的とする。

第3条 監事は、前条の目的を達成するため経理の適正と財産の保全の監査を行う。

第4条 監査は、公平不偏なる態度をもって事実に基づいて行い、想像推察によって事象を判断してはならない。

第2章 監査の方法・種別及び時期

第5条 監査の方法は、書類監査と実地監査とする。

第6条 監査の種別は、定時監査と臨時監査に分かれ、次の各号によることとする。

(1) 定時監査は年1回、4月に行う

(2) 臨時監査は必要と認めた場合

第7条 実地監査は年1回以上行うものとする。

第8条 監事は監査を実施するために役員又は事務局に対し、帳簿、諸報告書及び諸統計その他必要な資料の提出を命じ、又は事実の説明その他監査に必要な事項を要求することができる。

第9条 監査は、書類、帳簿、証拠書類等の記録に基づき、突合わせ、分析、実査、質問、立会い等必要と認める監査手段を選択適応して実施する。

又、監査手段の選択適応については、その重要性、範囲、日数、効果等を勘案して決定する。

第3章 監査報告

第10条 監事は、監査の都度、監査報告書を次により作成し、会長に提出するとともに、評議員会及び総会に監査の実地状況及び結果などを総括し、文書により報告するものとする。

第11条 会長は監査の結果に基づき対策及び措置を必要とするときは、速やかに理事会にはかり措置するものとする。

第12条 監事の監査報告書は、本会の運営管理全般に関し、有効な改善を計るための重要な資料とするものである。

第4章 補 則

第13条 役員任期満了の年の年度会計決算書の監査は、新任監事で行い、旧監事が立会いするものとする。

〔附 則〕

1. この規則は平成16年5月29日から施行する。
2. この規則は平成26年4月1日より施行する。

福岡歯科大学同窓会財産管理及び会計規則

第1章 総 則

第1条 趣 旨

この規則は本会会則第47条に基づいて定めるものとする。

第2条 財産管理及び会計の責任者

1. 財産管理及び会計の最終責任者は、会長とする。
2. 会長は、財産管理及び会計について直接的責任を会員に対して負うものとし、会計担当役員がこれを補佐する。

第3条 予算統制

本会のすべての収入及び支出は、予算に基づいて統制を行う。

第4条 予算期間

予算は単年度予算とする。

第5条 予備費の設置

1. 不時の支出に充てるため予備費を設けることができる。

第6条 決算剰余金の次年度繰越

各会計年度において決算上剰余金を生じたときは、次年度に繰り越すものとする。

第2章 財産の管理

第7条 会計の資金区分

本会の会計は、次の資金区分による。

(1) 一般会計資金

本会の経常的な事業活動に使用される資金

(2) 積立会計資金

引当資金としての積立資金

(3) 別途会計資金

別途の事業資金

第8条 会計相互間の貸借の禁止

各会計相互間の貸借を禁ずる。ただし、評議員会の承認を得た場合はこの限りではない。

第9条 運用収益金

各会計の運用収益金は、各会計に繰り入れるものとする。

第10条 寄付金品の使途

使途を決めて寄付された金品はその使途に用

い、決められていないものは評議員会に諮って使途を決める。

第11条 取引銀行・有価証券・固定資産

1. 次の事項は、会長が理事会の議を経て行う

- (1) 取引銀行の新設及び変更
 - (2) 有価証券（電話債券を除く）の取得、売却、貸付、入質
 - (3) 固定資産の購入、改良、売却、除去、賃借、入質
2. 前項の規定にかかわらず、次の事項は評議員会の承認を要する。

(1) 多額の積立金の取引銀行の新設及び変更

(2) 不動産の購入、改良、売却、除去、賃借、入質

第12条 金銭の定義

1. この規則で金銭とは、現金、預金および合同運用信託をいい、現金とは通貨のほか、小切手、郵便為替証書、振替貯金証書などをいう。
2. 公社債、債権などの有価証券及び手形は金銭に準ずるものとして扱う。

第13条 資金の範囲

本会において資金の範囲とは、次に掲げるものとする。

- (1) 第12条に規定する金銭
- (2) 短期間において入金或いは支払うべきことが確実な、未収、未払金等の債権債務

第14条 固定資産の定義

1. この規則で固定資産とは次に掲げるものをいう。ただし、時の経過によりその価値を減少する償却資産については、耐用年数が1年以上で1単位当たり取得価格が償却資産課税額のものを用いる。

(1) 有形固定資産

土地、建物（建物付属設備含む）・構築物・備品（機械装置、車両運搬具、器具含む）

(2) 無形固定資産

借地権・施設利用権・電話加入権など

2. 第1項の規定にかかわらず、次に掲げる資産は、会計書類上固定資産として仕訳する。

(1) 長期預託を目的とした預金・合同運用信託、

長期保有を目的とした有価証券など。

第15条 固定資産の取得価格

固定資産の取得価格は次の各号による。

- (1) 購入によるものは、購入価格に付帯費用を加算した金額
- (2) 交換によるものは、交換に際し提供した物件の帳簿金額
- (3) 贈与によるものは、評価額

第16条 物品の定義

この規則で物品とは、事務用品等で耐用年数1ヶ月以上で、1単位当たり取得価格が5千円以上、償却資産課税額未滿のものをいう。

第3章 会 費

第17条 入会金及び年会費

正会員、準会員、勤務会員の入会金及び年会費は次のとおりとする。

1. 入会金 30,000円
2. 年会費 10,000円

第18条 支払方法

1. 本会所定の入会金、会費並びに負担金は所属の地区会支部同窓会を経由して本会に支払わなければならない。但し、所属の地区会支部同窓会を経由することが困難な場合には、直接本部に会費を支払うことを妨げない。
2. 準会員、勤務会員は、本会所定の入会金を本会に支払わなければならない。

第4章 会費の減額及び免除

第19条 会費の免除

1. 本会の会員にして、通算40年を経過し、本会則第2章第7条第1項の義務を果たしているものについては、当該所属地区会支部同窓会長の報告により理事会の承認を経て、その会費を全額免除する。
2. 臨床研修会員は、年会費は正会員の2分の1とし、入会金は免除とする。
3. その他の特別会員・名誉会長・名誉会員は、会費、入会金は徴収しない。
4. 前項のほか会員のうち特別な事情ある者に対しては、理事会の決定により、会費を減免することができる。

第5章 予算の編成と執行

第20条 予算編成

予算編成は、会長が理事会の議を経てこれを行う。

第21条 予算科目

1. 予算は、収支の性質、目的に従い、款、項の科目に区別する。
2. 予算科目は、事業計画との関連を明瞭に表示する名称を用いる。

第22条 予算の補正

規程予算の変更を必要とするときは、会長は理事会の議を経て予算の補正を行い、評議員会の承認を求める。

第23条 款相互間の流用の禁止

予算の執行にあたって、各款の予算金額は、相互に流用してはならない。

第24条 予算執行上の理事会付議事項

次の事項は、会長が理事会の議を経て行い、次の評議員会で報告する。

- (1) 同一款内における各項の予算の流用
- (2) 緊急の必要にもとづく軽微なる予算の変更

第6章 決 算

第25条 決算の作成時期

会長は、毎会計年度終了後2ヶ月以内に会計担当役員に決算書類の作成を求め、会長に提出する。

会長は理事会でこの決算書類を審議、監事の認証を得て、評議員会及び総会の承認を求める。

第7章 補 則

第26条 委 任

この規則の施行についての必要な事項は、会長が理事会の議を経て定める。

〔附 則〕

1. この規則は平成16年5月29日から施行する。
2. この規則は平成24年5月26日から施行する。
3. この規則は平成26年4月1日から施行する。

福岡歯科大学同窓会福祉共済規則

第1章 総 則

第1条 この規則は、本会会則第1章第4条第2項に基づいて規定する。

第2条 本共済は、福岡歯科大学同窓会会員を以って組織し、会員相互扶助の精神に基づき、福祉厚生をはかることを目的とする。

第3条 前述の目的達成の為、次のことを行う。
弔慰金、慰労金、会員の療養、火災、天災その他、福祉厚生に関して必要な給付を行う。

第2章 給 付

〈給付〉

第4条 給付の有無並びに支給額は理事会において決定する。

〈弔慰金〉

第5条 会員死亡に対しては弔慰金、弔花、弔電を贈る。但し5万円を上限とする。

第6条 名誉会員および特別会員の死亡に対しては弔慰金、弔花、弔電を贈る。

〈会員の療養〉

第7条 会員が入院加療の場合は次の通りとする。
(入院後2ヶ月以内に都道府県同窓会会長を通して診断書を本部に提出)

イ. 1ヶ月以上 3万円

〈火災〉

第8条 火災見舞金は、次の通りとする。(火災発

生後6ヶ月以内に都道府県同窓会会長を通して本部に通知)

イ. 全焼又は総面積の50%以上 3万円

ロ. 総面積の50%未満 2万円

〈天災、その他〉

第9条 水害等の天災に対する見舞金は、次の通りとする。(災害発生後6ヶ月以内に都道府県同窓会会長を通して本部に通知)

イ. 全壊又は総面積の50%以上の破壊 3万円

ロ. 床上浸水又は総面積の50%未満の破壊 2万円

〈会長先決〉

第10条 会長は、緊急必要事項については応急の処分をすることができる。但し、後日理事会への報告が必要である。

〈会則改正〉

第11条 本共済の規則改正は理事会の承認を経て改正される。

〔附 則〕

1. この改正規則は、昭和59年5月より施行する。
2. この改正規則は、昭和61年5月より施行する。
3. この改正規則は、昭和63年5月より施行する。
4. この改正規則は、平成2年5月より施行する。
5. この改正規則は、平成10年5月より施行する。
6. この改正規則は、平成19年5月より施行する。
7. この規則は、平成22年5月29日より施行する。
8. この規則は、平成26年4月1日より施行する。

福岡歯科大学同窓会選挙規則

第1条 趣 旨

この規則は、本会会則第5章第14条第1項に基づいて定めるものとする。

第2条 選挙方法

選挙管理委員会が評議員会に委嘱する。

第3条 選挙管理組織

1. 選挙管理委員長を同窓会会長が指名し、評議員会の承認を得る。
2. 選挙管理委員長は選挙管理委員を若干指名することができる。

第4条 選挙管理委員長の任期

任期は2年とする。

第5条 選挙権

福岡歯科大学同窓会の評議員とする。

第6条 被選挙権

1. 福岡歯科大学同窓会正会員とする。
2. 重複立候補の禁止
候補者は会長と監事の重複立候補はできない。
3. 選挙事務関係者の立候補制限
選挙管理委員長、選挙管理委員は、その在職中に候補者となることはできない。立候補する場合は、その職を辞することとする。

第7条 選挙期日

選挙管理委員会が指定する日

第8条 選挙の告示

選挙は選挙期日の2ヶ月前に選挙管理委員会が告示する。

第9条 立候補の届出

選挙の告示から1ヶ月以内に郵送かあるいは文書で選挙管理委員会に届ける。

第10条 立候補の辞退

文書を選挙管理委員会の定める期日迄に選挙管理委員会に届ける。

第11条 当選人

1. 有効投票の最多数を得た者。

2. 得点が同数ならば（最多数同志）決選投票とする。

3. 候補者が定員数以内の場合には、投票を行わず、当該候補者をもって当選人と定める。なお、定員に足りないときには、別段の方法をとることができる。

第12条 当選人決定の告知及び告示

当選人が決定したら、選挙管理委員会は直ちに当選人の住所、氏名及び得票数、各候補者の得票数を会員に報告しなければならない。

第13条 当選の効力発生

当選人の住所、氏名の告示のあった日から生ずる。

第14条 選挙に際しては次の細則をもうける。

1. 選挙運動の期間

立候補の届出より選挙の前日まで。

2. 選挙運動

選挙管理委員会の指示に従う。

3. 選挙立会人

候補者は選挙立会人を1人指名して、前日迄に選挙管理委員会に届け出る。

4. 開票の指定及び告示

選挙管理委員会が指名及び告示する。

第15条 選挙規則の改正

選挙規則の改正は、選挙管理委員会が審議し、評議員会の承認を得るものとする。

〔附 則〕

1. この規約は、昭和54年3月より施行する。
2. この改正規約は、昭和58年5月より施行する。
3. この改正規約は、昭和62年5月より施行する。
4. この改正規約は、平成19年5月29日より施行する。
5. この規則は、平成22年5月29日より施行する。
6. この規則は、平成26年4月1日より施行する。

編集後記

広報理事 三箇 正賢 (18期)

私の行きつけの焼鳥屋はカウンターに4つしか席のない店である。最初のころは、座れずによく断られていた。4つしかないからしょうがないなと思ったものである。ところが、最近はほぼ確実に座れる。それはなぜかというとプラチナ会員になったからである。プラチナ会員の条件は①常連になること②席が補助席でも文句を言わない③極力大将の手間をとらせないである。ジーマなどの瓶は冷蔵庫に取りにいき、ワインのコルクは自分で開けるなんて当然のことである。ひどいときにはキャバ4人のはずが3倍の12人の時もある。

勿論私は立ち飲みとなる。私の焼鳥は後回しとなり、それを補うために焼酎がすすむ。キープ制度がないため、どんどんとお酒で料金がカウントされていく。顔見知り混じっているとワインが入る。焼鳥屋に集まる顔見知りなのでみんな酒豪である。そ



宮城県南三陸へボランティア活動 (2011年)、筆者右端

のためワインが1人一本ずつあいたりもする。焼鳥5本程度しか食べてないのに会計で5,000円を超えることもよくある。すきっ腹で飲んでいるので確実に泥酔である。初見のお客とかとも仲良くなるのであるが、一切記憶がない。

それでも通ってしまう自分がある。それはなぜか。当たり前のことであるが、自分の空気とよくなじんでいるからだ。大将とデルピエロ (元ユベントス) の偉大さから、美人のニューハーフと不細工な女性ならどちらを選ぶかというつまらない話でいつも盛り上がっている。常連同士の若い男女をくつつけたこともある。(今月できちゃった婚で招待された)

なんとなく昭和の角打ちやの雰囲気、誰とでも仲良くなれるのである。あまりの仲のよさのせいか、御主人が今日退職届をだしてやったと大きな声でカミングアウトされ奥さんが茫然となってしまうような現場に立ち会うこともある。なら飲みましようというわけのわからない返して乾杯をする。こんな素敵な焼鳥屋なのである。

よし今日も行こう。

常務理事 廣瀬武尚

今回は、同窓会誌の送付が遅れましたことをお詫び申し上げます。会員の皆様には、できるだけ色々な情報を正確に伝えられるよう努めて参りますので、よりいっそうのご協力の程、よろしく申し上げます。

『背振』 第33号

福岡歯科大学同窓会誌

2015年1月30日発行

発行責任者 宮口 巖

編集責任者 廣瀬 武尚、三箇 正賢

福岡歯科大学同窓会

〒814-0193 福岡市早良区田村2丁目15-1

TEL (092) 863-2966 FAX (092) 863-2967

E-mail dousokai@college.fdcnet.ac.jp

URL <http://www.fdcnet.ac.jp/col/collink/alumnus/index.html>

印刷所 大同印刷株式会社

〒849-0902 佐賀市久保泉町大字上和泉1848-20

TEL (0952) 71-8520代 FAX (0952) 71-8528

広 報 委 員 会

常務理事	廣瀬 武尚 (4期)
理 事	白本 光七 (2期)
〃	佐藤 毅 (3期)
〃	劉 中憲 (14期)
〃	三箇 正賢 (18期)
〃	重富 澄保 (24期)
〃	村上 弘 (31期)
〃	廣松 亮 (32期)
〃	安里 啓 (36期)

企 画 情 報 委 員 会

常務理事	小柳 進祐 (12期)
理 事	田中 靖彦 (12期)
〃	荒瀬 陽一 (12期)
〃	吉岡 和彦 (25期)
〃	田代 剛 (26期)



 **三井住友建設**

<http://www.smcon.co.jp/>

はしも、
まちも、
ひとも。

橋をわたり、街をあるき、大切な人とすごす。そんな日々のくらしがいつまでも続くよう、豊かな未来につながるものづくりに全力で取り組みます。

三井住友建設株式会社九州支店

支店長 緒方 滋

〒812-0036 福岡県福岡市博多区上呉服町 10 番 1 号
TEL 092(282)1371



Veracia SA

【ベラシア SA】

健保適用品 硬質レジン歯



ベラシア SA アンテリア
1組…¥780 1箱16組…¥12,480
管理医療機器
医療機器認証番号 220AKBZX00078000



ベラシア SA ポステリア
1組…¥1,040 1箱12組…¥12,480
管理医療機器
医療機器認証番号 220AKBZX00079000

価格は2014年9月現在の標準医院価格（消費税抜き）

平均値咬合器「ハンディ咬合器IIA型」を使用して排列したベラシアSA（咬合未調整）
※写真は偏心運動をさせているところです。

排列するだけで
バランスドオクルージョンが
得られます。



世界の歯科医療に貢献する

株式会社 松風

●本社：〒605-0983京都市東山区福福上高松町11・TEL(075)561-1112(代)

●支社：東京(03)3832-4366 ●営業所：札幌(011)232-1114/仙台(022)713-9301/名古屋(052)709-7688/大阪(06)6330-4182/福岡(092)472-7595

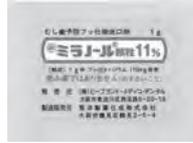
<http://www.shofu.co.jp>

う蝕予防フッ化物洗口剤
MIRANOL

ミラノール顆粒11%

医療用医薬品 劇薬

日本標準商品分類番号
87279



- 低コストかつ手軽にむし歯予防
- 薬剤を水道水で溶かすだけで、簡単に洗口液が出来ます。

キシリトール配合
セチルピリジニウム塩化物水和物(CPC)配合

ミラノール顆粒 11%の量	用法	水の量	洗 口 液		
			フッ化ナトリウム濃度	フッ化物イオン濃度	1mL中のフッ化ナトリウムの量
1包 1g (黄色分包)	毎日法	200mL	0.055%	約 250ppm	0.55mg
1包 1.8g (ピンク色分包)	毎日法	200mL	0.099%	約 450ppm	0.99mg
1包 1.8g (ピンク色分包)	週 1 回法	100mL	0.198%	約 900ppm	1.98mg

集団洗口専用溶解瓶：700mL 専用溶解瓶：200mL

製造販売元 / 東洋製薬化成株式会社 大阪市鶴見区鶴見2丁目5番4号

ミラノール顆粒11%製品ラインナップ



発売元 (株)ビーブランド・メディコーデンタル

本 社 大阪市東淀川区西淡路5-20-19 TEL:(06)6370-4182
東京営業所 東京都千代田区神田錦町1-14(立花日英ビル) TEL:(03)3295-6926

親身の指導を実践する!!

国 試

～クリアする喜びをあなたへ～



歯科国試対策専門校

大阪の **Dr.'s** セミナー

〒561-0872 大阪府豊中市寺内2丁目4番1号(緑地駅ビル3F)

TEL 06-4866-8461 FAX 06-4866-8462

e-mail doctors@tcct.zaq.ne.jp URL http://www.doctors.co.jp

時代は、自動洗浄+クラスBオートクレーブへ

HAKUSUI

「ミーレジェットウォッシャー」で洗浄・除菌して「リサ」で滅菌



温風乾燥機能付
ミーレ ジェットウォッシャー G7891
三相 200V 50・60Hz
外形寸法
幅60×奥行60×高さ82cm(天板無し)
幅60×奥行60×高さ85cm(天板付き)



ミーレ ジェットウォッシャー G7881
三相 200V 50・60Hz
外形寸法
幅60×奥行60×高さ82cm(天板無し)
幅60×奥行60×高さ85cm(天板付き)



ミーレ ジェットウォッシャー G7831
単相 200V 50/60Hz共通
外形寸法
幅45×奥行60×高さ82cm(天板無し)
幅45×奥行60×高さ85cm(天板付き)

Miele 歯科用器具 洗浄/除菌システム
PROFESSIONAL ミーレ ジェットウォッシャー

医療機器製造販売届出番号 13B3X00018000009, 13B3X00018-000011

洗浄/除菌



ミーレ洗浄/除菌

滅菌バッグに
入れて準備
します

Hygiene
Cycle

クラスB
オートクレーブ「リサ」
で滅菌します



滅菌

保管します



治療

定格電圧: AC200V
電源周波数: 50/60Hz
大きさ: 幅445×高さ410×奥行520mm
重さ: 48kg(空の状態)

クラスB オートクレーブ リサ Lisa W&H

医療機器承認番号 22100BZX01084000

白水貿易株式会社 福岡営業所

〒812-0013 福岡市博多区博多駅2-18-30 八重洲博多ビル5F
TEL (092) 432-4618 FAX (092) 432-4617

福岡デンタル販売株式会社

〒813-0034 福岡市東区多の津4-7-5 KNセンタービル
TEL (092) 629-1491 FAX (092) 629-1494

最新設備と努力で、一步先を行く印刷。

伝票印刷



冊子印刷



会社案内
印刷



封筒印刷



挨拶状
印刷



名刺印刷



印刷小物の
プロフェッショナル



ヤマダスピード製版

印刷小物のプロフェッショナル

(有)ヤマダスピード製版

〒815-0031 福岡市南区清水2-10-18

TEL 092-511-5972
FAX 092-511-5977

Win win@yamada-sp.co.jp
Mac mac@yamada-sp.co.jp





KONICA MINOLTA

Giving Shape to Ideas



福岡歯科大学同窓会 会員様向け

コニカミノルタで まとめて解決!!

複合機

コンパクト
タイプ



多機能
高速処理



ワークスタイルに応じた
ラインアップを取り揃えています。

医療機器



訪問診療にも対応、
DMATでの採用実績もあります。

ホームページ 作成サービス



機能的で高品質、
集客に繋がるホームページを作成します。

院内デザイン レイアウト・設計



働きやすさと医院としての形を
考慮したデザインをご提案します。

ワンストップだから
スピーディー
& 安心

院内やオフィスで使う複合機はもちろん、医療の分野でも
お役立ち可能です!まずは、ご相談ください!!

コニカミノルタ ビジネスソリューションズ株式会社

九州支店

第2営業部 直販営業1課
カスタマーリレーション部

●お問い合わせはこちら

TEL. 092-415-3330

〒812-0007 福岡県福岡市博多区東比恵1-2-12
R&Fセンタービル2F

<http://bj.konicaminolta.jp>

薬価基準収載

解熱鎮痛剤

劇薬 カロナール[®]錠500

アセトアミノフェン製剤



発売準備中

効能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む使用上の注意等につきましては、製品添付文書をご参照ください。



製造販売元(資料請求先)

昭和薬品化工株式会社

〒104-0031 東京都中央区京橋2-17-11
<http://www.showayakuhinkako.co.jp>

2014年11月作成(CC)

時代のニーズに答える技術!



総合ビル管理
DKS

株式会社

大興社

〒819-0043福岡市西区野方3丁目1番5号
電話(代)(092)811-2058 FAX(092)811-2458
<http://www.daikousha.jp/index.html>



ISO 9001:2008認証



医療関連サービスマーク認定
G(7)-1206400602



チラシ・カタログ・ポスターから専門書・自費出版物まで、
すぐにお見積り致します。

ワード、エクセルなどのデータを
お客様のイメージそのまま印刷できます。

お気軽にお尋ねください。

大同印刷株式会社

〒849-0902 佐賀市久保泉町大字上和泉1848-20

TEL(0952)71-8520

FAX(0952)71-8528

<http://www.daidou-jp.com>



お一人おひとりの夢実現のために、オーダーメイドという「提案力」。

無担保で、
最高3,000万円。

ドクターズライン
Doctor's Line

持つ方にふさわしいサイズで、
銀行の信用枠(バンクライン)
をご準備ください。
いざというときの實力です。

資金力を備えるお手伝い

ドクターの皆さま専用商品《ドクターズライン》

スルガ銀行は、ドクターの皆さま専用商品「ドクターズライン」をご用意いたしました。

確かな未来を開く「資金力」を備えるお手伝いをいたします。
お使いみちはご自由です。さまざまにお役立てください。

- 医師を志すお子さまの教育資金に。
- ご自身やご家族の夢実現に。
- 更なる飛躍への自己投資に。
- ご利用中のローンのおまとめなどに。

例えば、高額物件
への対応力。

最高3億円の団体信用生命保険の
取り扱いができます。万が一の際に
ローンが完済される安心が、高額の
物件にもセットできます。



DREAM PLAZA

着実な資産形成を目指す方に

オーダーメイドの対応力《収益不動産購入ローン》

資産形成の方法が多様化するなかで、収益物件(賃貸用不動産)が注目されています。
スルガ銀行は、オーダーメイドの不動産購入ローンでさまざまな物件に対応いたします。

- 公的年金を補完する収入を確保して、リタイア後に備えたい
定年退職時までにはローンを完済してしまえば、公的年金の収入補完としての
役割を果たしてくれます。
- お子さまの進学を機に収益物件(賃貸用不動産)を購入したい
成長する子供達の将来的な生活拠点として不動産を取得される等、購入の
動機や目的は様々です。
- 生命保険の代替として検討したい
ご自身が万一の場合にローンが保険金で支払われ、残されたご家族に不動産
物件を遺すことができます。
※保険加入には保険会社の診査が必要となります。

患者さま治療費の
分割払い商品
「デンタルローン」

医院さまの
《売上アップ》
《事務負担軽減》
《加盟店手数料削減》
につながります

貴院の売上アップを応援します。

インプラント、歯科矯正などの治療費に《デンタルローン》

医院さまの初期費用や加盟店契約などはありません。
ローンの事務手続きもご不要です。(パンフレット配布のみ)
銀行の専用ローンで、患者さまの
満足度アップもお手伝いいたします。

デンタルローンの特長

- 患者さまが安心して申し込みできる
「銀行との2者間契約のローン」です。
- 「電話1本で申し込み」「繰上返済OK(手数料不要)」などの利便性もご提供します。
- 既存の院内分割や患者さまのデンタルクレジットの借り換えなど、「自由度の高いご提案」も可能です。
- 原則、「即日審査回答」でお待たせいたしません。

患者さま配布用
《医療費控除特集》冊子
をご提供します。

売上を伸ばされている医院さまは医療費控除の案内を積極的に行っているようです。患者さまへのご案内として、ぜひご活用ください。



スルガ銀行

ドリームプラザ福岡

〒810-0001 福岡市中央区天神1丁目1番1号

TEL 092-771-1313 FAX 092-771-1327



MORE3D SERIES
3次元が倒り出す「優しさ」の進化。



AUGE SOLIO

アーム型X線CT診断装置
認証番号: 224AABZX00077000

すべての人に、
新しい感動を。



■AUGE SOLIO CT (A-mode)



■AUGE SOLIO CT (I-mode)



■AUGE SOLIO FPD/パノラマ



■AUGE SOLIO CMOS セファロ

ニーズに合わせた MORE 3D SERIES のラインナップ



AUGE
アーム型X線CT診断装置
認証番号: 220AABZX00276000



AZ3000CT
アーム型X線CT診断装置
認証番号: 220AABZX00034A01



Alphard
アーム型X線CT診断装置
認証番号: 218AABZX00034000

MORE 3D SERIES 撮影モード

	AUGE SOLIO	AUGE	AZ3000CT	Alphard
CT A-mode	●	●	●*	
CT I-mode	●	●	●	●
CT D-mode	●	●	●	●
CT P-mode	●			●
CT C-mode				●
パノラマ	●	●	●	
セファロ	●	●	●	レイサム
TMJ	●	●	●	
上顎洞	●	●		
手根管	●	●		

*オプションです。

Asahi 私たちの「優しさ」は、進化のために **Gentility, it is for evolution.**

仕様および外觀は、改良のため予告なく変更することがあります。

朝日レントゲン工業株式会社 URL: <http://www.asahi-xray.co.jp> E-mail: sales@asahi-xray.co.jp

本社: 〒601-8203 京都府京都市南区久世築山町376-3 TEL: 075-921-4330 FAX: 075-921-6675
※ 日本国内の各拠点の詳細につきましては、WEBサイトに掲載しております。

ISO 13485 医療機器品質マネジメントシステム認証取得
ISO 9001 品質マネジメントシステム認証取得
ISO 14001 環境マネジメントシステム認証取得



福岡歯科大学同窓会主催
第28回学術講演会

「天然歯保存の可能性を探る」
—エンドとペリオの立場から—

平成27年2月11日(水曜日、祝日)

9:00開場 9:20開演~16:40

福岡県歯科医師会館 5F 大ホール

福岡市中央区大名1丁目12-43 ☎: 092-771-3531



「エンド・ペリオ治療の発展と痛みの制御

—検査・診断の重要性について—

福岡歯科大学口腔治療学講座歯科保存学分野教授

座長 阿南 壽 先生



「そこまでやるか? —Perioはしつこさが命—」

白石歯科医院 院長 白石和仁 先生



「歯の保存か、抜歯をしてインプラントか?」

Tooth preservation or implant placement following tooth extraction?

福西歯科クリニック 院長 福西一浩 先生

詳細 (申込は福岡歯科大学同窓会 HP より)

<http://www.fdcnet.ac.jp/col/collink/alumnus/index.html>

※特に変更のある方お知らせ下さい。

福岡歯科大学同窓会「同窓生名簿」登録届け

卒業期 _____ 期卒 _____ 地区同窓会（所属支部） _____ 性別（男・女） _____

郵送物送り先の希望 → 1. 自宅 2. 勤務先 3. 帰省先

ふりがな
氏名 _____

ふりがな
旧姓 _____

メールアドレスをご記入頂くと、福歯大同窓会メールマガジン（メール配信）よりホットニュースが受けられます。

E-Mail アドレス	メルマガ: 1 希望 2 希望しない (PC・携帯)
	1. 掲載する 2. 掲載しない

名簿掲載を希望しない場合は☑を入れてください

掲載の有無

	住所	〒		
1 自宅	Tel 番号			
	Fax 番号			
	住所	〒		
2 勤務先	勤務先名	(開業・勤務医・教職・大学院・研修医・他)		
	Tel 番号			
	Fax 番号			

以下は名簿に記載されません。特に郵送物を帰省先に指定の方、また、住所等が不明になった時は帰省先に送ることがあります。

帰省先（〒 _____）

電話 _____

fax _____

元所属クラブ _____

(Fax 送信 092-863-2967)

平成17年4月1日より「個人情報の保護に関する法律」が施行されました。福岡歯科大学同窓会では、個人情報取扱事業者の算定には満たないものの、これに準じて皆様の個人情報の保護に努めて参ることが末永い我々の利益になるものと考えております。

福岡歯科大学同窓会における個人情報の取得・利用・保管は、下記のルールに基づいて行っています。皆様におかれましては、同窓会活動にご理解とご協力をいただきますよう、宜しく願い申し上げます。

「福岡歯科大学同窓会における個人情報の取扱」

1. 同窓会事務局に登録される皆様の情報は、氏名／卒業年（期）／自宅住所／自宅電話番号／勤務先／勤務先電話番号です。また、勤務先などが定まっていない若い卒業生においては、帰省先の登録が行われています。その他にメールアドレス、元所属クラブ等といったことが登録されています。
2. 収集した個人情報は、同窓生名簿の作成や同窓会会誌発送時の宛名出力など同窓会活動の付帯業務に使用する事を目的としており、それ以外の利用については、各種委員会並びに同窓会役員会との協議の上、やむ得ない事由に限定して利用いたします。
3. 提供先は、同窓会会員（在校生を含む）福岡歯科大学現・旧職員や広告主とし、原則としてそれ以外に頒布いたしません。尚、広告主様につきましても個人情報保護の観点から、慎重な取り扱いを協定いたします。
4. 収集した個人情報を第三者へ委託並びに再委託する場合は、各種委員会にて業者等を守秘義務履行を基本に選定し、理事会において決定いたします。
5. 収集した個人情報について、委託先も含め、機密保護には万全をつくします。
6. ご自分の情報は、任意です。ただし提供されない場合は、同窓会から各種案内（会誌、大学広報誌、学術案内、同期会等）が出来なくなる場合があります。また、同窓会名簿にも氏名のみ掲載となります。
7. ご自分の情報を照会したい場合は、同窓会事務局までご連絡ください。ご本人であることが確認できた場合に限り開示いたします。その際、ご自分の情報の訂正または削除を希望される場合はそれに応じます。

※この件についてのお問い合わせは下記までお願いいたします。

福岡歯科大学同窓会

福岡市早良区田村2丁目15-1

〒814-0193 TEL092-863-2966

FAX092-863-2967

